



N-VAN e:

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

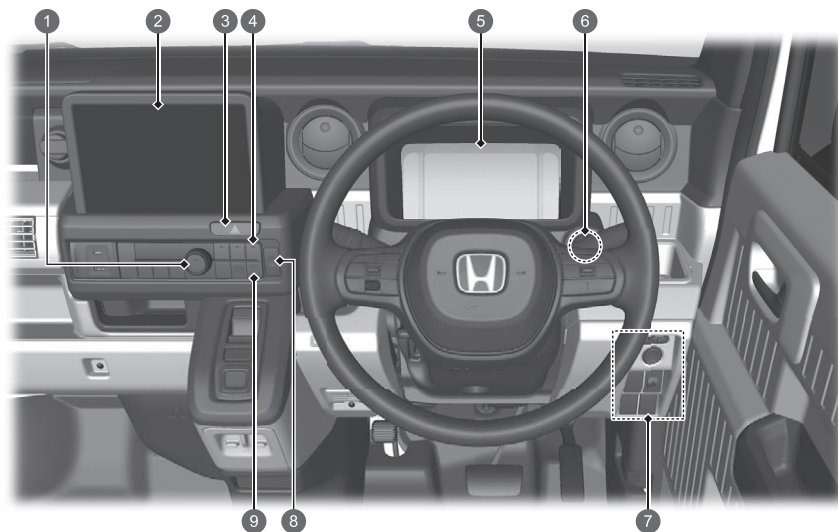
メンテナンス








万一の場合には

資料

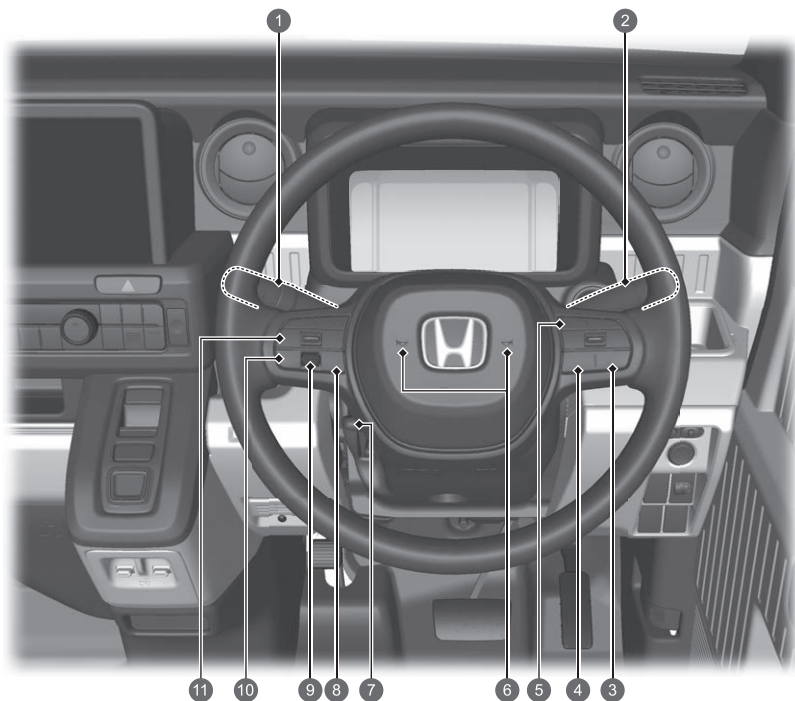
索引

ビジュアル目次



- ① オートエアコン ➡P.202
- ② ナビゲーションまたはオーディオ**
- ③  非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)
- ④  リヤデフロスタースイッチ ➡P.157
- ⑤ メーター ➡P.88
- 警告灯 ➡P.66
- 表示灯 ➡P.80
- インフォメーションディスプレイ* ➡P.92
- マルチインフォメーションディスプレイ* ➡P.97
- 時計 / 日付* ➡P.119
- ⑥ POWER スイッチ ➡P.144
- ⑦ ドアミラー調節スイッチ* ➡P.160
-  ヘッドライトレベリングダイヤル ➡P.151
-  (VSA OFF)スイッチ ➡P.232
-  充電リッドオープンスイッチ* ➡P.209, 339
- ⑧  ECON スイッチ ➡P.229
- ⑨  フロントシートヒータースイッチ* ➡P.192

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

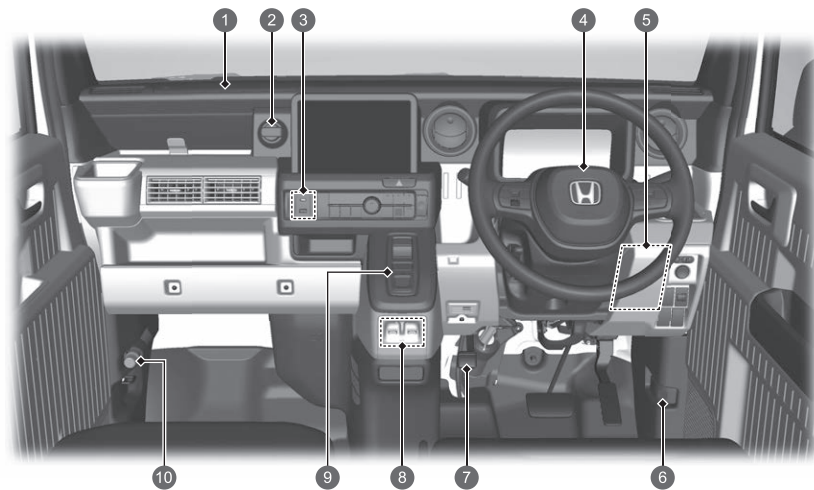


- ① ワイパー/ウォッシャースイッチ ➡P.155
- ② ライト/方向指示器(ウィンカー)スイッチ ➡P.148, 147
- ③ 車線維持支援システム(LKAS)スイッチ* ➡P.297
- ④ ディスタンススイッチ* ➡P.284
- ⑤ スイッチ* ➡P.275
- ⑥ ホーンスイッチ(周辺)
- ⑦ ハンドル位置調節レバー ➡P.158
- ⑧ 発話スイッチ**
- ⑨ レフトセレクターホイール* ➡P.98
- ⑩ スイッチ* ➡P.98
- ⑪ オーディオリモートコントロールスイッチ**

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

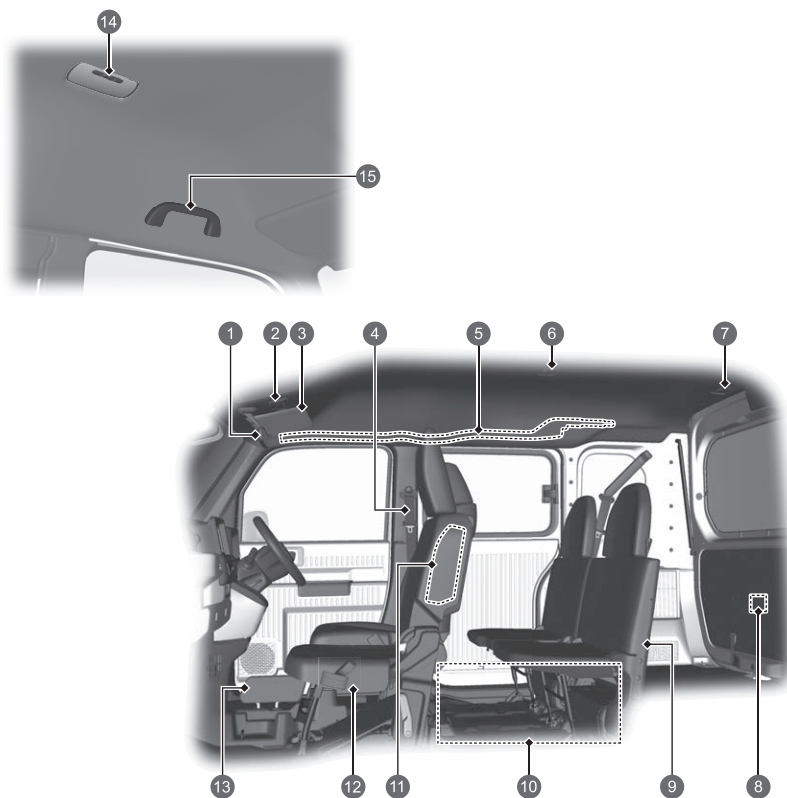
この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次



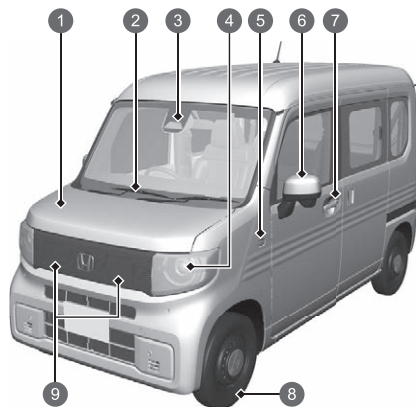
- ① SRS エアバッグシステム(助手席用)* ➡P.42
- ② アクセサリーソケット ➡P.190
- ③ USB ジャック+**
充電専用 USB ジャック* ➡P.191
- ④ SRS エアバッグシステム(運転席用) ➡P.42
- ⑤ 室内のヒューズボックス ➡P.417
- ⑥ ボンネット解除ノブ ➡P.348
- ⑦ パーキングブレーキペダル ➡P.318
- ⑧ パワーウィンドースイッチ ➡P.142
- ⑨ シフトボタン ➡P.224
- ⑩ 発炎筒 ➡P.383

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



- ① ルームミラー ➡ P.159
- ② マップランプ* ➡ P.184
室内灯 ➡ P.183
- ③ サンバイザー
サンバイザーラベル* ➡ P.53
バニティミラー*
- ④ シートベルト ➡ P.31
- ⑤ サイドカーテンエアバッグシステム ➡ P.48
- ⑥ 室内灯* ➡ P.183
- ⑦ カーゴスペース照明灯* ➡ P.184
- ⑧ アクセサリーソケット* ➡ P.190
- ⑨ リヤシート* ➡ P.175
- ⑩ 隔壁バー* ➡ P.174
- ⑪ サイドエアバッグシステム ➡ P.45
- ⑫ フロントシート ➡ P.163
- ⑬ フロアボード* ➡ P.173
- ⑭ 助手席側室内灯* ➡ P.184
- ⑮ グラブレール*

ビジュアル目次



- ① ボンネット内のメンテナンス ➡P.347
- ② ワイパー ➡P.155,361
- ③ フロントワイドビューカメラ ➡P.315
- ④ ヘッドライト ➡P.148,351
車幅灯 / アクセサリーライト* ➡P.148,150,354
ウィンカー ➡P.147,353
- ⑤ ウィンカー ➡P.147,355
- ⑥ ドアミラー ➡P.160
サイドアンダーミラー(助手席側) ➡P.162
- ⑦ ドアの施錠 / 解錠 ➡P.123
- ⑧ タイヤ ➡P.365,384
- ⑨ 高電圧バッテリーの充電 ➡P.330
パワーサプライコネクター* ➡P.196
外部給電のしかた* ➡P.207

- ① スライドドアの開閉 ➡P.139
- ② リヤワイパー* ➡P.156,363
- ③ ハイマウントストップランプ ➡P.357
- ④ アンテナ* ➡P.213
- ⑤ テールゲートの開閉 ➡P.136
番号灯 ➡P.358
- ⑥ リアワイドカメラシステム** ➡P.329
- ⑦ 尾灯 ➡P.357
制動灯 ➡P.357
後退灯 ➡P.356
ウィンカー ➡P.147,356

電気自動車とのつきあいかた



おうちで充電。

電気自動車専用のコンセントから充電をすることができます。

➡ P.335



電気自動車の特徴。

電気を使用してモーターを駆動させて走行します。

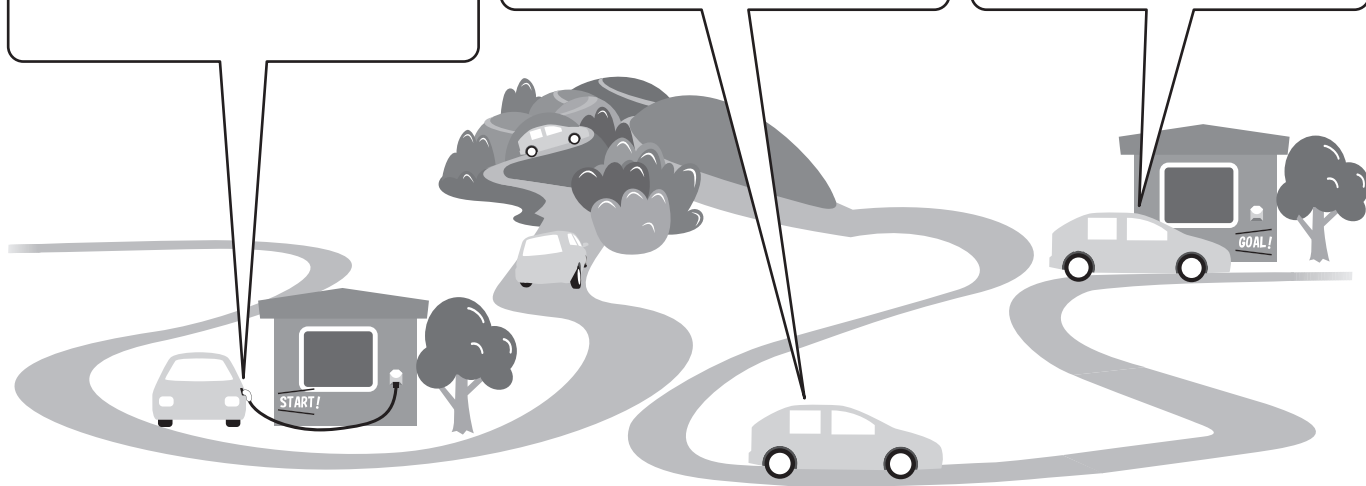
➡ P.6



駐車のかた。

電気自動車の駐車について知っておいていただきたいことがあります。

➡ P.323



※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

この「✦」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

電気自動車の特徴

電気自動車は、ガソリンを使わずに充電された電気によりモーターを駆動させて走行します。

通常のガソリンエンジン搭載車と同じように、この車の電費や航続可能距離は、運転のしかたによって大きく左右されます。また過度なエアコンの使用は、航続可能距離に影響を及ぼします。

この車には、エアバッグ、ライト、アクセサリーを使用するための 12V バッテリーと、モーターの駆動と 12V バッテリーの充電をする高電圧バッテリーの 2 種類のバッテリーが装備されています。

高電圧バッテリーの充電方法

電気自動車専用のコンセントから充電をすることができます。また、公共の充電設備にある急速充電器による充電も可能です。

➡ P.332

Honda Total Care のアプリを使用して、充電に関する設定を行うことが可能です。詳しくは Honda Total Care のホームページをご覧ください。か、Honda 販売店にご相談ください。

電気自動車の注意点

高電圧部位・高電圧配線・高温部位について

電気自動車には、モーター、ラジエーターなどの高温部品や、パワーコントロールユニット(PCU)、高電圧バッテリー、高電圧ケーブル(オレンジ色)などの高電圧システムがあります。これらの高電圧システムには、警告ラベルが張り付けてあります。

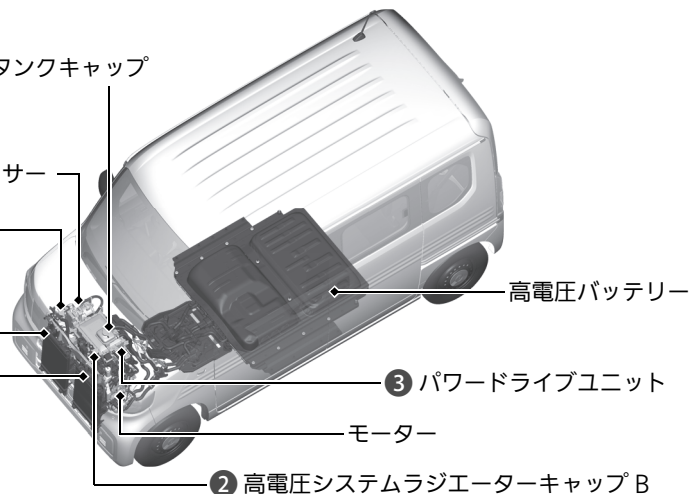
① エアコン冷却水タンクキャップ

エアコンコンプレッサー

② 高電圧システムラジエーターキャップ A

AC 充電リッド

DC 充電リッド



警告

高電圧システムには高電圧回路と高電圧部品があります。注意事項を守らないと、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

●高電圧部品、高電圧ケーブル(オレンジ色)またはコネクタを取り外したり、分解したり、交換したりしないでください。高電圧システムの取り扱い、資格のある技術者のみが行ってください。点検と修理については、Honda 販売店にご相談ください。

警告ラベル

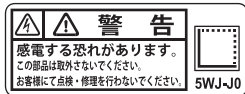
① エアコン冷却水タンクキャップ



② 高電圧システムラジエーターキャップ



③ パワードライブユニット



高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると高電圧バッテリーの充電量は低下します。高電圧バッテリーの充電量が低い状態で放置すると寿命が縮む原因となります。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも3ヶ月に一度充電してください。

バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーが完全に放電または損傷し、パワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

温度について

車両を保管するときは、外気温が極端に低い状態で長期間車両を放置しないでください。高電圧バッテリーの温度が -25°C 以下になると、パワーシステムが起動しません。高電圧バッテリーが温まるのを待つか、けん引などで車両を暖かい場所に移動してください。

メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理、廃車の際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、Honda 販売店にご相談ください。

事故が起きたとき

●感電に注意する

- ▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。高電圧部位やそれらを接続する配線(オレンジ色)には、絶対に触れないでください。

●高電圧バッテリー液に触れない

- ▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。

●火災が発生したら電気火災用消火器を使用する

- ▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。

●Honda 販売店で修理を受ける。

- ▶ 車体が損傷を受けたときは、必ず Honda 販売店で修理を受けてください。

高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

回生エネルギーと回生ブレーキ

減速時または下り坂では、モーターは発電機として働き、加速時に使った電力の一部を回生エネルギーとして取り戻します。

次の場合、車両の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、減速力を得ることができます。

- シフトポジションが **D** または **B** で走行中に、アクセルペダルから足を離れたとき
- シフトポジションが **D** または **B** で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ▶ 満充電時や低温または高温時など、高電圧バッテリーの状態によっては回生ブレーキが作動しない場合や効きが低下する場合があります。

電気自動車特有の音について

エネルギーを回生するために、モーター回生作動音が聞こえます。

また、低速走行でブレーキを踏んだ場合やブレーキシステムが切り換わるときに、ブレーキ装置から音が聞こえることがありますが異常ではありません。

安全なドライブ ▶ P.28

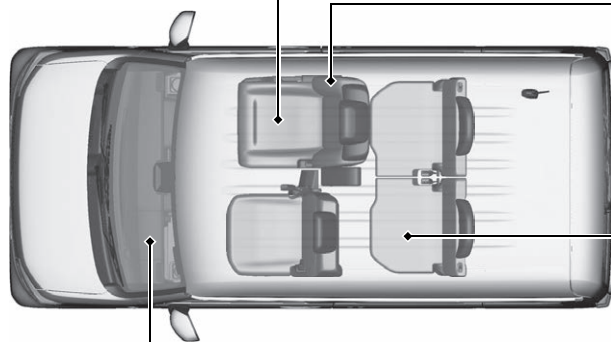
運転を始める前の確認 ▶ P.29

- 運転前に運転席の位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト ▶ P.31



お子さまの安全 ▶ P.53

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。



エアバッグ ▶ P.42

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

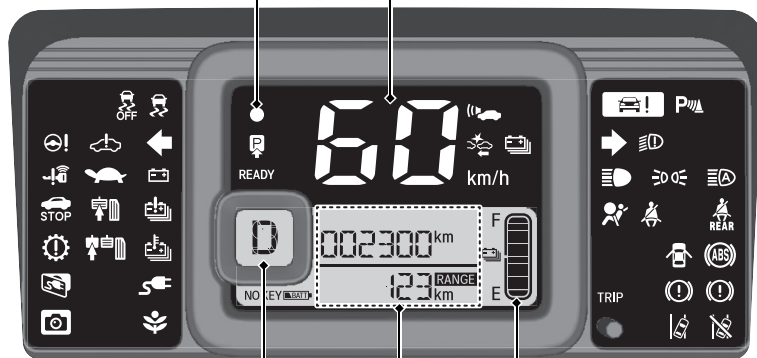
計器の見かた ➡P.63

警告灯 ➡P.66 / 表示灯 ➡P.80 / メーター ➡P.88 / インフォメーションディスプレイ* ➡P.92 / マルチインフォメーションディスプレイ* ➡P.97

インフォメーションディスプレイ 装備車

セキュリティアラームシステム作動表示灯* ➡P.82
(イモビライザーシステム表示灯) ➡P.82

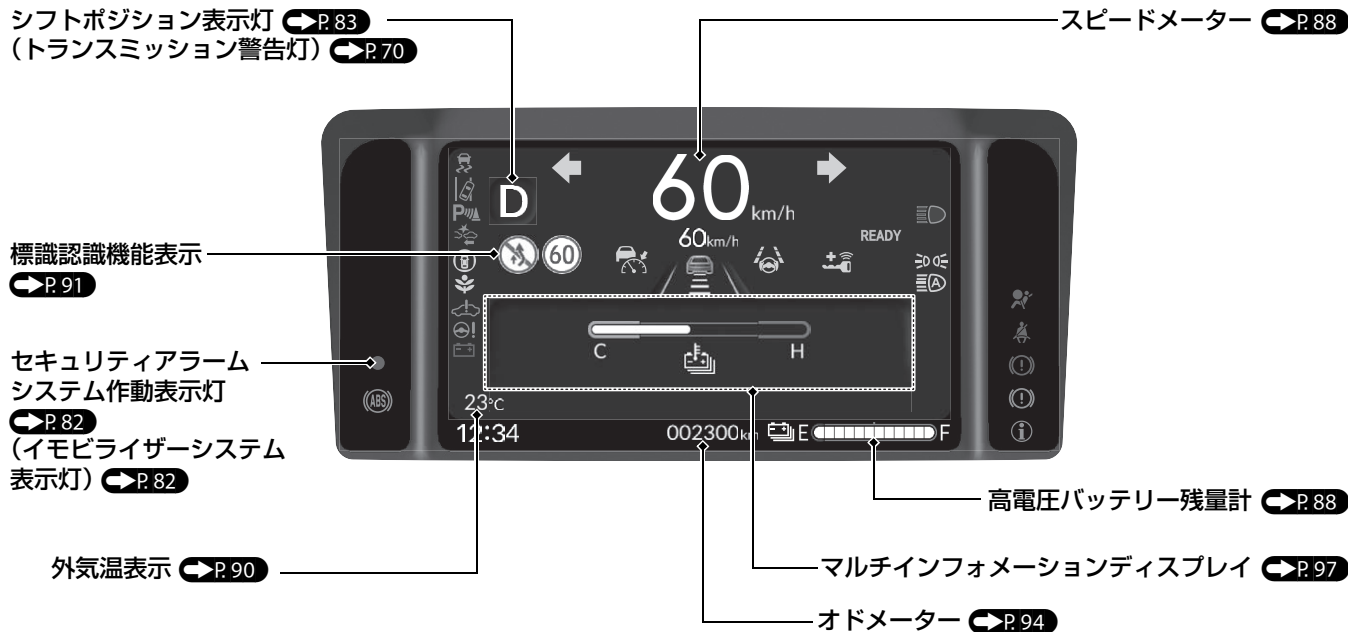
スピードメーター ➡P.88



高電圧バッテリー残量計 ➡P.88

シフトポジション表示灯 ➡P.83
(トランスミッション警告灯) ➡P.70

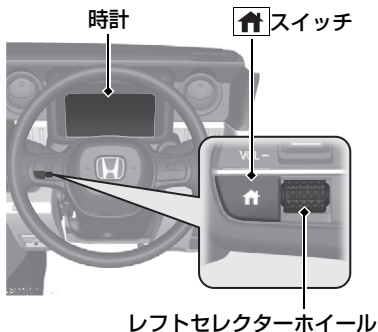
インフォメーションディスプレイ ➡P.92



この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

各部の操作 ▶ P.118

時刻と日付を合わせる* ▶ P.119



スイッチを押し、レフトセレクトターホイールを操作する。

- ▶ 時計 / 車両設定から時刻を合わせることができます。 ▶ P.119

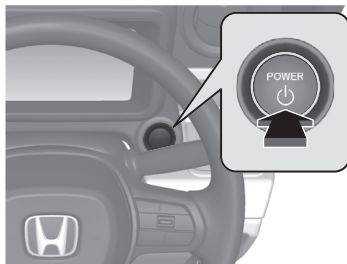
ディスプレイオーディオ装備車

Honda CONNECT ナビ装備車

時計と日付は、人工衛星からの情報を利用して
いますので、時刻、日付合わせは不要です。

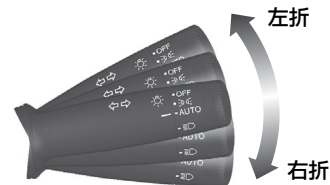
POWER スイッチ ▶ P.144

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



ウィンカー ▶ P.147

方向指示器(ウィンカースイッチ)



ライト P.148

ライトスイッチ



ワイパー P.155

ワイパー/ ウォッシャースイッチ

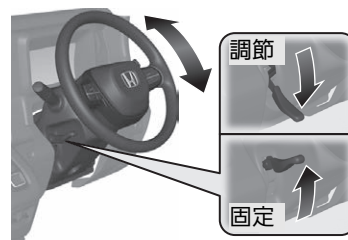


- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量が多いとき)

ハンドル位置の調節

 P.158

- ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルの位置を調節します。



テールゲート P.135

Honda スマートキーシステム非装備車

- 解錠されているときに、テールゲートハンドルを引きます。



Honda スマートキーシステム装備車

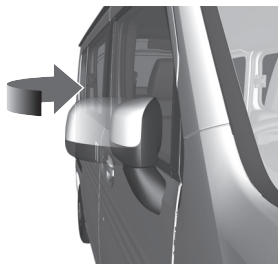
- 施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートハンドルを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。



ドアミラー P.160

電動格納ドアミラー非装備車

- 左右のドアミラーは手で格納することができます。

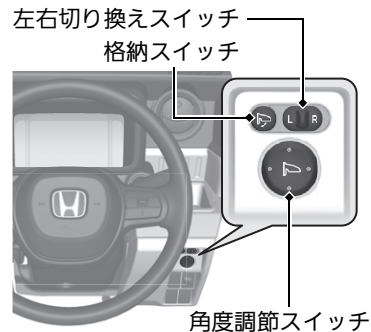


- 鏡面を手で直接調整します。



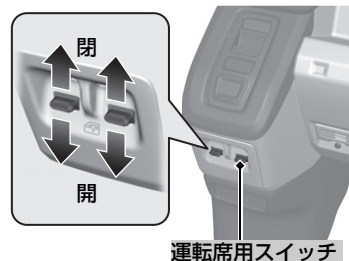
電動格納ドアミラー装備車

- パワーモードが ON モードのとき、左右のドアミラーの格納または角度の調節ができます。



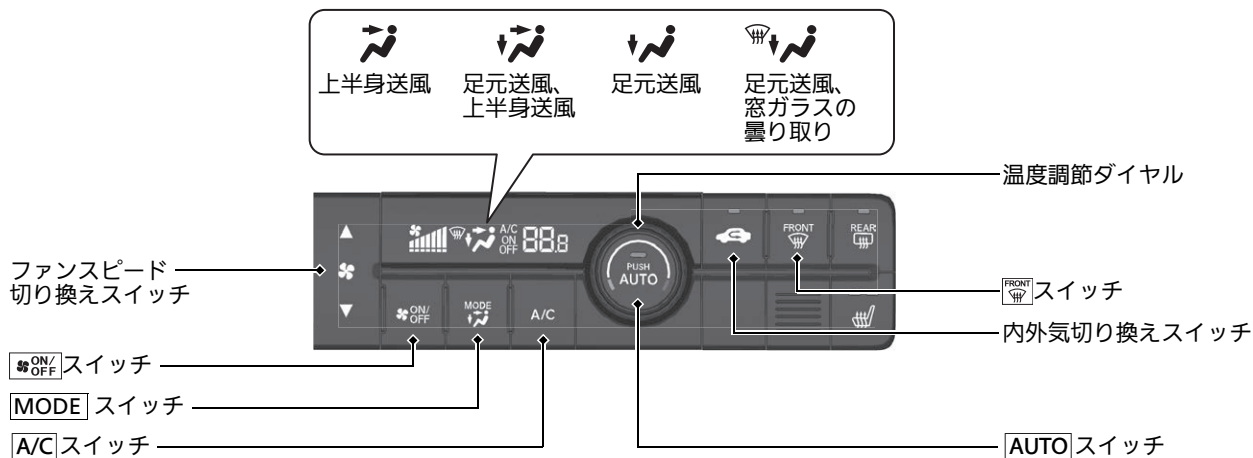
パワーウィンドー P.142

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



エアコン

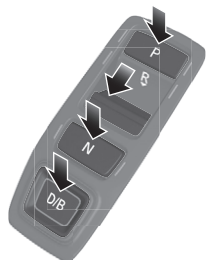
- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT** を押します。



運転 ➡ P.214

電子制御シフトポジションスイッチ ➡ P.224

- パーキングスイッチを押し、ブレーキを踏みながらパワーシステムを起動します。
- シフトポジションの選択



P **パーキング**
駐車またはパワーシステムを起動するとき

R **リバース**
車を後退

N **ニュートラル**
駆動力が伝達されない状態

D/B **ドライブ／ドライブ** **B**
D/B を押す度にドライブとドライブ **B** が切り替わります
ドライブ
通常走行

ドライブ **B**
長い下り坂や減速が必要なとき

※1：インフォメーションディスプレイ装備車



※2：マルチインフォメーションディスプレイ装備車

CMBS の ON と OFF

➡ P.239

- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝突の衝撃を軽減するシステムです。
- パワーシステムを起動すると自動的にCMBS は ON になります。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、インフォメーションディスプレイ*またはマルチインフォメーションディスプレイ*を使用します。

VSA の ON と OFF ➡ P.232

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- パワーシステムを起動すると自動的にVSA は ON になります。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

Honda SENSING* / 安全運転支援機能*

▶P.233

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING* / 安全運転支援機能* には、次の機能があります。

衝突軽減ブレーキ (CMBS) ▶P.236

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

踏み間違い衝突軽減システム* ▶P.246

フロントバンパーおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突被害の軽減を支援するシステムです。

路外逸脱抑制機能 ▶P.256

システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

歩行者事故低減ステアリング ▶P.265

歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

急アクセル抑制機能*

▶P.251

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

アダプティブクルーズコントロール(ACC)*

▶P.273

先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

車線維持支援システム (LKAS)* ▶P.293

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

先行車発進お知らせ機能*

➡P.304

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。

標識認識機能* ➡P.309

走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

オートハイビーム ➡P.152

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

パーキングセンサーシステム ➡P.318

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサー* と、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

メンテナンス ➡ P.343



タイヤ ➡ P.365

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡ P.351

- 番号灯電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 ➡ P.419

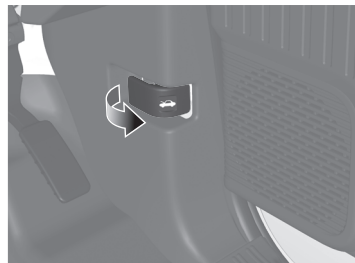
ワイパーブレード ➡ P.361

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

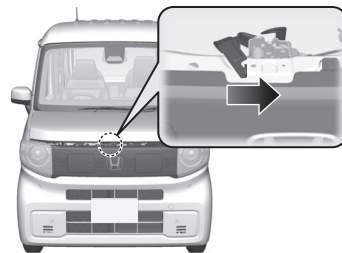
ボンネット ➡ P.347, 348, 415

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- 12Vバッテリーを点検します。

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。



- 2 ボンネット中央のレバーを右に押ししてロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



万一の場合には ▶P.381

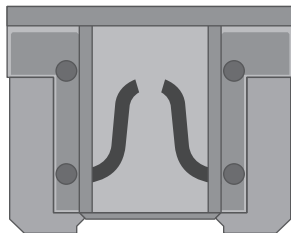
パンクした ▶P.384

- 安全な場所に停車し、スペアタイヤに交換します。



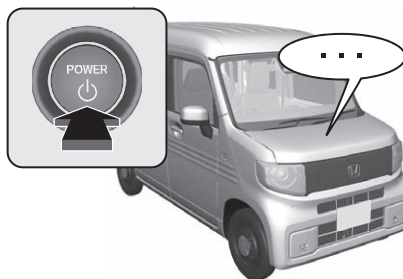
ヒューズが切れた ▶P.419

- 室内とボンネット内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



パワーシステムが起動しない ▶P.398

- 12V バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してパワーシステムを起動します。



けん引してもらいたい

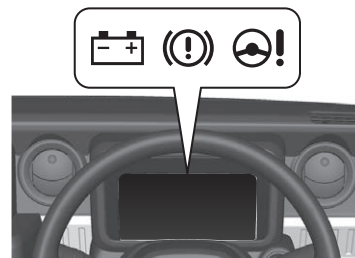
▶P.422

- 必ず専門業者に依頼してください。



警告灯が点灯した ▶P.406

- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) ▶ P.320

Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステム* で解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- パワーモードをアクセサリ モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？



走行するとブザーが鳴る



- 運転席、助手席* または後席* シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？



車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションが **P** になって車が停止した



- 運転席シートベルトを着用していますか？
運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
☑ 自動パーキング選択制御 ➡ P.227



走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする



- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します(車内の映像や音声は記録しません。)

- 車両の状態(車速など)
- 運転状態(アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況)
- SRS エアバックシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意(リース車、レンタカーの場合は借主の同意)がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.28

安全なドライブのために 29 シートベルト 31 エアバッグ 42 衝突後ブレーキシステム 52
お子さまの安全 53

計器の見かた P.63

警告灯と表示灯 64 メーターとインフォメーションディスプレイ 88

各部の操作 P.118

時刻 / 日付の設定 119 ドアロック 123 テールゲート 135 スライドドア 138
セキュリティシステム 140 ウィンドー 142 ハンドルまわりのスイッチ 144
ミラー類 159 シート 163 室内装備品 183 エアコン 202
外部給電のしかた* 207

オーディオ P.212

オーディオ装置* 213

運転 P.214

運転の前に 215 運転 218 Honda SENSING*/ 安全運転支援機能* 233
ブレーキ 318 駐停車 323 リアワイドカメラシステム* 329
高電圧バッテリーの充電 330

メンテナンス P.343

メンテナンスの前に 344 ボンネット内 347 電球 351 ワイパー 361
タイヤ 365 Honda スマートキー 370 エアコンのお手入れ 373 清掃 374
アクセサリーと改造 379

万ーの場合には P.381

工具、発炎筒 382 パンク 384 パワーシステムが起動しない 398
12V バッテリーがあがったとき 403 警告灯が点灯 / 点滅した 406 ヒューズ 414
けん引 422 充電リッドが開かないとき 423 テールゲートが開かない 424

資料 P.426

仕様 427 オープンソースライセンス 430

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

安全なドライブ P.28

計器の見かた P.63

各部の操作 P.118

オーディオ P.212

運転 P.214

メンテナンス P.343

万ーの場合には P.381

資料 P.426

索引 P.431

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために	
安全のための確認事項	29
シートベルト	
シートベルトについて	31
シートベルトの着用	35
シートベルトの点検	39
シートベルトのアンカーポイント	40
エアバッグ	
エアバッグの種類	42
SRS エアバッグ	42
サイドエアバッグ	45
サイドカーテンエアバッグ	48
エアバッグシステム警告灯	50
エアバッグのお手入れ	51
衝突後ブレーキシステム	
衝突後ブレーキシステムについて	52
お子さまの安全	
お子さまの安全を守るために	53
乳幼児の安全	54
大きなお子さまの安全	55

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 充電ケーブルが取り外されているか？
 - ▶ 充電ケーブルが接続されていると走行できません。充電ケーブルを取り外してください。
- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
❏ 車内での施錠 / 解錠 P.133
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
❏ フロントシート P.163
- 同乗者のシートも、安全が保たれているか？
 - ▶ インstrumentパネルからできるだけ離れるように、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
❏ フロントシート P.163
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
❏ シートベルトの着用 P.35
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
❏ エアバッグ P.42
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
❏ お子さまの安全 P.53

❏安全のための確認事項

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

インフォメーションディスプレイ装備車

ドア / テールゲート開閉警告灯が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア / テールゲート開閉警告灯」は消灯し、正常な状態に戻ります。

❏ ドア / テールゲート開閉警告灯* P.73

助手席装備車

フロントシート助手席側のシートを倒して荷室として使用する場合は、重量物の積載は避けて下さい。

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを[P]にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
 - シフト操作 P.224
- 充電の際は、オーナーズマニュアルに記載されている充電手順と警告をご確認ください。
 - ▶ 公共の充電施設で急速充電する場合も、急速充電器本体に表示された手順をご確認ください。
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
 - ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

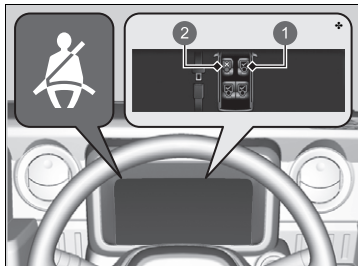
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■シートベルトリマインダー



- ① シートベルト着用
- ② シートベルト未着用

■フロントシート

パワーモードをONモードにしたときや走行したとき、運転席または助手席*のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。マルチインフォメーションディスプレイ*にも警告が表示されます。

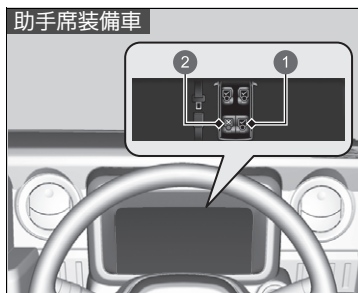
※シートベルトリマインダー

助手席装備車

- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。
- 助手席シートに荷物などを置いたままシートバックを倒さないでください。センサーの誤作動や破損のおそれがあります。

共通

- 運転席または助手席*のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- シフトポジションを[R]に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。



- ① シートベルト着用
- ② シートベルト未着用



■リヤシート*

助手席装備車

パワーモードをONモードにしたときにリヤシートベルトを着用していないと、マルチインフォメーションディスプレイに各座席の装着状態が表示されます。

パワーモードがONモードのときにリヤシートベルトを外すと、警告灯とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。

走行中にリヤシートベルトを外すと、ブザー、警告灯、マルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせします。

助手席非装備車

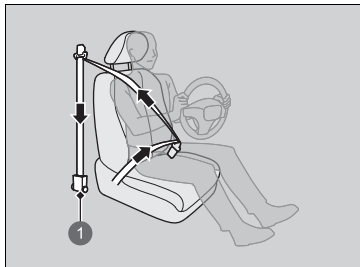
パワーモードをONモードにしたときにリヤシートベルトを着用していないと、警告灯が点灯します。

パワーモードがONモードのときにリヤシートベルトを外すと、警告灯でお知らせします。

走行中にリヤシートベルトを外すと、ブザーと警告灯でお知らせします。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



① シートベルトプリテンショナー

※1：助手席非装備車

※2：助手席装備車

▶▶ シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

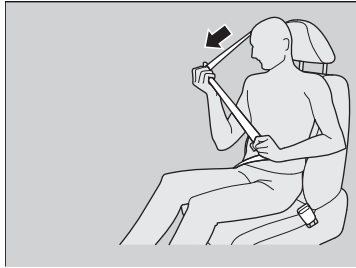
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

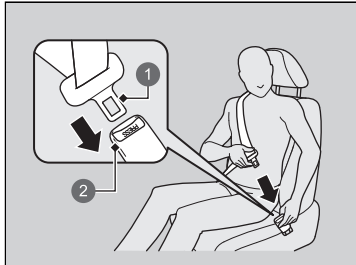
側面からの衝突により、運転席側^{※1} もしくは両側^{※2} のシートベルトプリテンショナーが作動します。

SRSエアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



- ① タングプレート
- ② バックル

3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

※シートベルトの着用

アームレスト装備車

警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

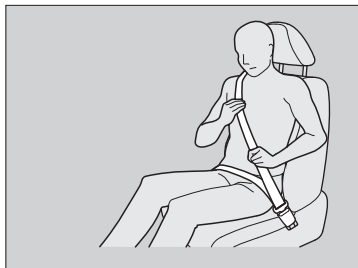
シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。

シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

☒ シートベルトについて P.31

☒ シートベルトの点検 P.39



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
 - ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
 - ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
 - ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

※シートベルトの着用

助手席装備車

⚠ 注意

助手席の同乗者がシートベルトを着用中に助手席側のドアの開閉を行わない。

シートベルトがロックする場合があります、締め付けられて思わぬけがをすることがあります。ドアの開閉はシートベルトを外してから行ってください。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをすることがあります。

ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **[PRESS]** を押してください。

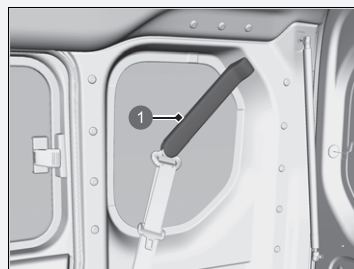
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

※シートベルトの着用

リヤシート 装備車

リヤシートのショルダーアンカー部のガイドを引っばるなどして、シートベルト引き出し方向以外に強い力をかけないでください。ガイドが変形することがあります。



① ガイド

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

助手席装備車

⚠ 注意

助手席の同乗者がシートベルトを着用中に助手席側のドアの開閉を行わない。

シートベルトがロックする場合があります、締め付けられて思わぬけがをすることがあります。ドアの開閉はシートベルトを外してから行ってください。

共通

⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席* にすわる場合はシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにする

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。

点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

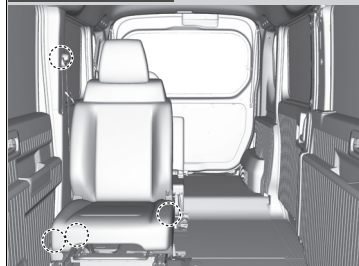
シートベルトのアンカーポイント

フロントシート

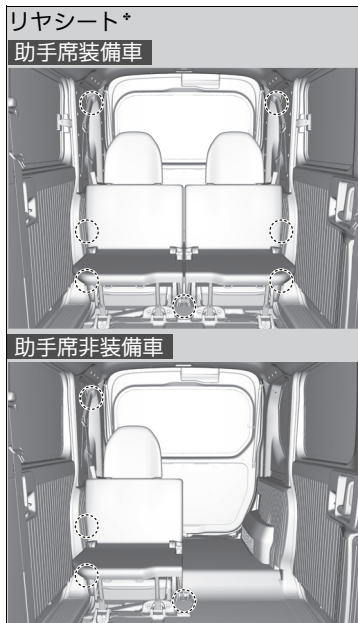
助手席装備車



助手席非装備車



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシート* には三点式シートベルトが使われています。

❖: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードがONモードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者*の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **運転席 SRS エアバッグ**：運転席シートの前方向エアバッグ
- **助手席 SRS エアバッグ***1：助手席シートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部運転席側*2 もしくは両側*1 についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席*についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席*の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席*側はダッシュボードにSRSエアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらかしにより運転席と助手席*のSRSエアバッグが膨らみます。

※1：助手席装備車

※2：助手席非装備車

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ⓘ エアバッグの種類

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

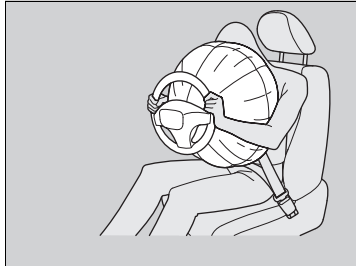
エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

この車にはイベントデータレコーダー(EDR)が装備されています。

SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上の衝突が発生した場合に車両データを記録します。

ⓘ 車両データの記録 P.26

SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▶▶ SRS エアバッグの作動

助手席装備車

警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

共通

注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者* がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次ページに続く

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

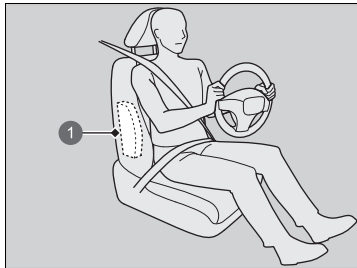
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席* の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

格納場所



① 格納場所

運転席、助手席* とともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

※サイドエアバッグ

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

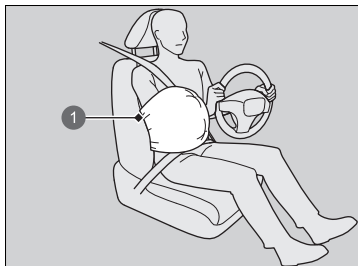
サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ 作動のしくみ



① サイドエアバッグ

センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきによりサイドエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

※ サイドエアバッグ



注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

※サイドエアバッグ

サイドエアバッグを制御するための圧力センサが、ドアに装備されています。不適切なドアの修理や部品の変更により、サイドエアバッグが正常に作動しない可能性が有ります。ドアの修理については、Honda 販売店にご相談下さい。

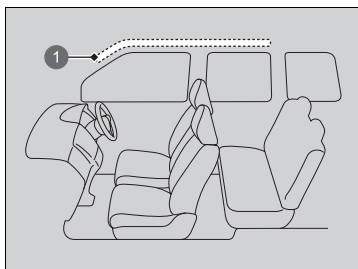
エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所



- ① サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席* 側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレード* にものをかけない

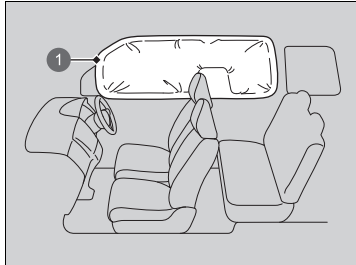
サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側に衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

■ 作動のしくみ



① サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席* 側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

▶ 作動条件 P.46

■ 前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあとに必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

⚠ サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイ* で知らせます。

■エアバッグシステム警告灯



■**パワーモードを ON モードにしたとき**
パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■**異常が発生したとき**
エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

⚠エアバッグシステム警告灯



警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合には Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

※エアバッグのお手入れ

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

衝突後ブレーキシステムについて

エアバッグシステムが衝突を検知して作動したとき、衝突後ブレーキシステムがブレーキをかけるとともに駆動力を抑制させ、二次衝突による被害を軽減します。

■ 衝突後ブレーキシステムの作動条件

走行中に前方向または横方向からの衝突により、エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが作動したときに衝突後ブレーキシステムが作動します。ただし、システムを構成する部品が破損している場合は作動しません。

■ 衝突後ブレーキシステムの解除条件

衝突後ブレーキシステムが作動したとき、次のいずれかの条件でシステムが解除されます。

- 車両が停車したとき
- アクセルペダルを離れたあとに踏み込んだとき

※ 衝突後ブレーキシステムについて

このシステムの作動で必ずしも二次衝突の被害を軽減できるとは限りません。事故の状況によって変わります。

衝突が発生した場合は、周囲の状況を確認し、適切に車両を操作して停車させて下さい。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドーなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドーなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❖お子さまの安全を守るために

⚠警告

ジュニアシートは後席に設置する。
助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けけないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

※乳児のチャイルドシート



警告

お子さまは助手席に乗せない。

助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下する場合があります、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

幼児のチャイルドシート

この車に設置することはできません。

※幼児のチャイルドシート



警告

お子さまは助手席に乗せない。

助手席にチャイルドシート、ジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下する場合があります、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

お子さまはチャイルドシート、ジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

大きなお子さまの安全

シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

ジュニアシートについて



① ジュニアシート

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※大きなお子さまの安全



警告

お子さまは助手席に乗せない。

- 助手席にジュニアシートを設置しないでください。設置したままドアを開けると、転倒や落下のおそれがあり、重大な傷害を負ったり死亡したりすることがあります。
- お子さまはジュニアシートを正しく使用し後席にお乗せください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合 P.62

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ジュニアシートの選びかた

■ジュニアシート選択の条件

ジュニアシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- ジュニアシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- ジュニアシートが取り付け車の座席にあったものであること
- ジュニアシートが安全基準に適合したものであること

UN R129 に適合したジュニアシートをお勧めします。

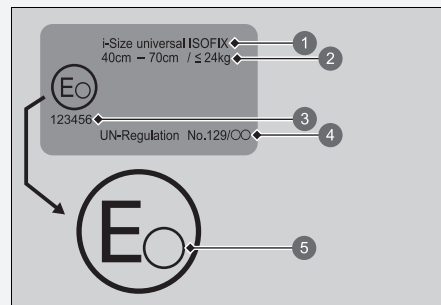
■ジュニアシートの規格

UN 基準の認可を受けたジュニアシートには、認可マークが表示されています。ジュニアシートについている認可マークを確認してください。

※ジュニアシートの選びかた

Honda 純正のジュニアシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R129 認可表示(例)






- ① カテゴリー
- ② 身長範囲 / 体重範囲
- ③ 認可番号
- ④ 法規番号
- ⑤ 国番号

助手席装備車

シート位置別チャイルドシート情報



	添付のリストに記載された特定幼児拘束装置に適している。これらの拘束装置は、「特定車両」「限定」または「標準」カテゴリーのいずれでもよい。
	後ろ向きのチャイルドシート装着禁止
	チャイルドシートの取り付け不可

*1：シートベルトで固定が可能です。

*2：シートベルトで固定が可能です。取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

	サイズグループ 重量 身長		シートの位置及びシート位置番号		
			①	②	③
			助手席	後席 (左側)	後席 (右側)
ベルト固定の汎用 (ユニバーサル) チャイルドシートが搭載可能な着 座位置 (有 / 無)	グループ 0	10kg 以下	無	無	無
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループ I	9 - 18kg	無	無	無
	グループ II	15 - 25kg			
	グループ III	22 - 36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能 な着座位置 (有 / 無)	150cm 以下		無	無	無
推奨チャイルドシートが搭載可能 な着座位置 (有 / 無) * ³	Honda 純正チャイルドシートリスト 参照		無	有* ¹	有* ²
搭載可能な横向きチャイルドシー ト固定具 (L1/L2)	—		無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイル ドシート固定具 (R1/R2X/R2/R3)	グループ 0	10kg 以下	無	無	無
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループ I	9 - 18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイル ドシート固定具 (F2X/F2/F3)	グループ I	9 - 18kg	無	無	無
搭載可能な最大の前向きジュニア シート固定具 (B2/B3)	150cm 以下		無	B3	B3

- *1: シートベルトで固定が可能です。
- *2: シートベルトで固定が可能です。取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。
- *3: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

ジュニアシートの選びかた



警告

シートベルトは必ず正しく着用する

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものを**お選びください**。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

助手席非装備車

シート位置別チャイルドシート情報



添付のリストに記載された特定幼児拘束装置に適している。これらの拘束装置は、「特定車両」「限定」または「準標準」カテゴリーのいずれでもよい。

*1：シートベルトで固定が可能です。取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

	シートの位置及びシート位置番号		
	サイズグループ 重量 身長		① 後席(右側)
	ベルト固定の汎用(ユニバーサル)チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	グループ 0	10kg 以下
	グループ 0+	13kg 以下	
	グループ I	9 - 18kg	無
	グループ II	15 - 25kg	
	グループ III	22 - 36kg	
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)	150cm 以下		無
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置(有/無)*2	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有*1
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具(L1/L2)	—		無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具(R1/R2X/R2/R3)	グループ 0	10kg 以下	無
	グループ 0+	13kg 以下	
	グループ I	9 - 18kg	
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具(F2X/F2/F3)	グループ I	9 - 18kg	無
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具(B2/B3)	150cm 以下		B3

*1: シートベルトで固定が可能です。取り付ける場合、運転席のシートポジションによっては、使用できない可能性があります。

*2: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。

Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

■ 推奨チャイルドシート

日本純正チャイルドシートリスト

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

☒ 推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯	64
警告灯	66
表示灯	80
インフォメーションディスプレイ*のメッセージ	87
メーターとインフォメーションディスプレイ	
メーター	88
インフォメーションディスプレイ*	92
マルチインフォメーションディスプレイ*	97

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。

点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイ* にメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従い Honda 販売店に連絡するなどして対処してください。

 ※1 ブレーキ警告灯(レッド) P.66	 充電リッド開警告灯* P.69	 パーキングセンサー警告灯 P.73
 ※1 ブレーキシステム警告灯(オレンジ) P.67	 ※1, ※2 トランスミッション警告灯 P.70	 ※1 ドア / テールゲート開閉警告灯* P.73
 ※1 走行継続不可警告灯* P.67	 ※1 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.71	 ※1 オートライトコントロール警告灯* P.73
 ※1 高電圧バッテリー熱異常警告灯* P.67	 シートベルト非着用警告灯 P.71	 ※1 Honda スマートキーシステム警告灯* P.74
 出力制限警告灯* P.68	 リヤシートベルト非着用警告灯* P.72	 車両接近通報システム警告灯* P.74
 ※1 パワーシステム警告灯 P.68	 ※1 ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 P.72	 ※1 カメラ警告灯* P.77
 ※1 12V バッテリー充電警告灯 P.69	 ※1 エアバッグシステム警告灯 P.72	 Honda スマートキー電池消耗警告灯* P.79
 充電残量警告灯(オレンジ) P.69	 ※1 VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯 P.72	 Honda スマートキー持ち去り警告灯* P.79
 充電 / 給電コネクター接続警告灯* P.69	 ※1 VSA OFF 警告灯 P.72	 方向指示器 / 非常点滅表示灯 P.80

※1 : これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。


※2 : インフォメーションディスプレイ装備車





* : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





	ライト点灯表示灯	P.80		※1 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警報表示灯*	P.85		※1 車線維持支援システム (LKAS) 警告灯 (オレンジ)*	P.74
	ハイビーム表示灯	P.80		オートハイビーム警告灯 (オレンジ)*	P.73		車線維持支援システム (LKAS) 表示灯 (ホワイト / グリーン)*	P.84
	急アクセル抑制機能表示灯*	P.81		※1 オートハイビーム表示灯 (グリーン)	P.80		※1 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ)	P.75
	シフトポジション表示灯	P.83		※1 高電圧バッテリー高温警告灯 (レッド)*	P.68		衝突軽減ブレーキ (CMBS) 表示灯 (グレー)*	P.85
	シフトポジション [P] 選択表示灯*	P.83		高電圧バッテリー低温表示灯 (ブルー)*	P.81		※1 路外逸脱抑制機能警告灯 (オレンジ)	P.76
	※1 パーキングブレーキ踏み込み表示灯*	P.83	<input type="radio"/>	イモビライザーシステム表示灯	P.82		路外逸脱抑制機能操舵アシスター一時停止警告灯	P.76
	※1 ブレーキペダル踏み込み表示灯*	P.83	<input type="radio"/>	セキュリティアラームシステム作動表示灯*	P.82		路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)*	P.86
	ECON モード表示灯	P.84		※1 アダプティブクルーズコントロール (ACC) 警告灯 (オレンジ)*	P.74		※1 安全支援情報警告灯 (オレンジ)*	P.78
	インフォメーション表示灯*	P.84		アダプティブクルーズコントロール (ACC) 表示灯 (ホワイト / グリーン)*	P.84		安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー)*	P.86
READY	READY 表示灯	P.84						
	クルーズコントロール表示灯 (ホワイト / グリーン)*	P.85						

※1 : これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。





警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯 (レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • パーキングブレーキをかけると点灯 	—
		<ul style="list-style-type: none"> • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 ☒ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.408
		<ul style="list-style-type: none"> • ブレーキシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。 ☒ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.408



警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	インフォメーションディスプレイ装備車 ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキに関するシステムが異常のときに点灯 ブレーキ温度が高温のときに点灯 ブレーキ性能が低下すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 十分に速度を落として走行してください。ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキに関するシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	走行継続不可警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> 走行が継続できないときに点灯または点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に停車してください。
	高電圧バッテリー熱異常警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーで熱異常が生じている可能性があるときに点灯または点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高電圧バッテリー熱異常警告灯が点灯 / 点滅した P.413






警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	高電圧バッテリー 高温警告灯(レッド)*	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーが高温のときに点灯または点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅したときは、急発進・急加速・高速走行を避けてください。 点灯したときは、周囲に注意してゆっくり走行してください。
	出力制限警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> 出力制限がかかったときに点灯または点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅したときは、急発進・急加速・高速走行を避けてください。
	インフォメーションディスプレイ 装備車 パワーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステム、プラグイン充電システム、普通充電システム、急速充電システム、外部電源供給システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 インフォメーションディスプレイに「STOP CAR」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
	マルチインフォメーションディスプレイ 装備車 パワーシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パワーシステム、プラグイン充電システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。





*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。





警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	12V バッテリー充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 12V バッテリーが充電されていないと点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
	充電残量警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーの残量が少なくなると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 点灯したら早めに充電してください。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 航続可能距離表示 (RANGE) P.95 ▶ 航続可能距離 P.99 モーターの出力が低下し、減速する場合があります。特に、高速走行時は、注意してください。
	充電 / 給電コネクタ接続警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> 充電/給電コネクタにコネクタが接続されているときに点灯 外気温低温により充電コネクタの接続が必要なときに数秒間点滅 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> 充電コネクタを接続してください。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 高電圧バッテリーの充電 P.330
	充電リッド開警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> 充電リッドが開いているときに点灯 	<p>—</p>



警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
 <p>点灯</p>  <p>点滅</p>	<p>インフォメーションディスプレイ装備車</p> <p>トランスミッション警告灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションが異常のときに点灯 / 点滅 トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないときに点灯 / 点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 インフォメーションディスプレイに「STOP CAR」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	<p>マルチインフォメーションディスプレイ装備車</p> <p>トランスミッション警告灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> トランスミッションが異常のときに点滅 トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。




警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	EPS (電動パワー ステアリング)シ ステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> EPS システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 インフォメーションディスプレイ装備車 インフォメーションディスプレイに「STOP CAR」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ☑ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.409 マルチインフォメーションディスプレイ装備車 マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ☑ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.409
	シートベルト 非着用警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 運転席および助手席* のシートベルトを着用しないと点灯 マルチインフォメーションディスプレイ装備車 パワーモードが ON モードのときに、リヤシートのシートベルトを外すとしばらく点灯 共通 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅 	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ☑ シートベルトリマインダー P.32


警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	リヤシートベルト非着用警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを ON モードにしたときに、リヤシートベルトを着用していないと点灯 走行中にリヤシートベルトを着用していないとブザーが鳴り点滅 	<ul style="list-style-type: none"> リヤシートベルトを着用すると警告灯が消灯します。 ▶ シートベルトリマインダー P.32
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ABS が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ▶ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.320
	エアバッグシステム警告灯	<ul style="list-style-type: none"> エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	<ul style="list-style-type: none"> VSA が作動しているときは点滅 VSA システム、ヒルスタートアシストシステムのいずれかが異常のときに点灯 	<p>—</p> <ul style="list-style-type: none"> ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.231
	VSA OFF 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> VSA を OFF にすると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.231


警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	パーキングセンサー警告灯	<ul style="list-style-type: none"> パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ☑ パーキングセンサーシステム P.325
		<p>インフォメーションディスプレイ装備車</p> <ul style="list-style-type: none"> パーキングセンサーが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ パーキングセンサーシステム P.325
	ドア / テールゲート開閉警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> ドア、テールゲートが完全に閉まっていないときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ドア、テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。
	オートライトコントロール警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	オートハイビーム警告灯(オレンジ)*	<ul style="list-style-type: none"> オートハイビームが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ハイビームへの切り替えは手動で行ってください。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。







警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	Honda スマートキーシステム警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • Hondaスマートキーシステムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 下記のような場合、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 <ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯した • パワーシステム起動後も消灯しない • パワーモードが OFF モードのときに数秒間点灯した • パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間点灯した
	車両接近通報システム警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> • 車両接近通報システムが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 車両外への警報は作動しません。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)*	<ul style="list-style-type: none"> • ACCシステムが異常のときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)*	<ul style="list-style-type: none"> • LKAS が異常のときに点灯 • カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	インフォメーションディスプレイ装備車 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> CMBS に異常があるとき点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 表示灯 P.85
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯 カーゴスペースやリヤシート* に重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> カメラ警告灯が同時に点滅します。 ☑ カメラ警告灯* P.77 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 衝突軽減ブレーキ (CMBS) 警告灯 (オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> CMBSが異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 安全支援情報警告灯 (オレンジ) が同時に点灯します。 ☑ 安全支援情報 警告灯 (オレンジ)* P.78





警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	
	インフォメーションディスプレイ装備車 路外逸脱抑制機能警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能に異常があるとき点灯 • フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 • フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯 • カーゴスペースやリヤシート* に重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ 路外逸脱抑制機能表示灯 P.86 • カメラ警告灯が同時に点滅します。 ▶ カメラ警告灯* P.77 • 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 	
		マルチインフォメーションディスプレイ装備車 路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ▶ 安全支援情報 警告灯(オレンジ)* P.78
		路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 路外逸脱抑制機能 P.256






警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	カメラ警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点滅(1回ずつ点滅) 	<ul style="list-style-type: none"> 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ☑ フロントワイドビューカメラ P.315 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点滅することがあります。
		<ul style="list-style-type: none"> フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点滅(2回ずつ点滅) 	<ul style="list-style-type: none"> エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。
		<ul style="list-style-type: none"> フロントカメラヒーターが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの運転支援システムが作動するまでに時間がかかる場合があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。



警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報 警告灯 (オレンジ)*	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS が異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		<ul style="list-style-type: none"> • パーキングセンサーが異常のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ▶ パーキングセンサーシステム P.325
		<ul style="list-style-type: none"> • フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> • エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。
		<ul style="list-style-type: none"> • フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります 	<ul style="list-style-type: none"> • 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報 警告灯 (オレンジ)*	<ul style="list-style-type: none"> カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯 ソナーセンサーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。  ソナーセンサー* P.317  踏み間違い衝突軽減システム* P.246
KEY  BATT	Honda スマートキー電池消耗警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> Hondaスマートキーの電池残量が少なくなったときに点滅 	 電池交換のしかた P.370
NO KEY	Honda スマートキー持ち去り警告灯*	<ul style="list-style-type: none"> Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに点滅 	 Honda スマートキー持ち去り警告 P.146

表示灯





表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ☞ 電球の交換 P.351
		<ul style="list-style-type: none"> 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ エマージェンシーストップシグナル P.322
	ライト点灯表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ ライトの使い方 P.148
	ハイビーム表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯 	—
	オートハイビーム表示灯 (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> オートハイビームの作動条件がそろったときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ☞ オートハイビーム P.152

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	高電圧 バッテリー 低温表示灯 (ブルー)*	<ul style="list-style-type: none"> 高電圧バッテリーが低温のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> システムを起動できないときは、パワーモードを OFF にしてお待ちください。ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 システムが起動していて、READY 表示灯が点灯していないときは、走行できません。 READY 表示灯が点灯しているときは、急発進・急加速・高速走行を避けてください。
		<ul style="list-style-type: none"> 外気温低温により充電コネクタの接続が必要なときに数秒間点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 充電コネクタを接続してください。  高電圧バッテリーの充電 P.330
	急アクセル抑制 機能表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> 急アクセル抑制機能が ON のときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> マルチインフォメーションディスプレイのメッセージを消すには、 スイッチを押してください。  急アクセル抑制機能* P.251

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	<p>イモビライザーシステム表示灯</p>	<ul style="list-style-type: none"> • POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅 	<ul style="list-style-type: none"> • POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったんOFFモードにしてから、もう一度ONモードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	<p>セキュリティアラームシステム作動表示灯*</p>	<ul style="list-style-type: none"> • セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅 	<p>➡ セキュリティアラームシステム* P.140</p>

※1 : インフォメーションディスプレイ装備車







※2 : マルチインフォメーションディスプレイ装備車

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シフトポジション表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 現在のポジションで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> シフト操作 P.224
	シフトポジション P 選択表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> シフトポジションを P にする必要があるときに点灯 	—
	パーキングブレーキ 踏み込み表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキをかける必要があるときに点灯または点滅 	—
	ブレーキペダル 踏み込み表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏む必要があるときに点灯または点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 下記のときにも点灯します。 <ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルの踏み込みが足りずシフトポジションを変更できないとき アクセルペダルが踏まれておりシフトポジションを変更できないとき 車両が動いていてシフトポジションを変更できないとき シフトポジションが N でアクセルペダルが踏まれているとき



※1 : インフォメーションディスプレイ装備車

※2 : マルチインフォメーションディスプレイ装備車

❖ : タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ECON モード表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ECON モードが ON のときに点灯 	<p>➤ ECON スイッチ P.229</p>
	インフォメーション表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージは警告が解除されるか、スイッチを押すまで通常表示に戻りません。 点灯しているときにを押し、「警告メッセージ」を選択すると、メッセージを再表示させることができます。 <p>➤ 表示の切り換えかた P.97</p>
READY	READY 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> 走行の準備が完了すると点灯 	<p>➤ パワーシステムの起動 P.218</p>
	アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯 (ホワイト / グリーン)*	<ul style="list-style-type: none"> ACC が待機中のときにホワイトで点灯 ACC が作動中で先行車を検知していないとホワイト / グリーンで点灯 ACC が作動中で先行車を検知しているとグリーンで点灯 	<p>➤ アダプティブクルーズコントロール(ACC)* P.273</p>
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト / グリーン)*	<ul style="list-style-type: none"> LKAS が待機中のときにホワイトで点灯 LKAS が作動するとグリーンで点灯 	<p>➤ 車線維持支援システム(LKAS)* P.293</p>

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	クルーズ コントロール 表示灯 (ホワイト / グリーン)*	<ul style="list-style-type: none"> クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 クルーズモードが作動するとグリーンで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> クルーズモードへの切換え P.288
	衝突軽減ブレーキ(CMBS) 警報表示灯*	<ul style="list-style-type: none"> 衝突の可能性があるときに点滅 	<ul style="list-style-type: none"> 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.236
	インフォメーション ディスプレイ装 備車 衝突軽減ブレーキ(CMBS) 表示灯	<ul style="list-style-type: none"> CMBS を OFF にしているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 P.75 インフォメーションディスプレイ* P.92 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.236
	マルチインフォ メーションディス プレイ装備車 衝突軽減ブレーキ(CMBS) 表示灯(グレー)	<ul style="list-style-type: none"> CMBS を OFF にしているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> 安全支援情報 P.106

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	インフォメーションディスプレイ装備車 路外逸脱抑制機能表示灯	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能が作動すると点滅 • 路外逸脱抑制機能をOFFにしているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ➡ 路外逸脱抑制機能 P.256 ➡ 路外逸脱抑制機能警告灯 P.76 ➡ インフォメーションディスプレイ* P.92 ➡ 路外逸脱抑制機能 P.256
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 路外逸脱抑制機能表示灯 (グレー)	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能をOFFにしているときに点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ➡ 安全支援情報 P.106
	安全支援情報表示灯 (グリーン / グレー)*	<ul style="list-style-type: none"> • 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS、パーキングセンサー情報がONのときにグリーンで点灯 • いずれかがONのときにグリーン / グレーで点灯 • すべてがOFFのときにグレーで点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ➡ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.236 ➡ 踏み間違い衝突軽減システム* P.246 ➡ 歩行者事故低減ステアリング P.265 ➡ 路外逸脱抑制機能 P.256 ➡ パーキングセンサーシステム P.325

インフォメーションディスプレイ* のメッセージ

下記のメッセージはインフォメーションディスプレイに表示されます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
STOP CAR	<ul style="list-style-type: none"> 走行を継続できないときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ただちに安全な場所に車を停車してください。
PARK BRAKE	<ul style="list-style-type: none"> パーキングブレーキをかける必要があるときに表示 	—
EXIT	<ul style="list-style-type: none"> 車外へ退避する必要があるときに表示 	—
PUSH START	<ul style="list-style-type: none"> パワーモードを再度 ON モードにすることで、走行を続けられるときに表示 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ パワーシステムの起動 P.218

メーター

メーターには、スピードメーター、高電圧バッテリー残量計などの種類があります。

パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

※高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー残量計が **E** に近づいたら、早めに充電してください。

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

高電圧バッテリーの温度が変化すると、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

インフォメーションディスプレイ装備車

充電中にエアコンなどを使用し、消費電力の方が大きくなっているときはメモリが点滅します。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

❏ オドメーター

マルチインフォメーションディスプレイで「サンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。

❏ 表示の切り換えかた P.97

■外気温表示*

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定を使用します。

▶ 時計*/車両設定 P.110

■外気温表示*

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。

運転中に外気温が 3°C 以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。



■ 標識認識機能表示*

走行中に認識した道路標識情報を表示します。

認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

☞ 標識認識機能* P.309

■ 時計*

時刻を表示します。

■ アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)表示*

アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)の現在の状態を表示します。

☞ アダプティブクルーズコントロール(ACC)* P.273

☞ 車線維持支援システム(LKAS)* P.293

☞ 時計*

時計表示(24h/12h)*を変えたり時刻調整*をすることができます。

☞ 時刻 / 日付の設定 P.119

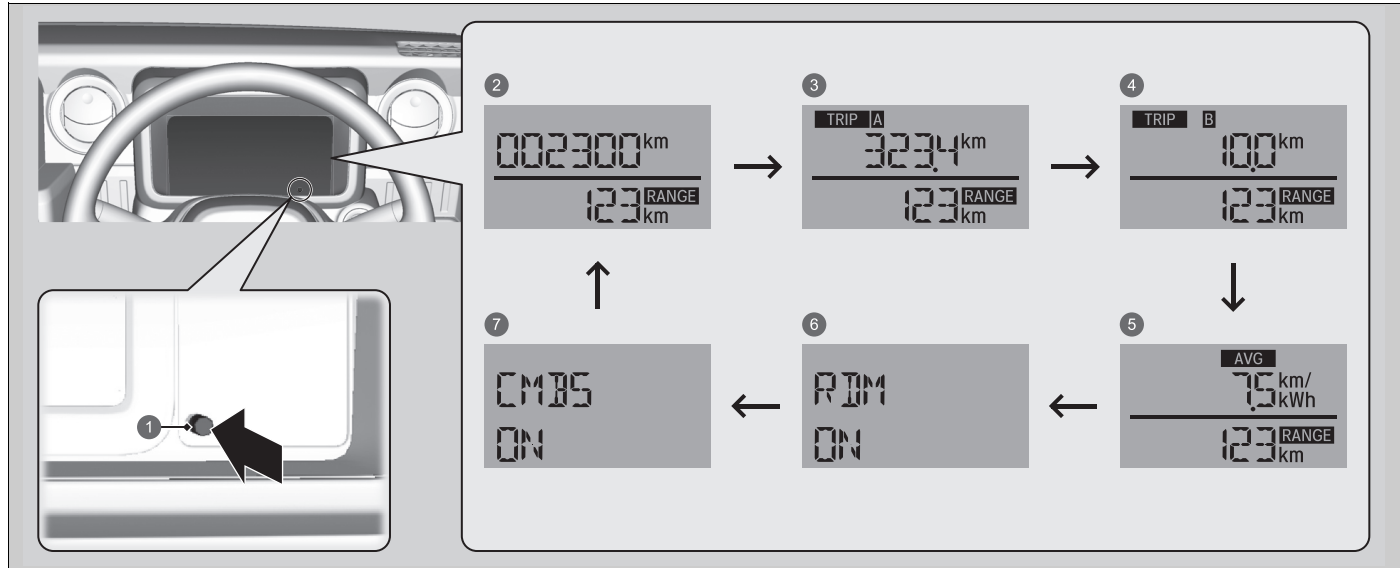
インフォメーションディスプレイ*

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、電費情報などが表示されます。

また、RDM(路外逸脱抑制機能)と CMBS(衝突軽減ブレーキ)の ON/OFF を変更することができます。

表示の切り換えかた

TRIP ノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



- ① TRIP ノブ
- ② オドメーター P.89
航続可能距離表示 (RANGE) P.95
- ③ TRIP A P.94
航続可能距離表示 (RANGE) P.95
- ④ TRIP B P.94
航続可能距離表示 (RANGE) P.95
- ⑤ 平均電費表示 (AVG) P.94
航続可能距離表示 (RANGE) P.95
- ⑥ RDM (路外逸脱抑制機能) の ON/OFF P.95
- ⑦ CMBS (衝突軽減ブレーキ) の ON/OFF P.95

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、TRIP ノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■ 平均電費表示(AVG)

トリップメーターA と連動し、平均電費を一定時間ごとに更新して km/kWh で表示します。

トリップメーターA をリセットすると、平均電費表示も同時にリセットされません。

※ トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

※ 平均電費表示(AVG)

表示される平均電費は、実際に走行した電費とは異なる場合があります。

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから電費の計算を開始しません。

■ 航続可能距離表示(RANGE)

高電圧バッテリー残量と平均電費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

■ RDM(路外逸脱抑制機能)の ON/OFF

RDM の ON/OFF 画面が表示されている状態で、TRIP ノブを長押しすると ON/OFF の切り替えができます。

▶ 路外逸脱抑制機能 P.256

■ CMBS(衝突軽減ブレーキ)の ON/OFF

CMBS の ON/OFF 画面が表示されている状態で、TRIP ノブを長押しすると ON/OFF の切り替えができます。

▶ 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.236

▶ 航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

ECON モードが ON のときのエアコンの使用状況に応じて、航続可能距離に変化が生じた際は、表示が点滅します。

▶ ECON スイッチ P.229

▶ オートエアコンの使いかた P.203

■ 外部給電の使用可能時間



外部給電の使用可能時間が表示されます。

▶ 外部給電のしかた* P.207

■ 残充電時間



充電の状況が表示されます。

▶ 高電圧バッテリーの充電 P.330

マルチインフォメーションディスプレイ*

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や電費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。

警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。

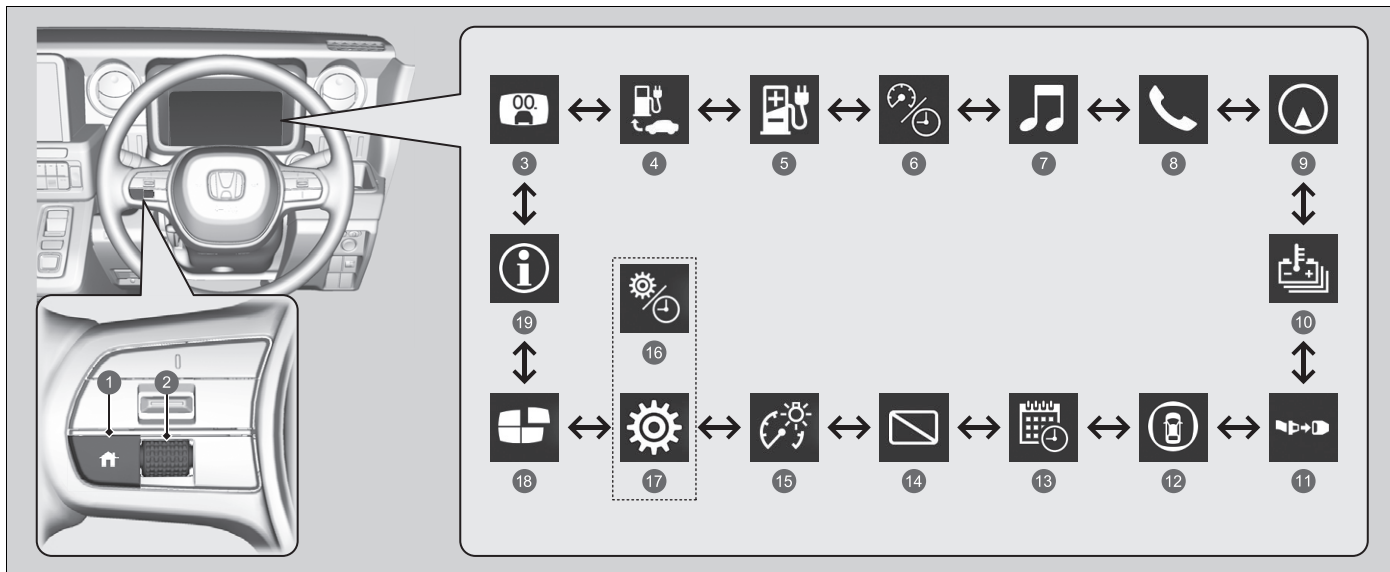
マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ性能低下」または、「高電圧バッテリー熱異常」が表示した場合は、下記を参照してください。

❖ 「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された P.407

❖ 「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された P.412

表示の切り換えかた

🏠 スイッチを押し、レフトセクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセクターホイールを押し決定してください。



- ① スイッチ
- ② レフトセレクターホイール
- ③ シンプル P.99
- ④ 航続可能距離 P.99
- ⑤ 電費 / トリップメーター P.100
- ⑥ 車速 / 経過時間 P.103
- ⑦ オーディオ* P.105

- ⑧ 電話* P.105
- ⑨ ナビゲーション* P.105
- ⑩ 高電圧バッテリー温度計 P.105
- ⑪ 全席シートベルト P.106
- ⑫ 安全支援情報 P.106
- ⑬ カレンダー P.108
- ⑭ 表示なし

- ⑮ 明るさ設定 P.108
- ⑯ 時計 / 車両設定* P.110
- ⑰ 車両設定* P.110
- ⑱ メーター表示設定 P.109
- ⑲ 警告メッセージ P.109

■ シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

■ 航続可能距離

高電圧バッテリー残量と平均電費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

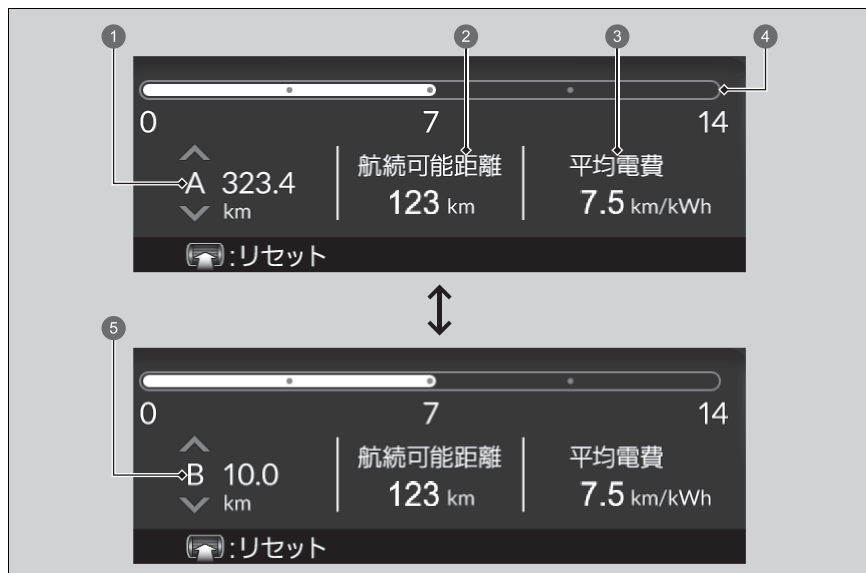
ECON モードを ON にした際や、エアコンを OFF にした際に増加する航続可能距離が表示されます。

🔗 **ECON スイッチ** P.229

🔗 **オートエアコンの使いかた** P.203

航続距離 / 電費 / トリップメーター

レフトセレクトアホイールを回すと、トリップメーターのA、Bが切り換わります。



- ① トリップメーターA
- ② 航続可能距離
- ③ 平均電費
- ④ 瞬間電費
- ⑤ トリップメーターB

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

また、平均電費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされません。

■平均電費表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均電費を一定時間ごとに更新して km/kWh で表示します。

■瞬間電費表示

瞬間電費をバーグラフに km/kWh で表示します。

※トリップメーター

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターを充電やパワーモード OFF (IGN OFF) と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ 時計*/車両設定 P.110

充電連動の場合、外気温が低くバッテリー加熱システムが作動したときは、トリップメーターが自動的にリセットされないことがあります。

▶ バッテリー加熱システム P.342

※平均電費表示

表示される平均電費は、実際に走行した電費とは異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均電費表示 A、B を充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ 時計*/車両設定 P.110

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから電費の計算を開始しません。

■航続可能距離表示

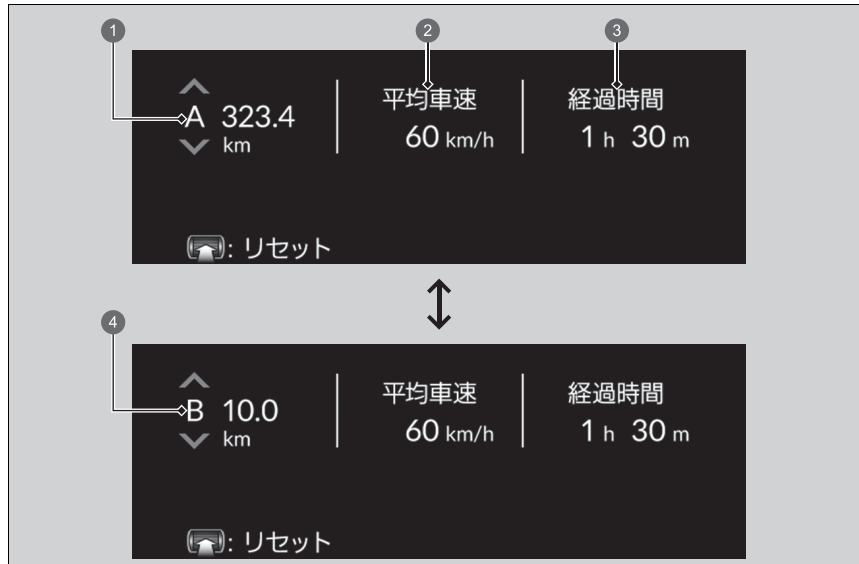
高電圧バッテリー残量と平均電費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

☒航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

車速 / 経過時間 / トリップメーター

レフトセレクトアホイールを回すと、トリップメーターのA、Bが切り換わりま
す。



- ① トリップメーターA
- ② 平均車速
- ③ 経過時間
- ④ トリップメーターB

■トリップメーター

☒ トリップメーター P.101

■経過時間表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■平均車速表示

トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

☒経過時間表示

経過時間表示は999時間59分まで表示できません。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

☒ 時計*/車両設定 P.110

☒平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を充電と連動させて自動的にリセットさせることができます。

☒ 時計*/車両設定 P.110

オーディオ*

各種音楽メディアの表示を行います。

電話*

ハンズフリー電話の表示を行います。

ナビゲーション***コンパス**

コンパスが表示されます。

交差点案内表示

ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

高電圧バッテリー温度計

高電圧バッテリーの温度を表示します。

ナビゲーション*

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

▶ 時計*/車両設定 P.110

高電圧バッテリー温度計

高電圧バッテリーの温度は、外気温や走行条件、充電状況などにより変化します。

▶ 電気自動車の注意点 P.7

▶ 高電圧バッテリーの充電 P.330

■全席シートベルト

全席シートベルトの使用状況を表示します。

🔍 シートベルトリマインダー P.32

■安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、パーキングセンサー警報の作動状態を表示します。

- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

🔍安全支援情報

オレンジで表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセレクターホイールを押して ON/OFF を切り換えます。

🔍 路外逸脱抑制機能 P.256

🔍 衝突軽減ブレーキ(CMBS) P.236

🔍 踏み間違い衝突軽減システム* P.246

🔍 歩行者事故低減ステアリング P.265

🔍 パーキングセンサーシステム P.325

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。



- ① 路外逸脱抑制機能アイコン
- ② 路外逸脱抑制機能作動状態
- ③ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン
- ④ 踏み間違い衝突軽減システム作動状態
- ⑤ パーキングセンサー警報アイコン
- ⑥ パーキングセンサー警報作動状態
- ⑦ 衝突軽減ブレーキアイコン
- ⑧ 衝突軽減ブレーキ作動状態

安全支援情報

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

- ▶ 路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ) P.76
- ▶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 P.76
- ▶ 路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) P.86
- ▶ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ) P.75
- ▶ 衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー) P.85
- ▶ 安全支援情報 警告灯(オレンジ)* P.78
- ▶ 安全支援情報 表示灯(グリーン/グレー)* P.86

踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンของときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

- ▶ 時計*/車両設定 P.110

パーキングセンサー警報アイコンがグリーンของときでも「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後方のパーキングセンサー警報は作動しません。

- ▶ 時計*/車両設定 P.110

■カレンダー

日付、時刻を表示します。

🔍 時刻 / 日付の設定 P.119

■明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。

レフトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。

明るくする：レフトセレクターホイールを上に戻す

暗くする：レフトセレクターホイールを下に戻す

レフトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

🔍 カレンダー

カレンダーの背景はランダムに表示します。
背景の ON/OFF を選択することができます。

🔍 時計*/車両設定 P.110

誕生日や記念日を設定することができます。

🔍 時計*/車両設定 P.110

設定した日付にパワーモードを ON モードにするとメッセージを表示します。

🔍 明るさ設定

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。

- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

メーター表示設定

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



1. 「メーター表示設定」の画面が表示されますので、レフトセレクトターホイールを回す。
2. レフトセレクトターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。
3. レフトセレクトターホイールを押して決定する。
 - ▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

メーター表示設定



文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

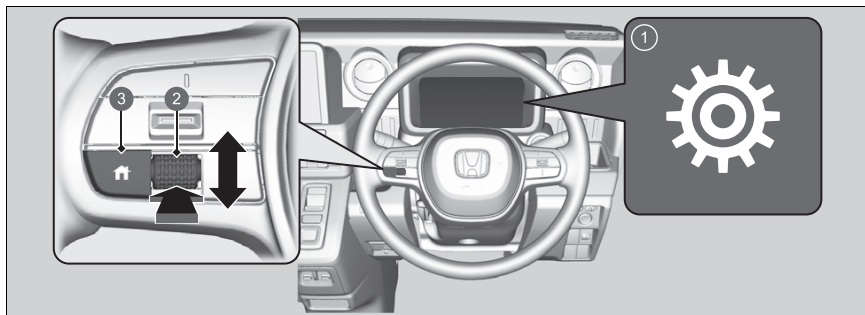
設定変更するときはシフトポジションを[P]にしてください。


警告メッセージ

複数のメッセージがある場合は、レフトセレクトターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

時計*/車両設定

パワーモードがON モードでシフトポジションが[P]のときに、スイッチを押し、レフトセクターホイールを回して、を選択します。レフトセクターホイールを押ししたあと、レフトセクターホイールを回すと、設定を変更することのできる「グループ」画面に切り換わります。



- ① マルチインフォメーションディスプレイ
- ② レフトセクターホイール
 - 回す：選択する
 - 押す：決定する
- ③ スイッチ

※時計*/車両設定

❏ 設定項目 P.111

❏ カスタマイズ設定の例 P.114

■設定項目

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせて設定を変更することができます。

項目	選択できる設定内容	
時計設定*	日付調整*	年(2020 ~ 2200)、月(1 ~ 12)、日(01 ~ 31)
	時刻調整*	時間(1 ~ 12) ^{※1} /(0 ~ 23)、分(00 ~ 59)
	時計表示*	24h、12h ^{※1} 、非表示
運転支援システム設定	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報距離	遠め、標準 ^{※1} 、近め
	ACC 先行車検知音	有り、無し ^{※1}
	先行車発進お知らせ設定	標準 ^{※1} 、早め、OFF
	路外逸脱抑制機能設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準 ^{※1} 、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音	ON、OFF ^{※1}
	標識認識機能表示	ON ^{※1} 、OFF
	標識認識機能速度超過お知らせ	ON ^{※1} 、OFF
	標識認識機能速度超過量	+0km/h ^{※1} 、+5km/h、+10km/h、+15km/h
	リアパーキングセンサー警報設定	ON ^{※1} 、OFF

※1 : 工場出荷時の設定

項目	選択できる設定内容	
メーター設定	外気温表示補正	-3℃～±0℃ ^{※1} ～+3℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	充電連動、IGN OFF 時、手動のみ ^{※1}
	TRIP B 自動リセットタイミング	充電連動、IGN OFF 時、手動のみ ^{※1}
	アラーム音量 ^{※2}	大、中 ^{※1} 、小
	交差点案内表示 ^{+※2}	ON ^{※1} 、OFF
	リアシートリマインダー ^{-※2}	ON ^{※1} 、OFF
	航続距離変化通知 ^{※2}	ON ^{※1} 、OFF
	タイヤ角度モニター ^{※2}	ON ^{※1} 、OFF
	カレンダー背景 ^{※2}	ON ^{※1} 、OFF
	誕生日設定 1 ^{※2}	月(-- ^{※1} 、1～12)、日(-- ^{※1} 、01～31)
	誕生日設定 2 ^{※2}	月(-- ^{※1} 、1～12)、日(-- ^{※1} 、01～31)
	記念日設定 1 ^{※2}	月(-- ^{※1} 、1～12)、日(-- ^{※1} 、01～31)
	記念日設定 2 ^{※2}	月(-- ^{※1} 、1～12)、日(-- ^{※1} 、01～31)
	記念日設定 3 ^{※2}	月(-- ^{※1} 、1～12)、日(-- ^{※1} 、01～31)

※1：工場出荷時の設定

※2：Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

項目	選択できる設定内容	
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量 ^{※2}	大 ^{※1} 、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー ^{※2}	作動 ^{※1} 、非作動
ライティング設定	オートハイビーム	ON ^{※1} 、OFF
	インテリアライト点灯時間 ^{※2}	60秒、30秒 ^{※1} 、15秒
	アクセサリライght ^{※2}	ON ^{※1} 、OFF
	ワンタッチターンシグナル ^{※2}	ON ^{※1} 、OFF
ドア設定	キーレスアンサーバック ^{※2}	作動 ^{※1} 、非作動
初期化設定		中止、実行

※1：工場出荷時の設定



※2：Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「充電連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. スイッチを押し、レフトセクターホイールを回して、が表示されたら、レフトセクターホイールを押し。



2. レフトセクターホイールを回す。
▶「グループ」画面に切り換わりますので、レフトセクターホイールを回し、「メーター設定」を選択します。

※時計*/車両設定

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

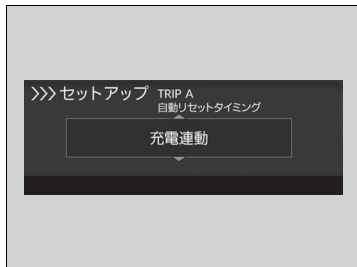
- パワーモードをアクセサリモードまたはOFFモードにする
- シフトポジションを[P]以外にする



3. レフトセレクトターホイールを押す。
▶「メニュー」画面に切り換わります。



4. レフトセレクトターホイールを回し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、レフトセレクトターホイールを押す。
▶「セットアップ」画面に切り換わり、「充電連動」、「IGN OFF時」、「手動のみ」が選択できます。



5. 「充電連動」が選択されていることを確認し、レフトセレクトターホイールを押す。
▶「メニュー」画面に戻ります。



6. 「戻る」が表示されたら、レフトセレクトホイールを押す。
7. **手順6**の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

■ タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。

- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを **[D]** または **[B]** にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 **[R]** にしたとき

☒ タイヤ角度モニター

タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。

☒ 時計*/車両設定 P.110

表示中に **[HOME]** スイッチを押すと、違う表示に変わり再表示できません。

☒ 表示の切り換えかた P.97

いずれかの表示条件を満たすと再度表示されます。

各部の操作

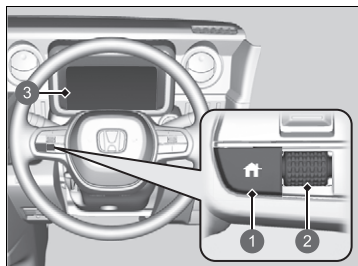
この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻 / 日付の設定	119	ハンドルまわりのスイッチ操作		アームレスト*	182
ドアの施錠と解錠		POWER スイッチ	144	室内装備品	183
キー	123	方向指示器(ウィンカースイッチ)	147	エアコン	
Honda スマートキーの微弱電波	126	ライトの使い方	148	エアコンの吹き出し口	202
車外でのドアの施錠 / 解錠	127	ヘッドライトレベリングダイヤル	151	オートエアコンの使いかた	203
車内での施錠 / 解錠	133	オートハイビーム	152	オートエアコンのセンサー	206
衝撃感知ドアロック解除システム	134	ワイパー/ ウォッシャー	155	外部給電のしかた*	207
テールゲート	135	リヤデフロスタースイッチ	157		
スライドドア	138	ハンドルの調節	158		
セキュリティシステム		ミラー類の調節	159		
イモビライザーシステム	140	シートの調節	163		
セキュリティアラームシステム*	140	フロントシート	163		
ウィンドウの開閉	142	リヤシート*	175		
		リアシートリマインダー*	179		
		ヘッドレスト	180		

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時計の時刻 / 日付を合わせる*

時計はメーターに表示されます。



- ① スイッチ
- ② レフトセレクトターホイール
- ③ 時計

パワーモードがON モードでシフトポジションが **P** のときに、 スイッチを押します。

レフトセレクトターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクトターホイールを押して決定します。

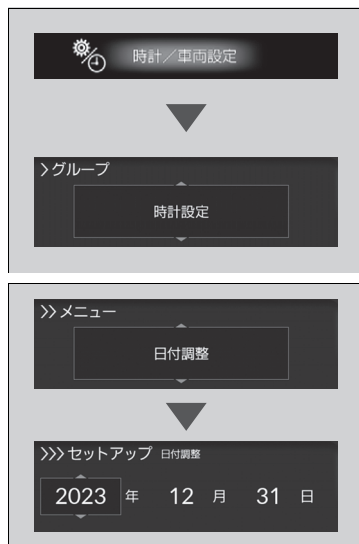
時刻 / 日付の設定

ディスプレイオーディオ装備車

Honda CONNECT ナビ装備車

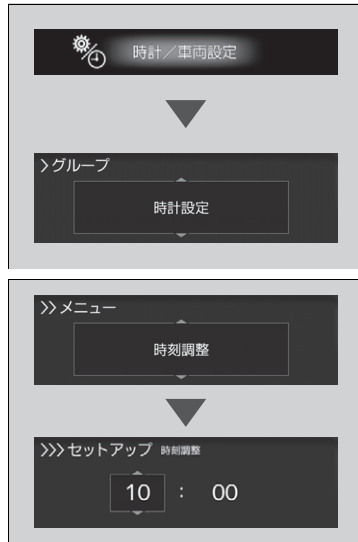
時計と日付は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻、日付合わせは不要です。

■日付の調整



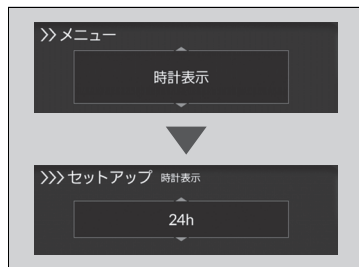
1. レフトセレクトターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクトターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
3. レフトセレクトターホイールで「日付調整」を表示させ、決定する。
▶「年」の調整ができます。
4. レフトセレクトターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「年」が設定され、「月」の調整ができます。
5. 手順4と同様の操作で「月」、「日」の調整をする。

■時刻の調整



1. レフトセレクトターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクトターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
3. レフトセレクトターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
▶ 「時」の調整ができます。
4. レフトセレクトターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶ 「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. レフトセレクトターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶ 「分」が設定されます。

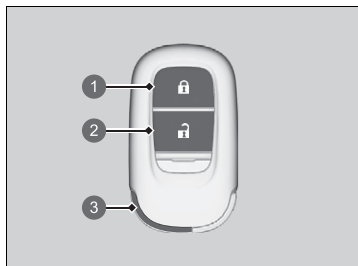
■時計表示の選択



1. レフトセレクトターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。
2. レフトセレクトターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
3. レフトセレクトターホイールで「時計表示」を表示させ、決定する。
▶ 時計表示設定ができます。
4. レフトセレクトターホイールで希望の項目を表示させ、決定する。
▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計表示が 12 時間または 24 時間に切り替わります。
▶ 「非表示」を選択すると時計が非表示となります。

キー

この車には、以下のキーが付いています。



- ① 施錠ボタン
- ② 解錠ボタン
- ③ 内蔵キー

パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、充電リッドの施錠 / 解錠に使用できます。

❖キー

すべてのキーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

❖イモビライザーシステム P.140

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこり避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、パワーシステムの起動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

☒ キー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

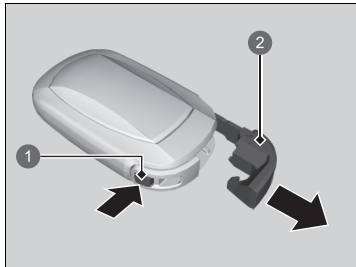
- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

☒ Honda スマートキーの電池が切れたとき

P.400

■ 内蔵キー



- ① ボタン
- ② 内蔵キー

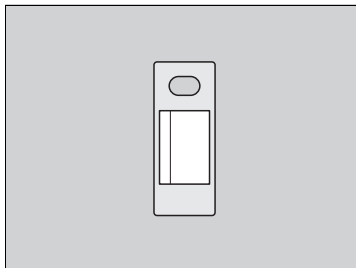
Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

■ キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

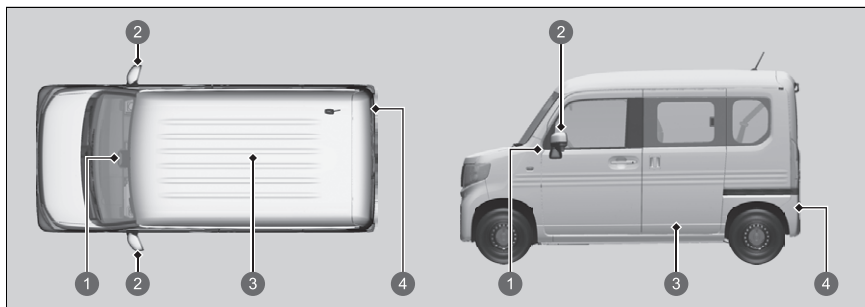
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、充電リッドの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 急速充電器など強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



- ① 車室内発信機(インストルメントパネル内)
- ② 車室外発信機(ドアミラー内)^{※2}
- ③ 車室内発信機(リヤフロア内部)^{※1、※2}
- ④ 車室外発信機(リヤバンパー内)^{※1、※2}

※1 : 4人乗りハロゲンヘッドライト装着車

※2 : 4人乗りLEDヘッドライト装着車

⊠ Honda スマートキーの微弱電波

⚠ 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から22cm以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

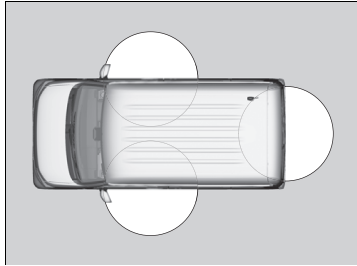
Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約2年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約3秒長押しするとインジケーターが2回点滅し、電波の受信が停止します。Honda スマートキーのいずれかのボタンを1回押しと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステム* での施錠 / 解錠



施錠 / 解錠の作動範囲

Honda スマートキーを携帯し、ロック / アンロックボタンを操作することでドア、テールゲート、充電リッドの施錠や解錠ができます。

施錠 / 解錠が作動するのは、運転席または助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 80cm 以内です。

☒ 車外でのドアの施錠 / 解錠

ドア、テールゲートを解錠すると、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠すると室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にドア、テールゲートを施錠すると、室内灯は直ちに消灯します。

■ 室内灯 P.183

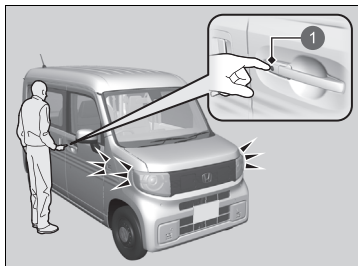
☒ Honda スマートキーシステム* での施錠 / 解錠

Honda スマートキーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

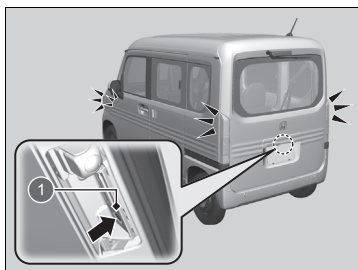
パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

ドア、テールゲートが開いているときは、Honda スマートキーシステムで施錠できません。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロック / アンロックボタンで施錠 / 解錠操作ができます。



① ロック / アンロックボタン



① ロックボタン

■施錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタン、テールゲートのロックボタンを押します。

- ▶ 「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが施錠されます。

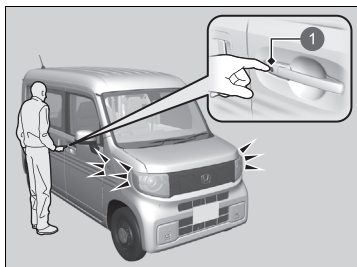
※Honda スマートキーシステム* での施錠 / 解錠

- テールゲートハンドルを押した直後は、テールゲートが開かないことがあります。テールゲートハンドルを押しなおして解錠されていることを確認してから開けてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートハンドルより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。

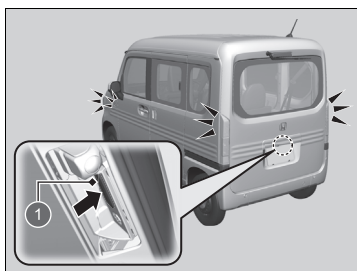
カスタマイズ機能について

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

※ 時計* / 車両設定 P.110



① ロック / アンロックボタン



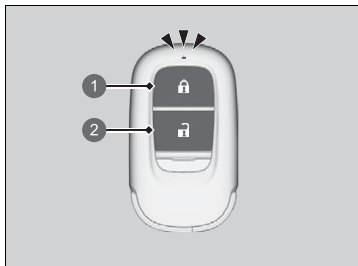
① テールゲートハンドル

■解錠するには

運転席ドア、助手席ドアのロック / アンロックボタンを押すか、テールゲートハンドルを押します。

▶ 「ピピッ」というアンサーバックが鳴り、非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが解錠されます。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



- ① 施錠ボタン
- ② 解錠ボタン



■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目：

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して5秒以内)：

- ▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、充電リッドが解錠されます。

☒キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

パワーモードがOFFモード以外のときはキーレスエントリーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

☒ 電池交換のしかた P.370

☒マルチインフォメーションディスプレイ装備車

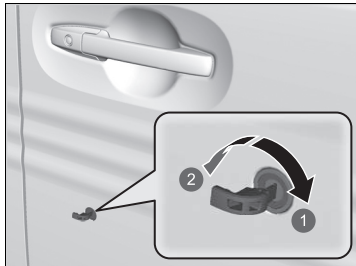
マルチインフォメーションディスプレイを使ってキーレスアンサーバック機能の設定を変更することが可能です。

☒ 時計* / 車両設定 P.110

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーのボタンで施錠 / 解錠できない場合は、内蔵キーを使用してください。

❏ 内蔵キー P.125



① 施錠

② 解錠

キーを確実に差し込んで、回します。

❏ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に施錠 / 解錠されます。

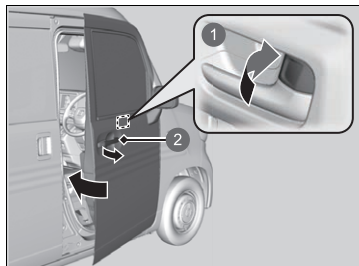
セキュリティアラームシステム装備車

セキュリティアラームシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠してドアを開けると警報装置が作動します。

❏ セキュリティアラームシステム* P.140

■キーを使わない施錠

キーが正常に作動しなくなったときや、キーを所持していないときに、キーを使わずに施錠することができます。



■運転席のドアの施錠

ノブ(①)を押し込み、外側のドアハンドル(②)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブで施錠して、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

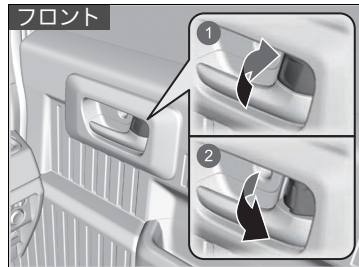
⊗キーを使わない施錠

運転席ドアで施錠すると、他のすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に施錠されます。

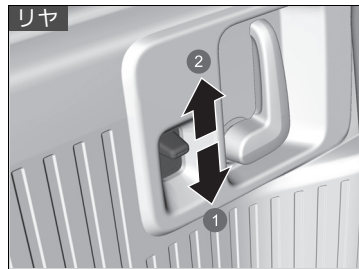
施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



- ① 施錠
- ② 解錠



- ① 施錠
- ② 解錠

フロント

■ 施錠するには
ノブを押し込みます。

■ 解錠するには
ノブを引き出します。

リヤ

■ 施錠するには
ノブを下げます。

■ 解錠するには
ノブを上げます。

☒ ノブでの施錠 / 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、充電リッドも同時に施錠 / 解錠されます。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲート、充電リッドを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

※衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉をするときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。

▼テールゲート開閉時の注意

⚠注意

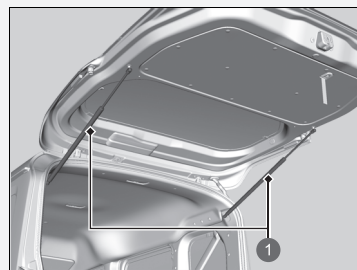
テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないように注意する。

頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

カーゴスペース内に、人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

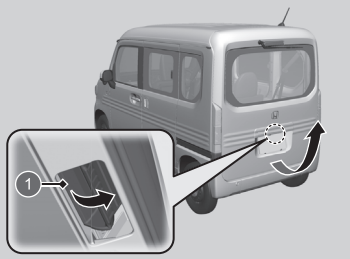
テールゲートオープンステイに荷物などが接触しないように注意してください。



① テールゲートオープンステイ

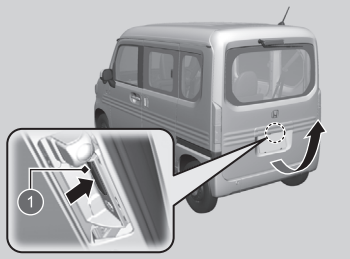
テールゲートの開閉

Honda スマートキーシステム 非装備車



① テールゲートハンドル

Honda スマートキーシステム 装備車



① テールゲートハンドル

Honda スマートキーシステム非装備車

解錠されているときに、テールゲートハンドルを引きます。

Honda スマートキーシステム装備車

解錠されているときに、テールゲートハンドルを押して引きます。

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートハンドルを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

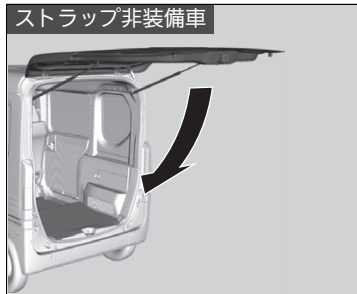
▶ Honda スマートキーシステム* での施錠/解錠

P.127

※テールゲートの開閉

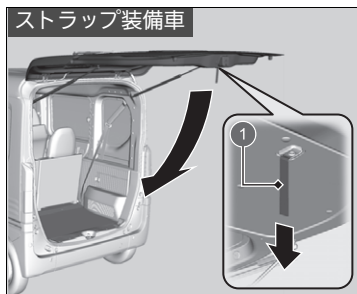
Honda スマートキーシステム装備車

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートハンドルでテールゲートを解錠することができます。



ストラップ非装備車

テールゲートを持って引き下げ、外側より押して閉めます。



ストラップ装備車

テールゲートのストラップを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

① ストラップ

スライドドア開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする
 - ▶ 運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

※スライドドア



注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないように注意する。

特にお子さまには気をつけてください。

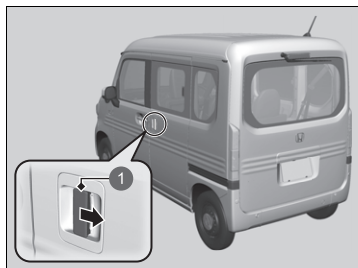
傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。

ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

スライドドアの開閉操作



① ドアハンドル



- ① 開
- ② ハンドル

■車外から開閉するとき

開けるとき： ドアハンドルを引きながら後方へスライドさせる。

閉めるとき： ドアハンドルをにぎり前方へスライドさせる。

■車内から開閉するとき

開けるとき： ハンドルを持ち後方へ引いてスライドさせる。

閉めるとき： ハンドルを持ち前方へ押してスライドさせる。

※スライドドアの開閉操作

スライドドアは全開にするとストッパーで固定されます。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとパワーシステムの起動はできないシステムです。

POWERを押すときは、下記の点に注意してください。

- **POWER** スイッチの近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム*

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリースystemを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリースystemで解錠するか、パワーモードをONモードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

※イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

※セキュリティアラームシステム*

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約5分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1回の作動につき約30秒間作動し、その警報作動が10回行われます。

状況によっては、5分以上作動することがあります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

※セキュリティアラームシステム*

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

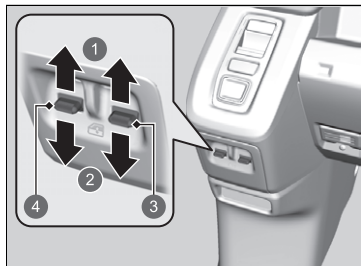
そのときは、Honda スマートキーシステム* またはキーレスエントリーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

セキュリティアラームシステムがセットされているとき、内蔵キーで解錠すると警報装置が作動します。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードがONモードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はシフトポジションスイッチ下側にあるスイッチで行います。



- ① ウィンドーを閉める
- ② ウィンドーを開ける
- ③ 運転席用スイッチ
- ④ 助手席用スイッチ

開けるとき：スイッチを下に押す

閉めるとき：スイッチを上を押す

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

☒ パワーウィンドーの開閉

⚠ 警告

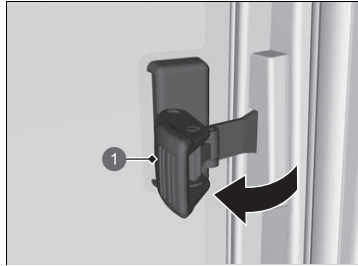
パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

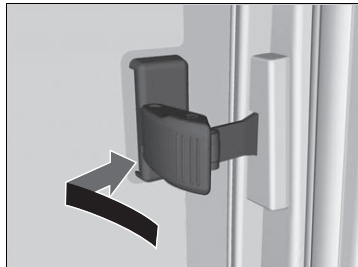
後席ウィンドーの開閉*

スライドドアのウィンドーを開けることができます。



1. レバーを手前に引く。

① レバー



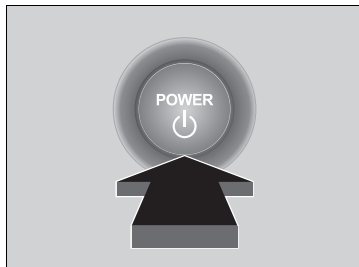
2. レバーを外に押し出して固定する。

☒後席ウィンドーの開閉*

閉めるときは逆の手順で行い、レバーを確実に戻します。

POWER スイッチ

■パワーモードの切り換えかた



Honda スマートキーを携帯し、ブレーキを踏まずに **POWER** を押すと OFF モード→アクセサリモード→ON モード→OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード：

車両の電源が OFF の状態です。

アクセサリモード：

オーディオなど一部のアクセサリが使用できます。

ON モード：

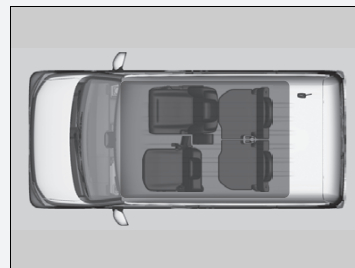
すべてのアクセサリが使用できます。

※POWER スイッチ

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

Honda スマートキーが車内にある場合パワーモードを ON モードにできます。

Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペース、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。



パワーモード ON の作動範囲

■ パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが **P** でパワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～60 分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。

■ パワーモード警告ブザー

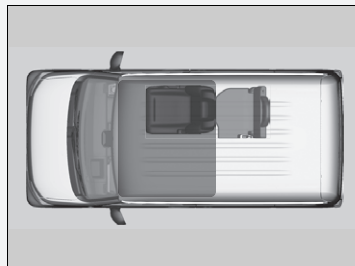
次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

※ POWER スイッチ

助手席非装備車

Honda スマートキーを後席に置いた場合も電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。



パワーモード ON の作動範囲

■ Honda スマートキー持ち去り警告

インフォメーションディスプレイ
装備車

NO KEY

マルチインフォメーションディス
プレイ装備車



キーが見つかりません
キーを車内に
戻してください

パワーモードが OFF モード以外のときに Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると警告ブザーが鳴ります。

警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードがアクセサリモードのとき

車外から警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードが ON モードのとき

車外と車内から警告ブザーが鳴ります。また、メーター内に警告が表示されます。

▶▶ Honda スマートキー持ち去り警告

パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

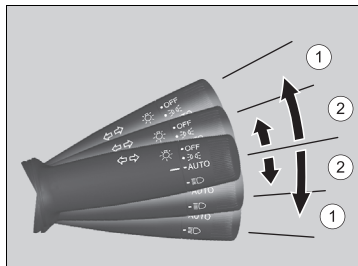
窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーを、インストルメントパネルなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーがパワーモード ON の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



■①：方向指示器

進行方向に応じてレバーを下または上に押し込むと方向指示器が点滅します。

■②：ワンタッチターンシグナル

レバーを下または上に軽く押してレバーを放すと、方向指示器が3回点滅します。

- ▶ 点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

※方向指示器(ウィンカースイッチ)

方向指示器が点滅するとメーター内の方向指示器表示灯が点滅します。

▶ 表示灯 P.80

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

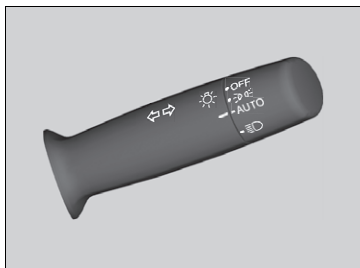
ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

▶ 時計*/車両設定 P.110

ライトの使い方

■ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯/消灯させることもできます。パワーモードがONモードのとき、ライトスイッチを **AUTO** にすると自動点灯が作動します。



■手動点灯/消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯：

ライトスイッチを **☀** にします。

車幅灯の点灯：

ライトスイッチを **🚗** にして手を放します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行くとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを **🚗** にしたあと、 **AUTO** にします。または、 **☀** にして手を放します。

☒ ライトの使い方

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ **表示灯** P.80

☒ ヘッドライト・車幅灯

車幅灯が点灯しているときは尾灯、番号灯も点灯します。

スイッチを **🚗** にしたままパワーモードをOFFモードにすると、運転席のドアを開けた時にライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。このとき、Honda スマートキーシステム*、または、キーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ライトが消灯します。

パワーシステムが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、12V バッテリーあがりの原因となります。

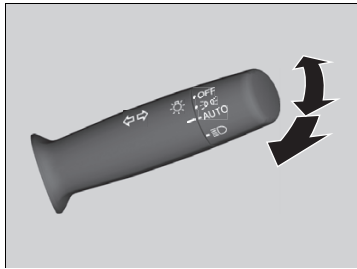
ヘッドライト・車幅灯の消灯：

停車中にライトスイッチを**OFF**にして手を放します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ハイビーム

ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押しとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。

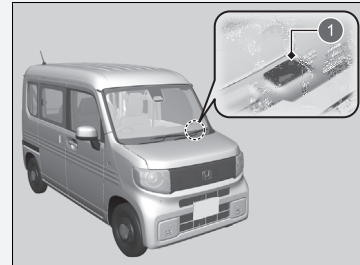
**■パッシング**

レバーを手前に引くとハイビームが点灯します。

- ▶ レバーを放すとレバーはロービームの位置に戻ります。

☒ヘッドライト・車幅灯

照度感知部は図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



① 照度感知部

■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードをOFFモードにして、Hondaスマートキーシステム*、およびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

- ▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。ライトスイッチを **AUTO** にしているときはパワーモードをOFFモードにすると消灯します。

LED ヘッドライト 装備車

■アクセサリライト

アクセサリライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。

- パワーモードがONモードのとき
- ライトスイッチが **AUTO** で周囲が明るいとき

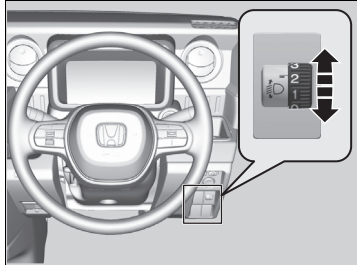
▶▶ アクセサリライト

マルチインフォメーションディスプレイでアクセサリライトのON/OFF設定を変更することができます。

▶▶ 時計*/車両設定 P.110

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヘッドライトレベリングダイヤル



車幅灯、ヘッドライトが点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。ダイヤルの数字が大きいくほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

※ヘッドライトレベリングダイヤル

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを0の位置に戻してから行ってください。

ダイヤル位置1と2は、乗員の人数や荷物の量に応じて、調節してください。

オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

☒ オートハイビーム

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

☒ フロントワイドビューカメラ P.315

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

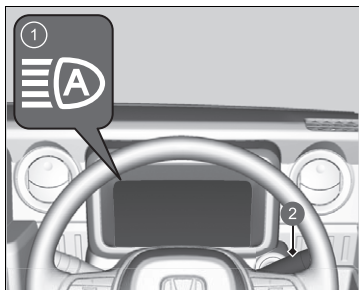
- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

オートハイビームの使いかた

■ システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- ① オートハイビーム表示灯
- ② ライトスイッチ

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを **☰** に回したあと、 **AUTO** に戻す

※ オートハイビームの使いかた

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

▶ 時計*/車両設定 P.110

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がない
- 前方に街灯などの光が少ない



ロービーム

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。


- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。


レバーによる操作：

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。または、レバーを前方(ハイビームの位置)に押す。

- ▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。
- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを  に回した後、**AUTO** に戻す。

このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを  に回す。

- ▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを **AUTO** に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

※ハイビーム / ロービームの自動切り換え

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

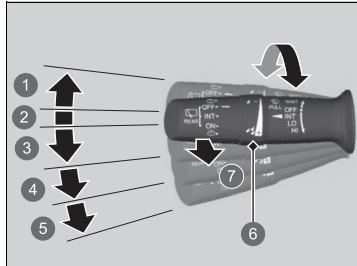
- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ワイパー / ウォッシャー

■ フロントワイパー / ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。



- ① MIST : (レバーを操作している間作動)
- ② OFF : 停止
- ③ INT : 間欠 (雨量が少ないとき)
- ④ LO : 低速 (普通の雨量のとき)
- ⑤ HI : 高速 (雨量が多いとき)
- ⑥ 間欠時間の調節*
 - 間欠間隔が長い
 - 間欠間隔が短い
- ⑦ ウォッシャー

■ MIST

レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ ワイパースイッチ (OFF、INT、LO、HI)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ 間欠時間の調節*

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。

■ ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※ ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

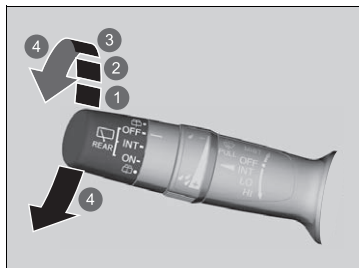
アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

ワイパーには、内蔵モーターの保護機能を搭載しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、モーターの保護のため一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、通常通り使用できるようになります。

■ リヤワイパー/ウォッシャー*



- ① OFF：停止
- ② INT：間欠作動
- ③ ON：低速作動
- ④ ：ウォッシャー

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを **R** に入れるとリヤワイパーが作動します。

パワーモードがONモードのときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

■ ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※ワイパー/ウォッシャー

間欠時間調節リング装備車

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。

間欠時間を短いほうにいっぱいになっている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

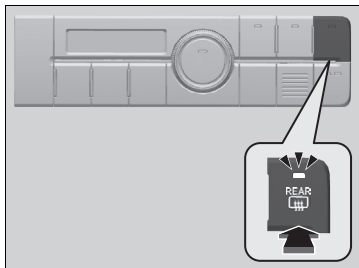
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速)	
HI(高速)	連続作動

リヤデフロスタースイッチ



パワーモードがONモードのときにスイッチを押すと、リヤガラスを暖め、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が0℃以下のときは自動的に停止しません。

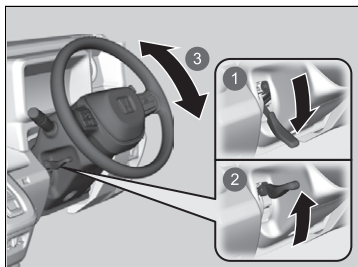
⚠リヤデフロスタースイッチ

この装置は消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



- ① 解除
- ② 固定
- ③ 調節

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
 - ▶ ハンドル位置調節レバーは、ステアリングコラムの左側にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
 - ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
 - ▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

※ハンドルの調節

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ルームミラー

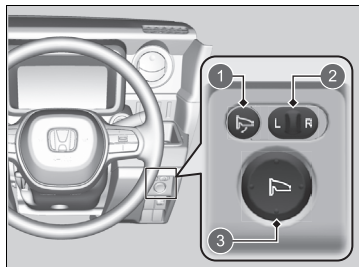


ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢で
すわった位置でミラーを調節してくださ
い。

▶ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってくださ
い。

ドアミラー



- ① 格納スイッチ
- ② 左右切り換えスイッチ
- ③ 角度調節スイッチ

	格納スイッチ の状態	ミラーの 状態
ON		
OFF		

電動格納ドアミラー装備車

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

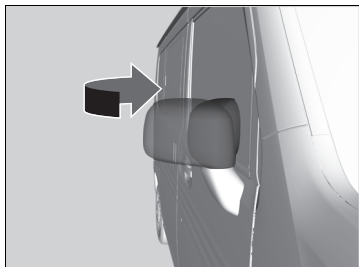
格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。



電動格納ドアミラー非装備車

■角度調節

鏡面を手で直接調整します。



■格納

ミラーを車両後方に折りたたみます。走行するときは必ず元に戻してください。

サイドアンダーミラー



① サイドアンダーミラー

助手席側ドアミラーの下部についています。停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

※サイドアンダーミラー

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドアンダーミラーは車両左側を見るために下向きになっています。

サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

※フロントシート

注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転席は、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

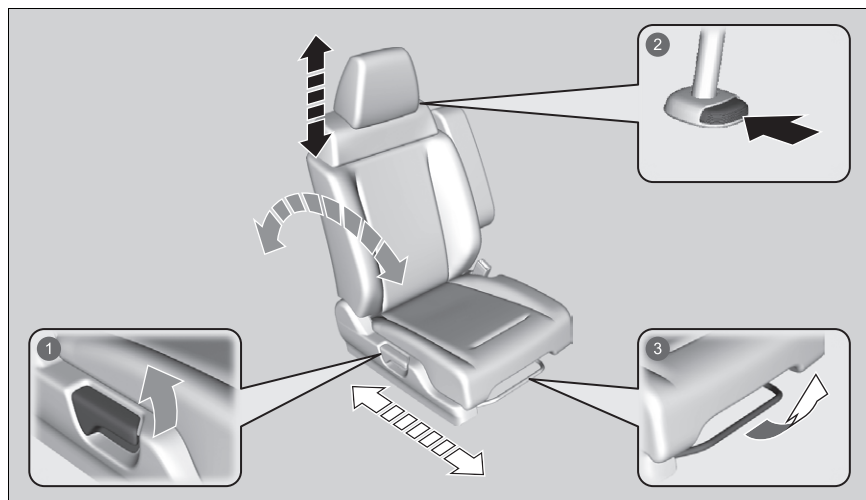
同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ シートの動かしかた

■ 運転席



① 背もたれの角度調節

レバーを引き上げながら調節

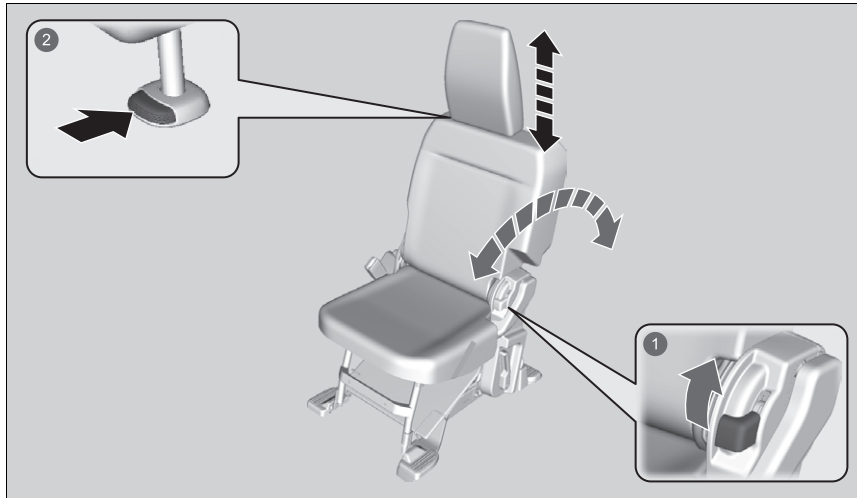
② ヘッドレストの調節

- 高くするとき、引き上げる
- 低くするとき、ノブを押しながら下げる

③ 前後位置の調節

レバーを引き上げながら、前後位置を調節

■ 助手席*



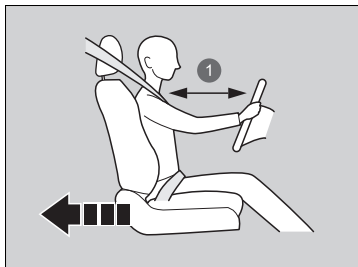
① 背もたれの角度調節

レバーを引き上げながら調節

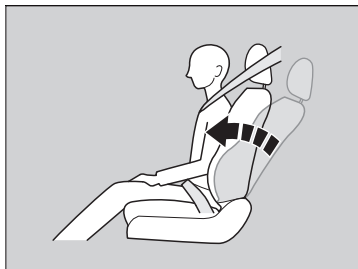
② ヘッドレストの調節

- 高くするときには、引き上げる
- 低くするときには、ノブを押しながら下げる

■フロントシートの調節



① 十分な距離をとる



■運転席位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

※フロントシートの調節

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置まで運転席を下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

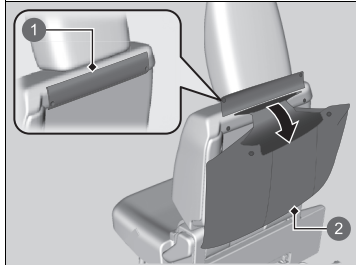
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

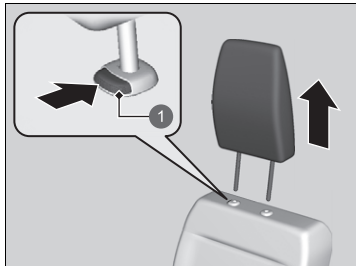
背もたれと背中間にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

助手席の収納*



- ① フラップ
- ② バッグ



- ① ノブ

■ 収納のしかた(ヘッドレスト)

助手席背もたれの後ろにバッグが収納されています。

外した助手席ヘッドレストを収納することができます。

1. フラップをあげて収納されているバッグを、図のように展開する。
2. ノブを押しながら助手席のヘッドレストを外す。

※助手席の収納*

⚠ 注意

収納状態の助手席へ荷物を積載するときは十分注意する。

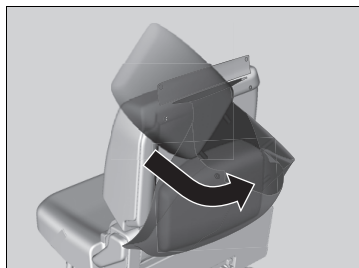
助手席を収納状態にして荷室として使用する場合は確実に荷物を固定してください。また、重い荷物の積載や運転者の視界を妨げるような積載は避けてください。積載した荷物が運転の妨げになったり、荷崩れなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

倒した助手席の背もたれの上に人を乗せない。

走行中にブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。

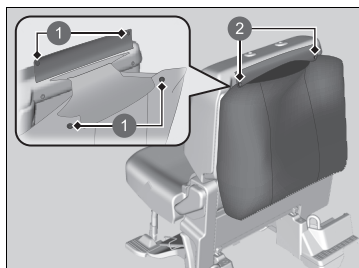
助手席を収納状態にせず背もたれを前方に倒した状態では走行しない。また、後席に人が乗るときは助手席を収納状態にして走行しない。

走行中にブレーキをかけたときなどに、けがをするおそれがあります。



3. 取り外したヘッドレストは背面側を後席方向に向けて、ヘッドレストの脚からバッグへ入れて横向きに収納する。

- ▶ ヘッドレストの脚が運転席側へ向くように収納してください。
- ▶ 横向き以外で収納はしないでください。横向きに収納しないと、助手席の収納ができません。



4. ボタンで固定する。

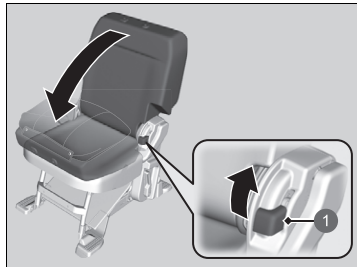
- ▶ 走行中に外れることがないようにしっかりと固定されていることを確認してください。

① ボタン

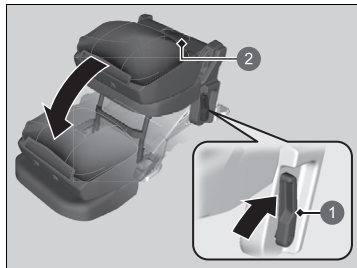
② 閉じる

※収納のしかた(ヘッドレスト)

バッグはヘッドレスト専用です。



① 背もたれ調節レバー



- ① レバー
- ② ストラップ

■ 収納のしかた(助手席)

1. 背もたれ調節レバーを引き上げながら、背もたれを前方いっぱいまで倒す。

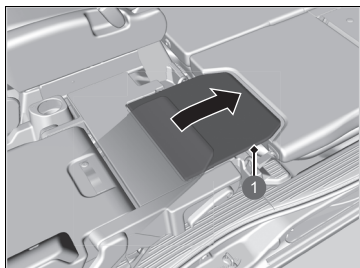
2. レバーを引きながら、シート背面のストラップを持ち、シートを前方に倒す。

※ 助手席の収納*

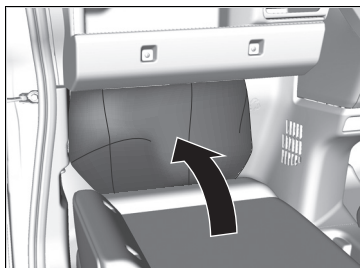
収納状態の助手席へ荷物を積載するときはタイダウンフックを使用して確実に荷物を固定してください。

▶ タイダウンフック P.187

シートを収納するときは、シートの下にものやシートベルトを置いたまま操作しないでください。



① ブリッジボード



3. リヤシートを収納しているときは、助手席の下に収納されているブリッジボードを使用し、荷物の積載のためにリヤシートと助手席の段差を無くすことができます。

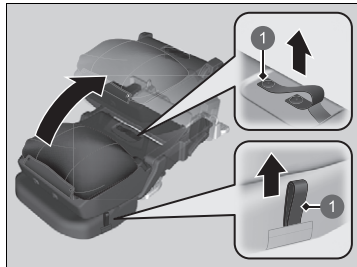
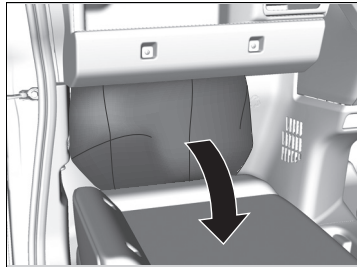
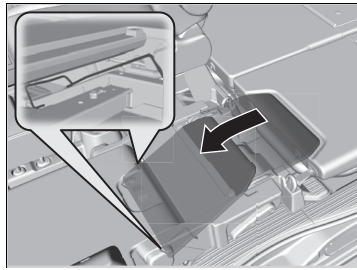
❏ リヤシートの収納 P.175

4. バッグを助手席足元へ反転させる。

❏ 助手席の収納*

ブリッジボードは、助手席とリヤシートを収納した状態で、荷物を積載するときのみ使用してください。また、使用するときは収納した助手席とリヤシートの背もたれに対して段差が無いことを確認してからブリッジボードの上に荷物を積載し固定してください。

ブリッジボードを使用しないときは助手席下のラックに収納してください。



① ストラップ

■戻しかた

1. ブリッジボードを助手席下のラックに収納する。
2. バッグを助手席側へ戻す。
3. 座面のストラップと背もたれの背面のストラップを持って引き上げる。
4. 背もたれを起こして固定する。
 - ▶ シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。

※助手席の収納*

アドバイス

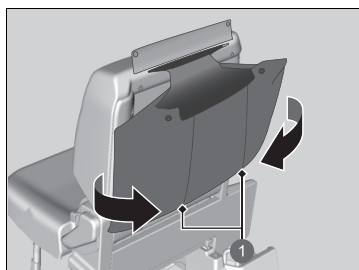
ブリッジボードは助手席を収納状態から元に戻す前に助手席下のラックに収納してください。

正しくラックに収納されていないと、ブリッジボードやシートが破損するおそれがあります。

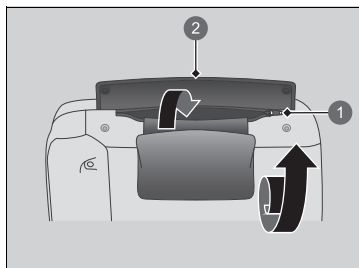
5. ヘッドレストを取り付ける。
 - ▶ ヘッドレストの高さを調節した後、軽く上下させ正しく固定されていることを確認してください。

■ ヘッドレスト P.180

6. バッグを折り目にそってたたみ、丸めて収納する。その後、ファスナーを閉めてフラップを固定する。
 - ▶ 丸めて収納しないとファスナーが閉まりません。

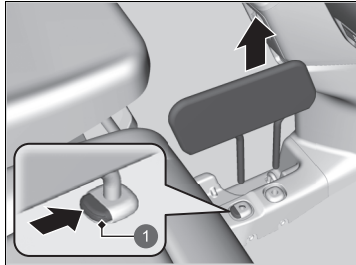


① 折り目



- ① ファスナー
- ② フラップ

■フロアボード*



① ノブ

小さな荷物が運転席の足元へ転がり落ちにくくするための仕切り板です。助手席を収納して荷室として使用するときにはフロアボードが正しく取り付けられていることを確認してください。

■取り外しと取り付け

フロアボードは、掃除や修理のために取り外すことができます。

フロアボードの取り外し：

ノブを押して引き上げ、取り外します。

フロアボードの取り付け：

フロアボードの脚を元の位置に差し込み、軽く上下させ、確実に固定します。

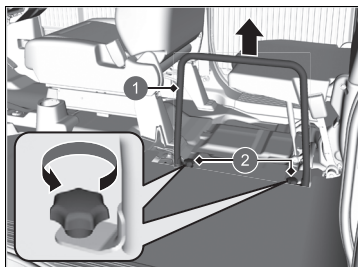
※フロアボード*

**注意**

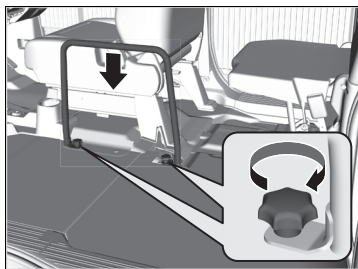
助手席収納時にフロアボードを外した状態で走行しない。

運転席の足元に小さな荷物が転がり落ちると運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

隔壁バー*



- ① 隔壁バー
- ② ボルト



隔壁バーは荷崩れを防止するための物です。リヤシートを使用する場合は必ず隔壁バーを設置してください。リヤシートを収納して使用する場合は隔壁バーを収納することができます。

■収納方法

1. ボルトを外し、隔壁バーを引き抜く。
2. 隔壁バーを収納位置へ移動させ、しっかりと差し込む。
3. ボルトで確実に固定する。

※隔壁バー*

⚠ 注意

後部座席使用時に隔壁バーを収納した状態で走行しない。

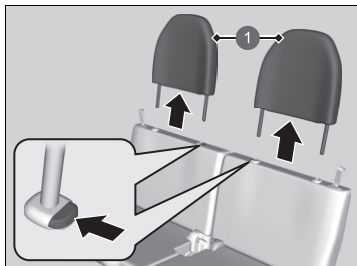
後部座席に荷物が転がり落ちると、思わぬけがにつながるおそれがあります。

隔壁バーに荷物を固定したり、座ったり、よりかかったりしないでください。破損する恐れがあります。

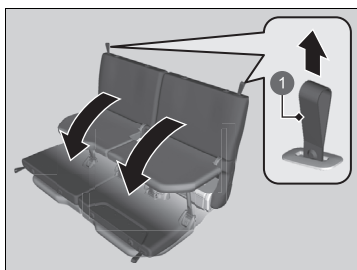
隔壁バーを紛失すると車検を受けることができなくなります。必ず車内に収納もしくは設置してください。

リヤシート*

■ リヤシートの収納



① ピロー*



① ストラップ

リヤシートを収納して荷室を広くできます。

■ ピロー装備車

1. リヤシートのピローを外す。

▶ ピロー* の収納 P.177

2. ストラップを引き上げ、背もたれを手で支えながら、シート全体を前方へ倒す。

▶ リヤシートを倒すときに背もたれが運転席に当たる場合は、運転席を前方へ動かしてください。

▶ フロントシート P.163

▶▶ リヤシートの収納

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

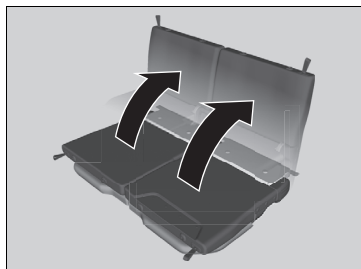
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

倒した背もたれの上やカーゴスペースには人を乗せて走行しない。

ブレーキをかけたときなどに、けがをすることがあります。

シートを倒して走行する際はヘッドレストをポケットに正しく収納してください。

シートを収納するときは、シートの下にものを置いたまま操作しないでください。



■元に戻すとき

1. 背もたれを持ってシート全体を起こして固定する。
 - ▶ リヤシートを起こすときに背もたれが運転席に当たる場合は、運転席を前方へ動かしてください。
- ➡ フロントシート P.163

ピロー装備車

2. ピローを取り付ける。
 - ▶ 軽く上下させ正しく固定されていることを確認してください。

※リヤシートの収納

リヤシートを元に戻すときはブリッジボードを助手席のシート下のラックに収納してから戻してください。

背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

はさまれると正しく着用できません。

■ ピロー* の収納

リヤシートを収納したとき、取り外した ピローを運転席背もたれの後ろにあるポケットへ収納することができます。



- ① ファスナー
- ② 開ける

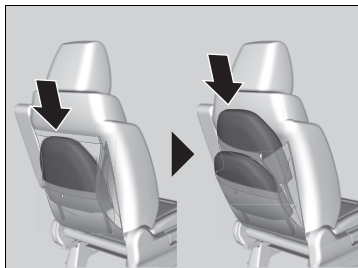
1. ファスナーをゆっくり下げてポケットを展開する。

※ピロー* の収納

ファスナーを途中で止めないでください。途中で止めてピローを収納すると、ファスナーが破損するおそれがあります。

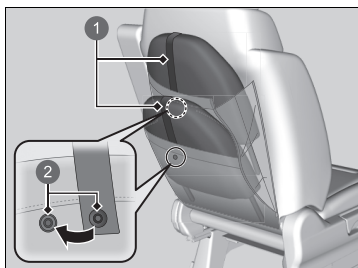
ピローを収納する際は正しい向きで入れストラップとボタンで確実に固定してください。

ポケットはピロー収納や車検証、取扱説明書等の収納専用です。



2. 取り外したピローは背面側を後席方向に向けて、下段のポケットから収納する。その後、2つ目のピローを上段のポケットへ収納する。

- ▶ ピローの脚を下向きにして収納してください。
- ▶ 上段のポケットからピローを収納すると、下段のポケットにピローが収納できません。



3. ストラップをポケット内側にあるボタンで固定する。

- ▶ ピローの脚が上向きだと正しく固定できません。
- ▶ 走行中に外れることがないようにしっかりと固定されていることを確認してください。

① ストラップ

② ボタン

リアシートリマインダー*

後席の荷物などの置き忘れおよび同乗者を載せていることを、降車前に運転者へお知らせする機能です。



■ 作動条件

- 後席ドアを開閉してからパワーモードをONモードにしたとき
- パワーモードがONモードのときに後席ドアを開閉したとき

上記の条件をどちらか満たしパワーモードをOFFモードにすると、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

※ リアシートリマインダー*

パワーモードをOFFモードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。

後席ドアを開閉した後、10分以内にパワーモードをONモードにしなかった場合は作動しません。

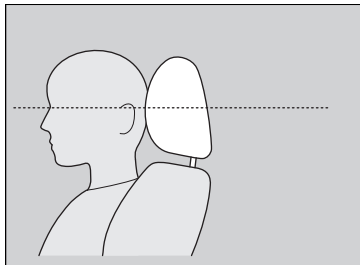
このシステムは後席の同乗者や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に同乗者や荷物がある可能性をお知らせします。

リアシートリマインダーが作動しないように設定することができます。

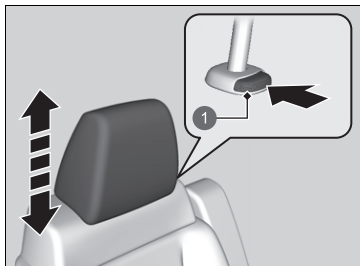
▶ 時計*/車両設定 P.110

ヘッドレスト

■ フロントシートのヘッドレストの調節



後頭部の中心がヘッドレストの中心に



① ノブ

後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき：ノブを押しながら下げます。

※ヘッドレスト



ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト*

■ フロントシートアームレストの操作



前に倒して使います。

※アームレスト*



警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかかない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

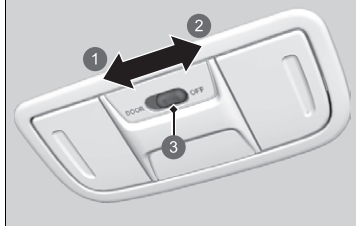
アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

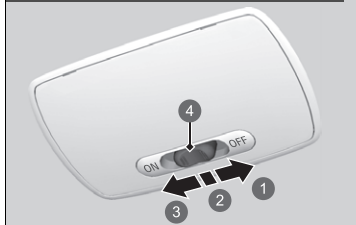
室内灯スイッチ

フロントシート用室内灯*



- 1 ドア連動
- 2 OFF
- 3 室内灯スイッチ

フロントシート*/リヤシート*用室内灯



- 1 OFF
- 2 ドア連動
- 3 ON
- 4 室内灯スイッチ

■ON

ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードをOFFモードにしたとき

■OFF

ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

※室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約30秒後に減光しながら消灯します。

以下の場合も約30秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードをOFFモードにしてドアを開けなかったとき

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

室内灯の消灯する時間をカスタマイズすることができます。

▶時計*/車両設定 P.110

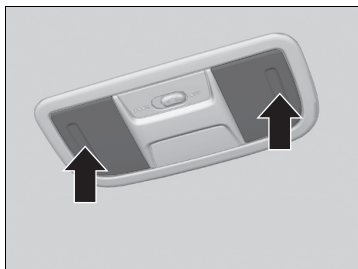
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席ドアを施錠したとき
- パワーモードがOFFモード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードをONモードにしたとき

12V バッテリーが上がる恐れがあるため、パワーシステムが停止しているときは室内灯を長時間点灯させないでください。

パワーモードがOFFモードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約15分後に室内灯は消灯します。

■マップランプ*



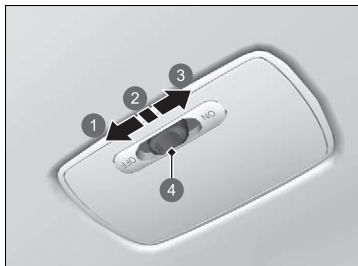
夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

※マップランプ*

以下のときマップランプのレンズを押しても消灯できません。

- 室内灯スイッチがドア連動のときで、ドアが開いているとき

■助手席側室内灯*/カーゴスペース照明灯*



■ON

ドア、テールゲートの開閉に関係なく点灯。

■ドア連動

ドア、テールゲートを開けると点灯。

■OFF

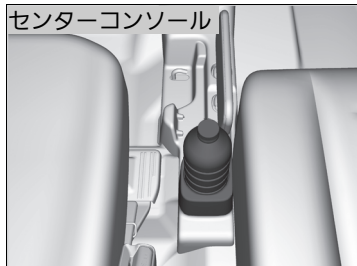
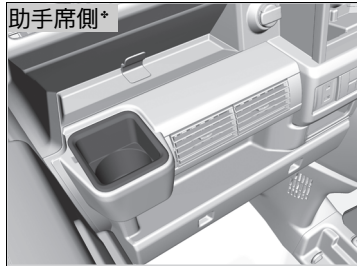
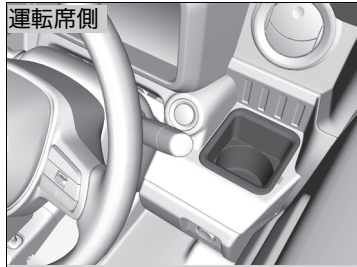
ドア、テールゲートの開閉に関係なく消灯。

- ① OFF
- ② ドア連動
- ③ ON
- ④ 助手席側室内灯*/カーゴスペース照明灯* スイッチ

※: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

収納装備

■ ドリンクホルダー



■ フロントシート用ドリンクホルダー

☒ ドリンクホルダー

⚠ 注意

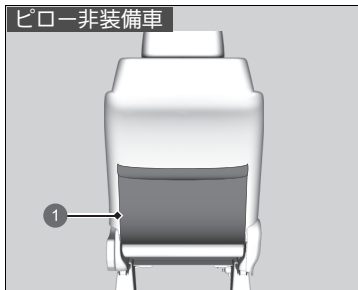
飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ シートバックポケット

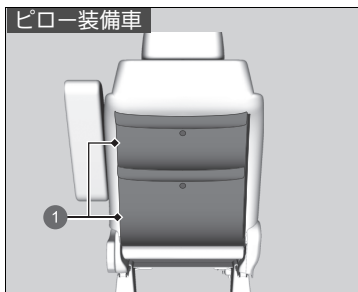
ピロー非装備車



運転席背もたれの後ろにポケットがあります。車検証や取扱説明書等を収納するために使用できます。

① ポケット

ピロー装備車

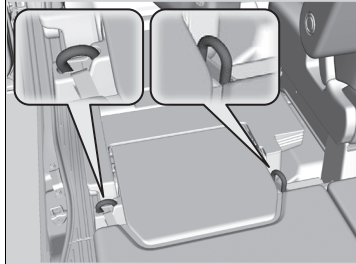


① ポケット

■ タイダウンフック



助手席後方*



荷物を固定するときに使います。

☒ タイダウンフック

⚠ 注意

荷物を積載するときは十分注意する。

荷物を積載するときは、確実に荷物を固定してください。

積載した荷物が運転の妨げになったり、運転者の視界を妨げるような積載は避けてください。

荷崩れなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

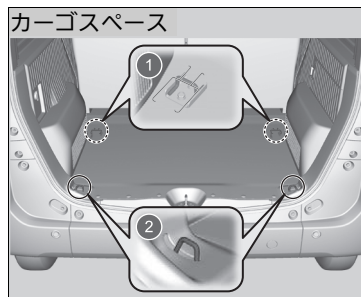
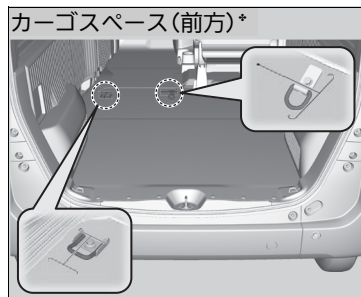
助手席に人が乗るときは助手席後方のタイダウンフックを使用しない*。

衝突時に思わぬ怪我をするおそれがあります。

☒ 助手席装備車

前方および助手席後方のタイダウンフックは助手席収納時に使用してください。

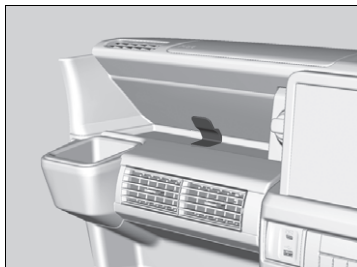
☒ 助手席の収納* P.167



- ① タイダウンフック*
- ② タイダウンフック

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ ケーブルフック



ケーブルを固定するときに使います。

※ケーブルフック

■ アドバイス

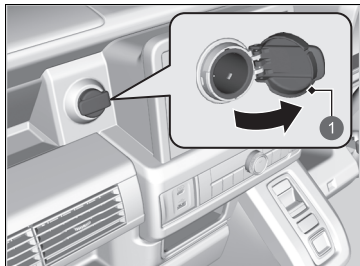
フックを強く引っ張ったりするなどの大きな力を加えないでください。フックが破損するおそれがあります。

ケーブル以外の物をはさまないでください。フックが変形や破損するおそれがあります。

その他の室内装備品

■ アクセサリーソケット

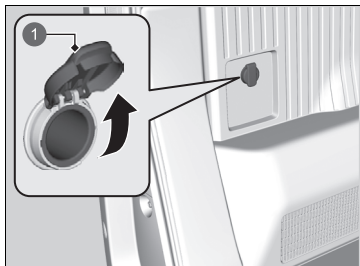
パワーモードがアクセサリーモード、またはONモードのときに使用できます。



① カバー

■ フロントコンソール

カバーを開けて使います。



① カバー

■ カーゴスペース*

カバーを開けて使います。

※ アクセサリーソケット

⚠ 注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。

電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

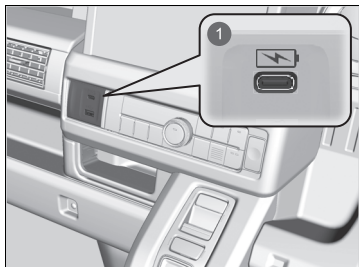
シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

充電専用 USB ジャック*



① USB ジャック

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャック (3.0A) に接続します。

☒ 充電専用 USB ジャック*

接続した機器を車内に放置しないでください。

USB 延長コードを使用すると、充電できない場合があります。

ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。

誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。

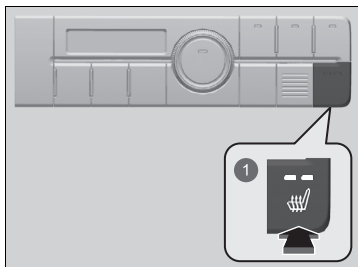
充電器が高温になった場合、充電停止する場合があります。

接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。

■フロントシートヒーター*



パワーモードがONモードのときに使用できます。



① スイッチ

スイッチを押すたびに設定が切り換わります。

- 1回目 - 高：インジケーターが2個点灯
- 2回目 - 低：インジケーターが1個点灯
- 3回目 - OFF：インジケーターが消灯

パワーモードを一度OFFモードにしてから再度ONモードにしても、前回と同じ設定で復帰します。

※フロントシートヒーター*



注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

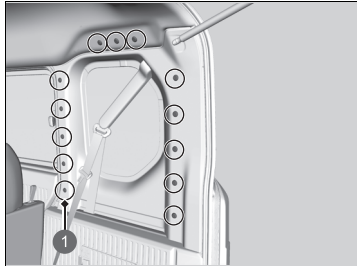
この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ECON モードを ON にしたとき、エアコンの作動状況に応じて運転席側のシートヒーターが自動的に作動することがあります。作動したシートヒーターを止めたいときは、シートヒータースイッチを押して OFF にしてください。

ユーティリティーナット

ユーティリティーナットは、市販のフックなどを取り付けて使用します。



① ユーティリティーナット

ユーティリティーナットの位置

カーゴスペースの両側にユーティリティーナットを装備しています。

- ▶ あらかじめクリップが取り付けられている箇所については、使用するときはクリップを取り外してから使用してください。

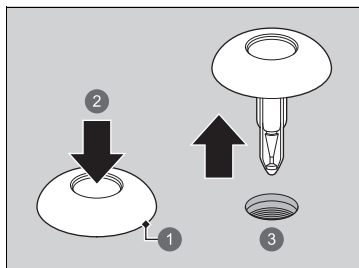
ユーティリティーナット

⚠ 注意

後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティーナットに市販のフックなどを取り付けない*。

シートベルトが正しく着用できなかったり、衝突時や旋回時などにもものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。

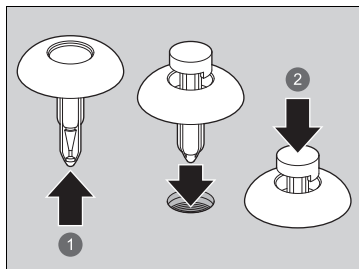
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



- ① ピン
- ② 押し込む
- ③ 引き抜く

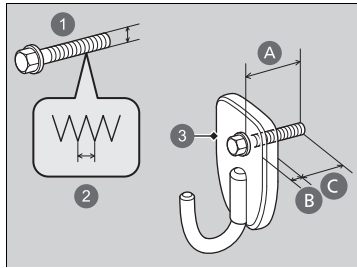
■クリップ脱着のしかた

クリップ中央部のピンを「カチッ」と音がするまで軽く(2 mm 程度)押し込んでクリップを引き抜きます。



- ① 押し戻す
- ② 平らになるまで押し込む

元に戻すときは、図のようにしてクリップ中央部のピンを押し戻して、ユーティリティナットに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



- ① ネジ径
ネジ径：M6(6mm)
- ② ピッチ
ピッチ：1.0mm
- ③ 固定するもの
- Ⓐ：ボルトネジ部の長さ
- Ⓑ：固定するものの厚さ
- Ⓐ = b+c
- Ⓒ = 20mm

■市販品の取り付けかた

ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、取り付けボルトは左記ものをお使いください。

締め付けトルク 9.8 N・m(1.0 kgf・m)

※市販品の取り付けかた

アドバイス

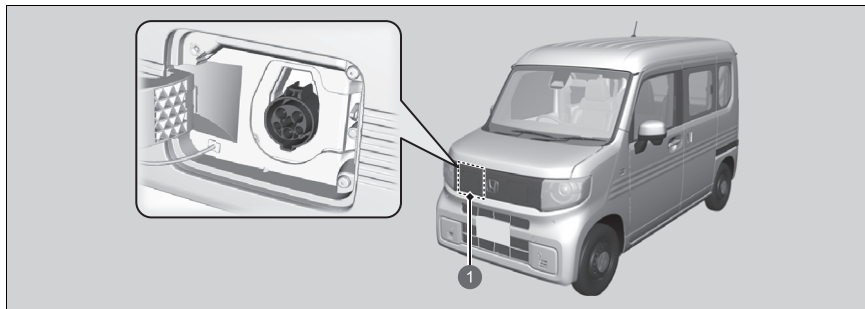
規定以外のボルトを使用するとユーティリティーナットやボディが破損します。

市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用します。

取り付け内容によっては、車検証等の記載事項の変更または、構造変更検査が必要な場合もあります。

お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。

■ パワーサプライコネクター*



① 充電リッド

パワーサプライコネクター(別売)を使用して車両から電気機器へ給電することができます。

パワーサプライコネクターを使用する前に下記の項目を確認してください。

- 充電口 / 給電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、Honda 販売店に連絡をしてください。
 - ▶ 充電口 / 給電口は常に清潔な状態にしてください。

※ パワーサプライコネクター*

⚠ 注意

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

※パワーサプライコネクター*

 注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないください。

給電時は、車両、パワーサプライコネクター、給電ケーブルに近づかないください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

消費電力 1,500W(15A)以下のアクセサリーに、交流 100V の電源を供給します。

車両の状態によっては、自動的に給電が停止することがあります。

消費電力が 1,500W(15A)以下であっても、次のような電気製品は正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
- プログラム機能やタイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

☒ パワーサブライコネクター*

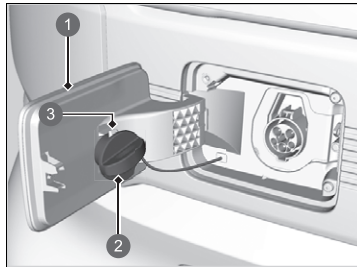
以下の状態では使用できません。

- 高電圧バッテリー残量が少ないとき
- 車内が高温、または低温のとき

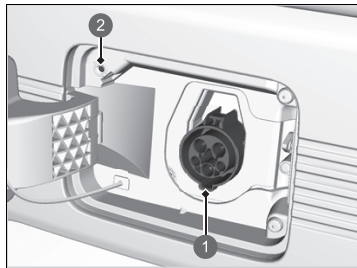
使用する電気機器によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

工場出荷時、電源周波数は50Hzに設定されています。使用する電気機器側で50Hz/60Hzの切り換えができる場合は、車両側に設定を合わせてください。車両側の電源周波数を切り換えたい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



- ① 充電リッド
- ② 充電口キャップ
- ③ ホルダー



- ① 充電口 / 給電口
- ② 充電インジケーター*

■ 給電のしかた

1. Honda スマートキーを携帯し、パワーモードを OFF モードにする。

2. ドアを解錠する。

▶ 車外でのドアの施錠 / 解錠 P.127

3. 充電リッドを開ける。

▶ 充電リッドの開け方については、下記を参照してください。

▶ 普通充電 P.335

4. 充電口キャップを抜き取る。

5. 充電口キャップをホルダーにかける。

6. パワーサプライコネクターの電源プラグ差込口に電気機器のプラグを差し込む。

7. 充電口 / 給電口にパワーサプライコネクタを差し込む。

8. パワーサプライコネクターの給電開始ボタンを 2 回連続で押す。充電インジケーター* がゆっくり点滅(ホワイ)し、スィープ点灯(ブルー)へ変わります。

9. 電気機器の電源を入れる。

10. ドアを閉めて、ドアロックする。

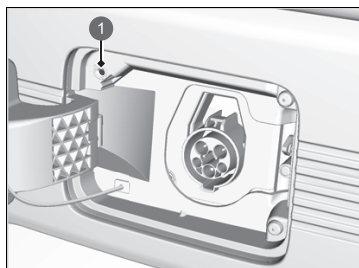
☒ 給電のしかた

パワーサプライコネクタはパワーモードを ON モードのままでも使用できます。パワーモードを ON モードのまま使用している時に、給電が自動的に停止してもパワーモードは OFF モードにはなりません。12V バッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードを OFF モードにしてください。

- 消費電力が給電可能電力を超えたとき
- 接続やシステムに異常があるとき
- 漏電しているおそれがあるとき

パワーサプライコネクタを使用している時は、車両から離れないでください。

外部給電機能* および急速充電機能* を使用している時に、パワーサプライコネクタを併せて使用することはできません。



① 充電インジケータ*

■停止のしかた

1. 電気機器の電源を OFF にする。
2. Honda スマートキーを携帯した状態でパワーサプライコネクタ側のボタンを押す。充電インジケータ* が点灯(ホワイト)したあと、パワーサプライコネクタ側の解除ボタンを押したまま、パワーサプライコネクタを引き抜く。
3. パワーサプライコネクタの電源プラグ差込口から電気機器のプラグを引き抜く。
4. 充電口キャップを差し込む。
5. 充電リッドを閉める。

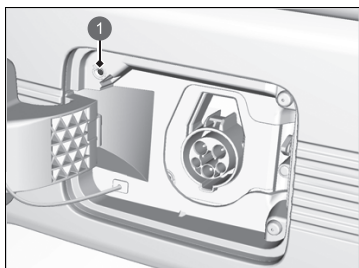
☒停止のしかた

アドバイス

気温が低いときなど、パワーサプライコネクタが氷結して取り外せないときは、40℃以下のぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、パワーサプライコネクタを引き抜いてください。

氷解剤や熱いお湯で溶かすと、破損や故障するおそれがあります。

パワーモードをONモードで使用している場合は12Vバッテリーがあがるおそれがあるため、給電終了後はすみやかにパワーモードをOFFモードにしてください。



① 充電インジケーター*

■ 充電インジケーター*

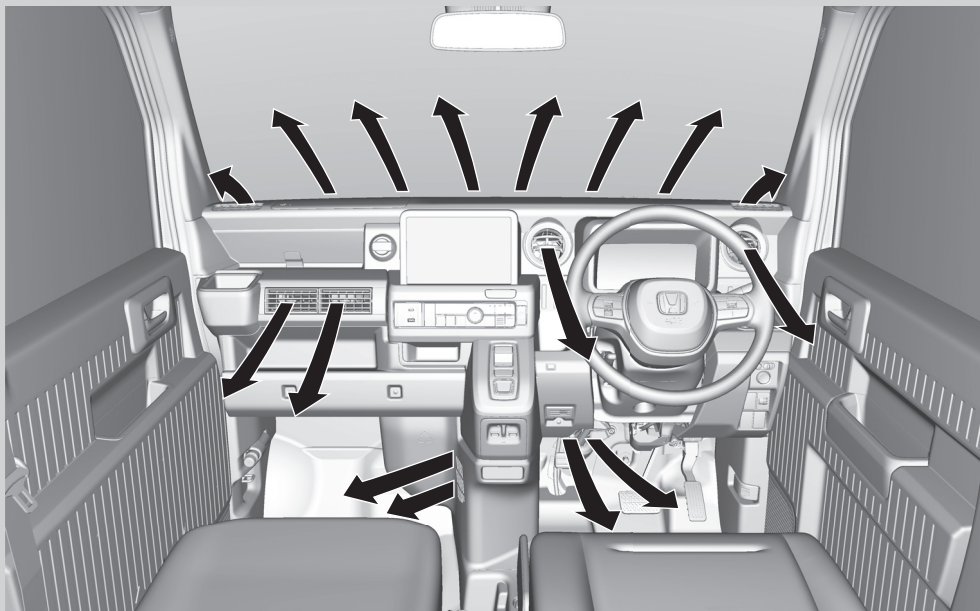
パワーサプライコネクターの状態を表します。

充電インジケーター* の状態	説明
ゆっくり点滅(ホワイト)	<ul style="list-style-type: none"> • パワーサプライコネクター準備中
スワイプ(ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> • パワーサプライコネクター給電中
点滅(レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • 給電システムが異常のとき <ul style="list-style-type: none"> ▶ 給電は開始されません。
点灯(レッド)	<ul style="list-style-type: none"> • パワーサプライコネクターが正しく差し込まれていない。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ パワーサプライコネクターを車両に接続する際は、パワーサプライコネクターが傾かないように奥まで差し込んでください。 • 外部給電機* と同時に接続されている。
点灯(ホワイト)	<ul style="list-style-type: none"> • 操作して給電が停止した。 • 車両の高電圧バッテリーの残量が少なくなったとき • パワーサプライコネクターの取り外し操作が完了した。 • 消費電力が給電可能電力を超えた*

※：消費電力が給電可能電力を超え給電が停止した場合は、接続している機器を減らしもう一度パワーサプライコネクターを取り外したあとに、給電操作を最初から開始してください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

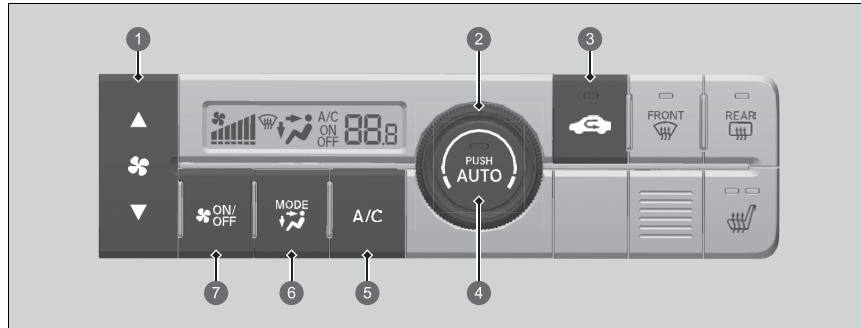
エアコンの吹き出し口



オートエアコンの使いかた

パワーシステムを起動した状態で使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節ダイヤルで温度を調節する。
3. 停止するときは、**ON/OFF** を押す。



- 1 ファンスピード切り換えスイッチ
- 2 温度調節ダイヤル
- 3 内外気切り換えスイッチ
- 4 **AUTO** スイッチ
- 5 **A/C** スイッチ
- 6 **MODE** スイッチ
 - 上半身送風
 - 足元送風、上半身送風
 - 足元送風
 - 足元送風、窓ガラスの曇り取り
- 7 **ON/OFF** スイッチ

✕ オートエアコンの使いかた

オート(AUTO)で使用中止いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。このとき**AUTO**の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO**を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

ON/OFFを押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。


高電圧バッテリーの残量が少ないときエアコンの効きが弱くなることがあります。

ECON モードがON のときは、設定温度表示に「Ec.0」が表示されます。走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

AUTO スイッチや **FRONT** スイッチ、エアコンの温度設定を変更操作をした時にエアコンのみ通常制御へ戻ります。


✕ **ECN** スイッチ P.229




■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

で使用中、自動で除湿暖房となります。

でないとき、暖房中にを押してONにすると除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた

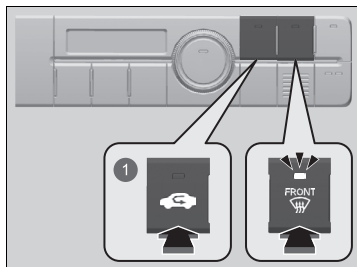
設定温度表示が「-」になっているときは回生ブレーキが使用できるようにエアコンを起動して電気を消費しています。内気 / 外気の切り替え以外のエアコン操作はできません。充電できる状態になると以前に使用していたエアコン設定に戻り、操作できます。

▶ 回生エネルギーと回生ブレーキ P.10

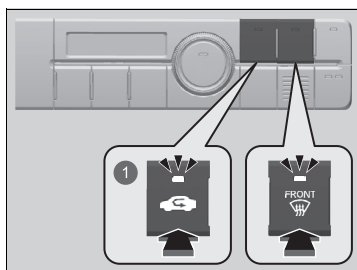
▶ 助手席装備車

パワーモードをONモードにしたときには、前回と同じ設定になります。また、Honda スマートキーに刻印されている番号ごとにエアコンの設定を記憶します。


前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた




① 外気導入(表示灯消灯)



① 内気循環(表示灯点灯)

を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。

■急速に霜を取りたいとき

1. を押す。
2. を押す。

▶▶ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

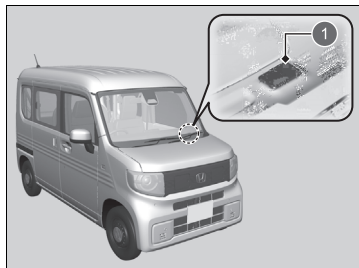
霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

設定温度表示が「-」になっているときは回生ブレーキが使用できるようにエアコンを起動して電気を消費しています。このとき、デフロスターは操作することができます。

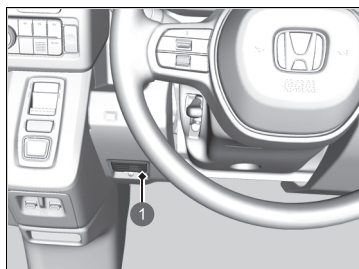
▶▶ 回生エネルギーと回生ブレーキ P.10

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

① センサー



① センサー

本機は、一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC版、V2L DC版)に準拠しています。電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC版またはV2L DC版)に適合した機器との接続・通信の互換性はありますが、供給できる電力、給電可能時間、その他機能については、機器の組み合わせにより異なります。ご使用の際は、必ず本機ならびに接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

本機を電動自動車用充放電システムガイドライン(V2H DC版またはV2L DC版)に適合した機器と接続することで、電気機器へ電気を供給できます(高温 / 低温環境下では出力制限や、停止する場合があります)。

給電を始める前に下記の項目を確認してください。

- 急速充電口 / 給電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、Honda 販売店にご相談ください。
急速充電口 / 給電口は常に清潔な状態にしてください。
- 急速充電口 / 給電口を水で濡れていないか？
 - ▶ 水の近くや濡れた手で使用しないでください。
- 急速充電口 / 給電口と接続先の給電コネクタは直接接続されているか？
 - ▶ 延長コード等は使用しないでください。

外部給電のしかた*



警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは給電を行わない
- 雨の中や水のかかる場所で、本機を使用しない
- 濡れた手で本機を使用しない
- 給電コネクタや給電ケーブルが破損している場合は使用しない

接続する機器の取扱説明書に従わないと、本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

適切な指示、説明なしでは絶対に本機を操作させないでください。また、お子さまには操作させないでください。

外部給電のしかた*



注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、給電の操作はご自身で行わないでください。

給電時は、車両、本機、給電ケーブルに近づかないでください。機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

車両側の最大供給電力は 9.0kW です。ただし、供給できる電力は機器の組み合わせによって異なります。

電力会社からの電気配線から分離して使用できる非常時の給電システムなどに給電する場合は接続先システムの製造業者、販売業者などに事前に相談してください。

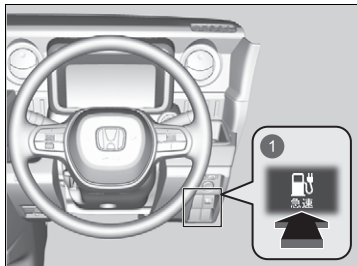
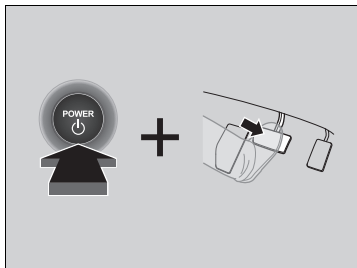
医療用電気機器を使用するときは、医療機器メーカー・医師・病院等に事前に相談してください。

精密機器を使用するときは、他の電気機器の干渉がないことを確認してください。

外部給電機能を使用している時に、パワーサンプライコネクター*を併せて使用することはできません。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

給電の準備



① 充電リッドオープンスイッチ

1. ブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押し、パワーシステムを起動する。

2. 充電リッドオープンスイッチを長押しする。

▶ 充電リッドが開きます。

給電の準備

給電中は、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

アドバイス

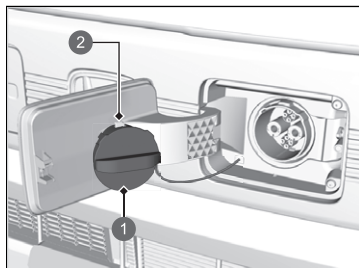
外部給電が自動的に停止してもパワーモードは OFF モードになりません。

12V バッテリーがあがるおそれがあるため、以下の理由で外部給電が自動的に停止したときは、すみやかにパワーモードを OFF モードにしてください。

- 消費電力が給電可能電力を超えたとき
- 接続やシステムに異常があるとき
- 漏電しているおそれがあるとき

アドバイス

充電リッドが氷結して開かない場合は、ぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、充電リッドを開けてください。



- ① 充電口キャップ
- ② ホルダー



3. 充電口キャップを抜き取る。
4. 充電口キャップをホルダーにかける。
5. 給電コネクターを急速充電口 / 給電口に確実に挿し込む。
6. 接続先の機器を操作する。
 - ▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
 - ▶ 車両側のシステム準備のため、電源を入れてから給電開始するまで数分かかることがあります。
 - ▶ インフォメーションディスプレイに外部給電の使用可能時間が表示されます*。
 - ▶ マルチインフォメーションディスプレイに「外部給電」と表示されます*。
7. 車両の **POWER** を押して、パワーモードを OFF モードにする。

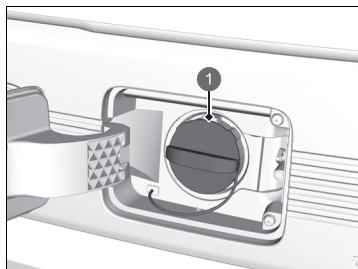
☒ 給電の準備

外部給電での外部給電中は車両から離れないでください。

■ 停止のしかた

1. 電気機器の電源を切り、外部給電器のコンセントからプラグを抜く。
2. 接続先の機器の電源を切る。

■ 給電コネクターの取り外し



① 充電口キャップ

1. 給電コネクターを急速充電口 / 給電口から取り外す。
▶ 接続先の機器の取扱説明書を確認してください。
2. 充電口キャップを差し込む。
3. 充電リッドを閉める。

☒ 給電コネクターの取り外し

アドバイス

気温が低いときなど、給電コネクターが氷結して取り外せないときは、40℃以下のぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、コネクターを引き抜いてください。

氷解剤や熱いお湯で溶かすと、破損や故障するおそれがあります。

再度給電コネクターを接続するときは、十分に乾かしてから、給電コネクターおよび急速充電口 / 給電口が濡れていないことを確認してください。

オーディオ

この車両はメーカーオプションのオーディオを装備していません。
この車両で利用可能なオーディオについては、Honda 販売店にご相談ください。

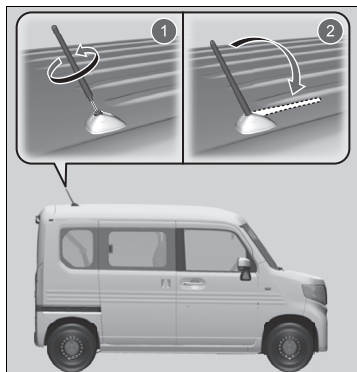
オーディオ装置*

アンテナ..... 213

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

アンテナ

■ マイクロアンテナ



- ① 取り外す
- ② 格納する

マイクロアンテナは格納、取り外しができません。
ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。

※アンテナ

■ アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

運転

この章では、運転操作、充電などについて記載しています。



運転の前に.....	215	急アクセル抑制機能*.....	251	エマージェンシーストップシグナル... 322	
運転操作		路外逸脱抑制機能.....	256	駐停車操作	
パワーシステムの起動.....	218	歩行者事故低減ステアリング.....	265	駐車する.....	323
走行時の注意点.....	221	アダプティブクルーズコントロール		パーキングセンサーシステム.....	325
トランスミッションについて.....	223	(ACC)*.....	273	リアワイドカメラシステム*.....	329
シフト操作.....	224	車線維持支援システム(LKAS)*.....	293	高電圧バッテリーの充電	
ECONスイッチ.....	229	先行車発進お知らせ機能*.....	304	高電圧バッテリーの充電の準備.....	330
車両接近通報装置.....	230	標識認識機能*.....	309	高電圧バッテリーの充電方法.....	332
VSA(ビークルスタビリティアシスト) ...	231	フロントワイドビューカメラ.....	315	高電圧バッテリーの特性.....	342
Honda SENSING*/安全運転支援機能*... 233		ソナーセンサー*.....	317		
各機能を作動させるためのスイッチと表示....	234	ブレーキ操作			
衝突軽減ブレーキ(CMBS).....	236	ブレーキシステム.....	318		
踏み間違い衝突軽減システム*.....	246	ABS(アンチロックブレーキシステム) ...	320		
		電子制御ブレーキアシスト.....	321		

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
❏ **タイヤの点検と整備** P.365
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。
- 充電ケーブルが車に接続されていないか？
 - ▶ 充電ケーブルを取り外します。

❏ 車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。

モータールーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物の高さは窓ガラスより低いか？
 - ▶ 視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- シートの足元にものを置いていないか？
- フロアボードが正しく取り付けられているか？
 - ▶ 助手席収納時にフロアボードを外した状態で走行すると、小さな荷物が運転席の足元に転がり落ちやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
❖ フロアボード* P.173
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
❖ 車内での施錠 / 解錠 P.133

車内での確認項目



注意

荷物を積載するときは十分注意する。

荷物を積載するときは、確実に荷物を固定してください。

❖ タイダウンフック P.187

積載した荷物が運転の妨げになったり、運転者の視界を妨げるような積載は避けてください。

荷崩れなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

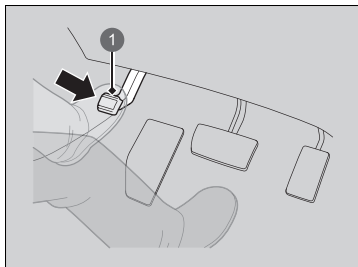
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

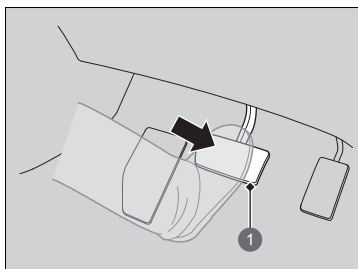
車に合ったフロアマットをお使いください。

- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - ❏ シートの調節 P.163
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ❏ ミラー類の調節 P.159
 - ❏ ハンドルの調節 P.158
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - ❏ シートベルトの着用 P.35
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - ❏ 警告灯 P.66

パワーシステムの起動



① パーキングブレーキペダル



① ブレーキペダル

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

2. 右足でブレーキペダルを踏む。

⌘ パワーシステムの起動

⚠ 警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。

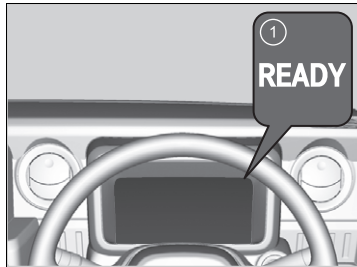
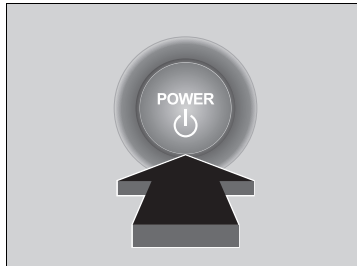
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのパワーシステムの起動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。



① READY 表示灯

3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、**POWER** を押す。

4. READY 表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
 - ▶ パワーシステムが起動すると、READY 表示灯が点灯し運転することができます。
 - ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

▶▶ パワーシステムの起動

POWER は、パワーシステムが起動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **POWER** に触れてください。

▶▶ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.400

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、パワーシステムが起動しないことがあります。

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで **POWER** を押すとパワーモードがOFFになり、走行できなくなります。

▶▶ **READY 表示灯** P.84

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。

▶▶ **イモビライザーシステム** P.140

パワーモードをONモードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを **[D]** にする。
 - ▶ 後退する場合は **[R]** にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
 - ▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
■ **パーキングブレーキ** P.318
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

■パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトポジションを **[P]** にする
 - ▶ メーターのシフトポジション **[P]** が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。
2. **POWER** を押す。

※発進時の操作



注意

**アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。**

※ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、先行車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強いときは

風が強くと車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどしてEPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

走行中はパワーシステムを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効が悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを[N]にしないでください。

回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、パワーシステムや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。パワーシステムや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードの漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

トランスミッションについて

■ クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが[P] [N]以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

☒ クリープ現象

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング

駐車またはパワーシステムを起動するとき

R リバース

車を後退

N ニュートラル

駆動力が伝達されない状態

D/B ドライブ / **B** ドライブ

D/B を押す度にドライブとドライブ **B** が切り替わり

ドライブ

通常走行

ドライブ **B**

長い下り坂や減速が必要なとき


※シフト操作

高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低温または高温時は、回生ブレーキが作動しない場合や効きが低下する場合があります。このとき、回生ブレーキの効きを維持するため自動的にブレーキが併用され、制動灯が点灯することがあります。

故障と予期しない作動を防止するため：

- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子様や運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

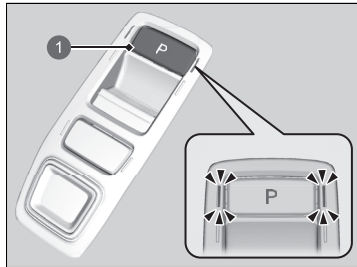
インフォメーションディスプレイ装備車

N のポジションの時にアクセルペダルを踏むと、 インジケータが点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

N のポジションの時にアクセルペダルを踏むと、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを **D** または **R** にしてください。

■ パーキングスイッチ



① [P]スイッチ

パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションが[P]になり、スイッチのインジケーターが点灯します。

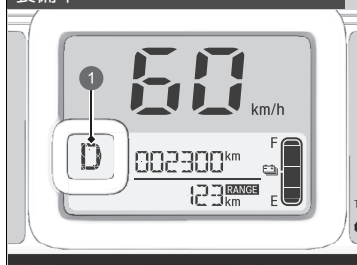
※シフト操作

長い下り坂のとき、[B]で長時間走行した場合や減速を繰り返した場合、[B]であっても回生ブレーキが弱いことがあります。

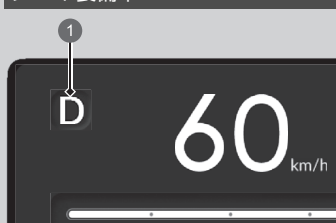
減速が必要な場合はブレーキペダルを踏んでください。

シフトポジションの操作

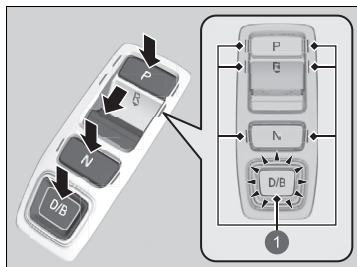
インフォメーションディスプレイ
装備車



マルチインフォメーションディス
プレイ装備車



① シフトポジション表示灯



① シフトポジション表示

P

パーキングにするときは、**P**を押します

R

後退するときは、**R**を押します

N

ニュートラルにするときは、**N**を押します

D/B

D/B を押す度にドライブとドライブ **B** が切り替わります

シフトポジションの操作

アドバイス

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションを**D**から**R**または**R**から**D**に切り換えてください。シフトポジションを**P**に切り換えるときは、メーターにシフトポジション**P**が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。

シフト操作前後に、シフトポジション表示灯とシフトポジション表示を確認してください。

インフォメーションディスプレイ装備車

インジケータが点灯しているときは、トランスミッションに異常があります。急加速を避け、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、指定の Honda 販売店で点検を受けてください。

Rのポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが**R**の位置になっていることを知らせます。

■ 自動パーキング選択制御

■ ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 km/h 以下のときに、**[P]**以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で**[P]**になります。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが**[P]**以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で**[P]**になります。

※ シフトポジションの操作

外気温が非常に低い(-30°C以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

※ 自動パーキング選択制御

■ アドバイス

ドアOpen自動パーキング選択制御は補助機能であり、全ての状況に対応できるものではありません。運転席から離れる場合は、シフトポジションを**[P]**に切り替え、メーター上に**[P]**が表示されていることを確認してください。

▶ 駐車する P.323

この制御により**[P]**になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフト ポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・ シフトポジションの操作	3. 操作後のシフト ポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない アクセルペダルを踏んでいる	他のシフトポジションを選択 する	P	アクセルペダルから足を 離し、ブレーキペダルを踏む
N	低速走行中で、ブレーキペダル を踏んでいない 低速走行中で、アクセルペダル を踏んでいる		N	
N D B	前進している	R を選択する	N	停車する
R N	後退している	D を選択する		
R N D B	走行中	P を選択する		
P N	READY 表示灯が点灯してい ない	P N 以外を選択する	操作時のシフトポ ジションのまま	READY 表示灯の点灯 を確認する

ECON スイッチ



① マルチインフォメーションディスプレイ

ECON スイッチを押すことで、ECON モードの ON と OFF を切り替えることができます。

ECON モードを ON にすると、モーター、エアコン、シートヒーターの制御を変更し、航続可能距離の増加を補助します。

▶ ECONモードがONのときは、メーター内の表示灯が点灯し、エアコンパネルの温度表示が「Ec.0」に切り換わります。

- ▶ オートエアコンの使いかた P.203
- ▶ フロントシートヒーター* P.192

※ECON スイッチ

ECONモードのONとOFFを切り替えたとき、航続可能距離表示が増減する場合があります。

- ▶ インフォメーションディスプレイ* P.92
- ▶ 航続可能距離表示(RANGE) P.95
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ* P.97
- ▶ 航続可能距離表示 P.102

運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。

また、車両に異常があるときなども、モードの変更ができません。

車両接近通報装置

約 25km/h 以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.320

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P.321


VSA(ビークルスタビリティアシスト)

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSAが正常に機能しないことがあります。タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードをONモードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

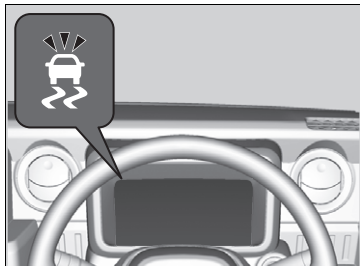
- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、 で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。

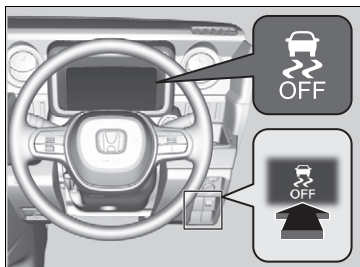
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。


■ VSA の作動と警告灯




TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的にONになります。

※VSA(ビークルスタビリティアシスト)

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためモータールームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING*/安全運転支援機能*には、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ (CMBS) ➡ P.236
- 踏み間違い衝突軽減システム* ➡ P.246
- 急アクセル抑制機能* ➡ P.251
- 路外逸脱抑制機能 ➡ P.256
- 歩行者事故低減ステアリング ➡ P.265
- 先行車発進お知らせ機能* ➡ P.304
- 標識認識機能* ➡ P.309
- オートハイビーム ➡ P.152
- パーキングセンサーシステム ➡ P.325

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* ➡ P.273
- 車線維持支援システム (LKAS)* ➡ P.293

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠Honda SENSING*/安全運転支援機能*



Honda SENSING*/安全運転支援機能*
は、補助システムとして使用してください。

自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

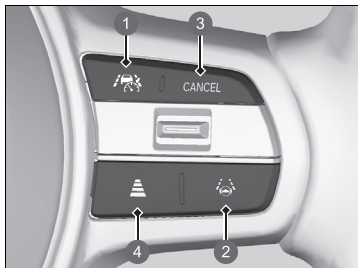
各機能の能力(認識能力・制御能力)には限界があります。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、各機能が作動しない場合があります。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ステアリングスイッチ



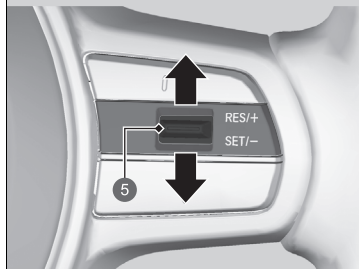
- ① **機**スイッチ
以下機能の待機状態の設定を行います。
- アダプティブクルーズコントロール (ACC)
 - 車線維持支援システム (LKAS)

- ② **車線維持支援システム (LKAS) スイッチ**
ACC の作動中に LKAS の作動と解除の設定を行います。

- ③ **CANCEL** スイッチ
以下機能の解除を行います。
- ACC
 - LKAS

- ④ **ディスタンススイッチ**
ACC の車間距離設定を行います。

- ⑤ **RES/+ / SET/-** スイッチ
- ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。
 - LKAS の作動と復帰を行います。



※Honda SENSING*/安全運転支援機能*

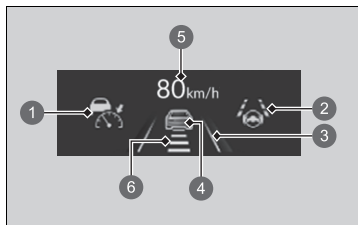
タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■メーターの表示

ACC、LKASの現在の状態を表示します。

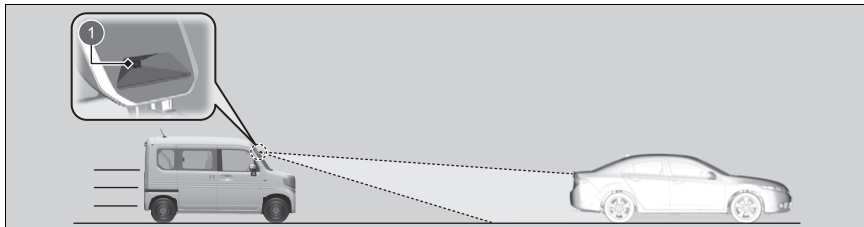


- ①ACCの作動状態
 - グリーン、ホワイト/グリーン：作動中
 - ▶ 先行車を検知していないとき、ホワイト/グリーンで表示
 - ホワイト：待機中
 - オレンジ：システムが異常のとき
- ②LKASの作動状態
 - グリーン：作動中
 - ホワイト：待機中
 - オレンジ：システムが異常のとき
- ③LKASのONとOFFの状態と制御状態
 - グリーンの線：作動中
 - ホワイトの線：車線を検知した状態
 - オレンジの線：
 - 点灯した側の車線逸脱を検知
- ④ACCの先行車検知状態
- ⑤ACCの設定車速
- ⑥ACCの設定車間

衝突軽減ブレーキ(CMBS)

自車が、前方の車両(二輪車含む)のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、前方の交差車両に衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車(移動する自転車)に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動



- ① フロントワイドビューカメラ
▶ フロントガラスの上部にカメラを装備。

自車の車速が約 5km/h 以上になるとカメラが前方の車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

⚠衝突軽減ブレーキ(CMBS)



警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

このシステムのカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

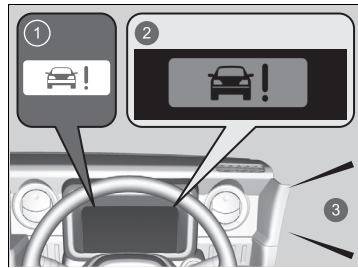
▶ フロントワイドビューカメラ P.315

対向車両、停止車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなると判断した後に、CMBS は解除されます。

なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



- ① インフォメーションディスプレイ*
- ② マルチインフォメーションディスプレイ*
- ③ 警告音

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- ▶ メーター内の警告表示や警告音による警告が発生します。

■マルチインフォメーションディスプレイ装備車

CMBSの警報距離を遠め・標準・近めの3段階から選択することができます。

▶時計*/車両設定 P.110


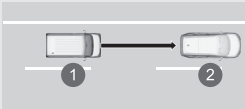
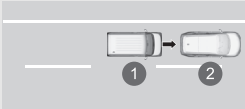
遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

※衝突軽減ブレーキ(CMBS)

アクセルペダルの踏み込み量が多いときに、システムが作動しない場合があります。

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

	車両と自車の距離	状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれができた状況	メーター内の警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う	—
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	メーター内の警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※：CMBSによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

- ① 自車
- ② 車両

CMBS の ON と OFF

インフォメーションディスプレイ* またはマルチインフォメーションディスプレイ* を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

インフォメーションディスプレイ

☞ 表示の切り換えかた P.93

☞ CMBS(衝突軽減ブレーキ)の ON/OFF P.95

マルチインフォメーションディスプレイ

☞ 表示の切り換えかた P.97

☞ 安全支援情報 P.106

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

☞衝突軽減ブレーキ(CMBS)

運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
 - 雨、霧、雪などの悪天候のとき
 - パーキングブレーキをかけて走行したとき
 - カメラの温度が高温のとき
 - フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
 - タイヤの異常を検出したとき
- CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

次のような場合、カメラが車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBSが正常に作動しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 車両(二輪車含む)、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 路上の設置物(ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など)を、車両や歩行者と誤って認識したとき
- 前方の車両(二輪車含む)による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両(二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

※衝突軽減ブレーキ(CMBS)

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき

■前方の車両、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりや前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 車両が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両(タンクローリーなど)が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両が側方から接近してきたとき

■その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する車両、歩行者、および移動する自転車と自車との速度差が小さく、対象物との距離が短いとき
- 前方の車両(二輪車含む)や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作(交差点などでの右折時を除く)^{※1}をしながら、前方の車両(二輪車含む)、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンDEM自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両(二輪車含む)、対向車両、前方の交差車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき

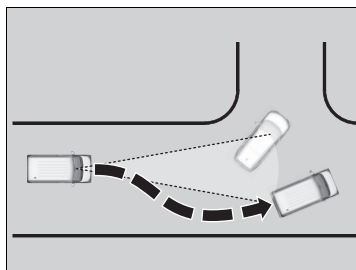
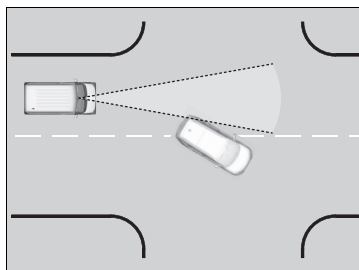
※1：右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときにCMBSが作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

■衝突の可能性が高くない場合の作動について

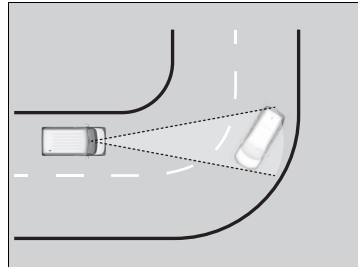
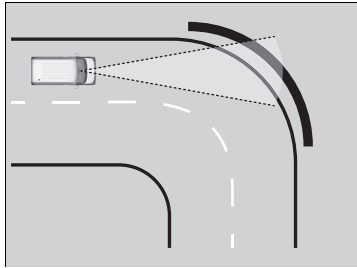
衝突の可能性が高くなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 先行車を追い越すときに車両に接近して走行する場合



- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両が接近するとき
- 左折または右折する車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車を通過するとき
- 前方の側方から近づいてくる車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車の前を通過するとき
- 車両(二輪車を含む)、歩行者、および自転車が左折または右折して自車の側方から近づいたとき
- 左折または右折中に前方の車両(二輪車含む)、および自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両(二輪車含む)、および自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 車両(二輪車含む)、歩行者、および自転車が自車の進路に入って止まったとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入って止まったとき
- 路上駐車中の車両の横を通過するとき

踏み間違い衝突軽減システム*

踏み間違い衝突軽減システムは、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の2つの機能を持ったシステムです。

フロントバンパーおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突被害の軽減を支援するシステムです。

※踏み間違い衝突軽減システム*



警告

踏み間違い衝突軽減システムはあらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

踏み間違い衝突軽減システムは停止状態を保つことができるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

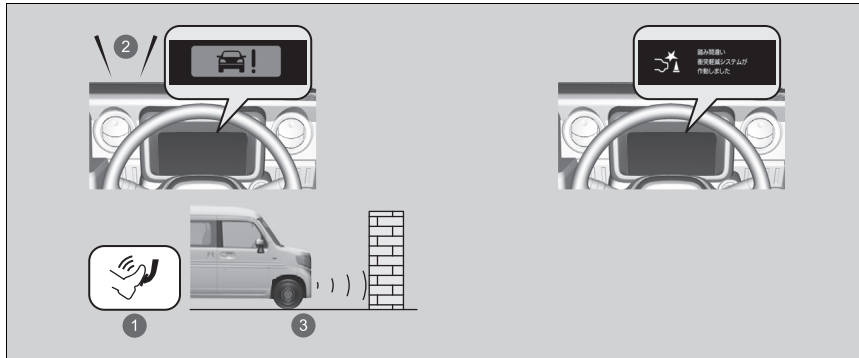
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングでシステムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

システムの作動

停車時や約 10 km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



- ① アクセル誤踏み込み
- ② 警告音
- ③ パワーシステムの出力を抑制

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
 前進：急な坂道やシフトポジションが、**P**、**R**、**N**のとき
 後退：

- 急な坂道やシフトポジションが**R**以外のとき
- パーキングセンサーシステムをリアのみ OFF にしているとき

▶ **設定項目** P.111

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※踏み間違い衝突軽減システム*

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ **ソナーセンサー*** P.317

不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

リアセンサーや、その周囲にアクセサリ（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。

▶ **設定項目** P.111

■システムのONとOFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムのON/OFFを切り換えることができます。

▶ 表示の切り換えかた P.97

▶ 安全支援情報 P.106

機能をOFFにした状態でパワーモードをOFFにした場合でも、再度パワーモードをONにすると自動的にONになります。

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約4秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

▶▶作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。

(例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)

■システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

■その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

急アクセル抑制機能*

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

急アクセル抑制機能*



警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

急アクセル抑制機能は Honda 販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。
設定についてはHonda販売店にご相談ください。


急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。

同時持ち込みすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。


起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

■システムを作動させるには



①  スイッチ

急アクセル抑制機能が作動するように設定された Honda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

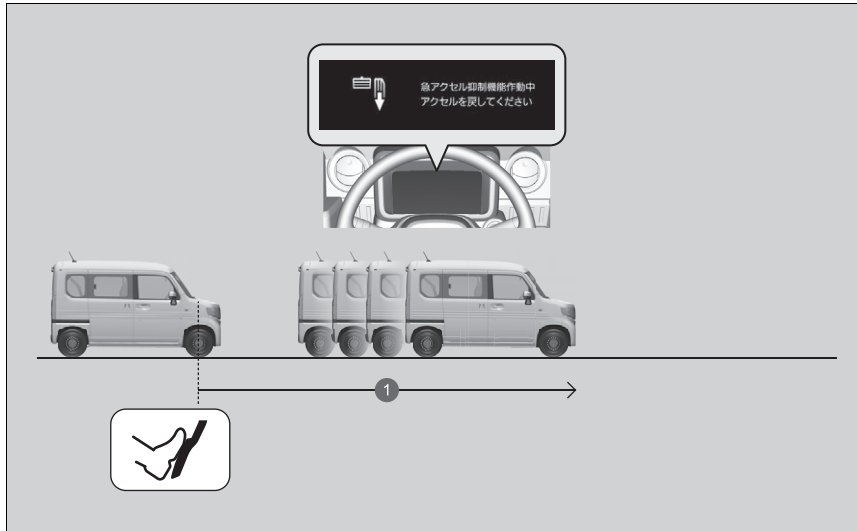
- ▶ パワーシステムを起動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。
- ▶ 起動メッセージを消すには、 スイッチを押してください。

※システムを作動させるには

電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

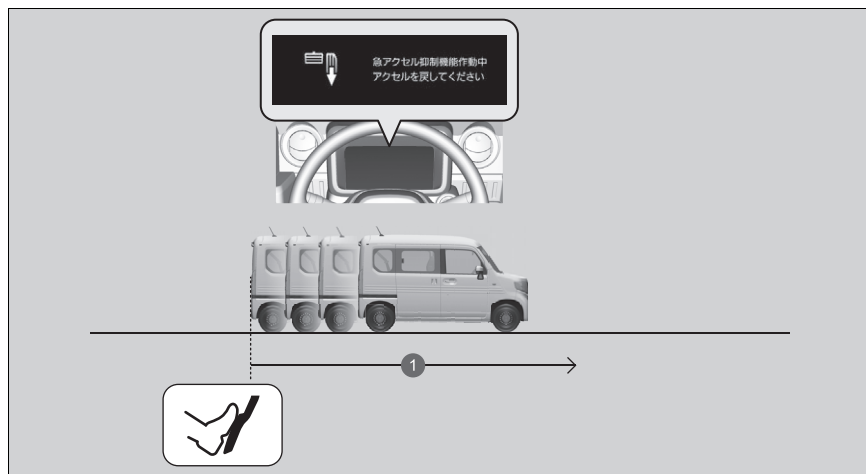
■システムの作動

車速が約 30km/h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。



① 急加速を抑制

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。



① 一定の速度まで徐々に加速

次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
- 上り坂を走行しているとき

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき

■急アクセル抑制機能の条件と制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。

また、加速したい場合に作動することがあります。

■道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

■自車の状態

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■その他

- 惰性走行から急いで加速したとき(たとえば、ETCレーン通過後の加速)

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

路外逸脱抑制機能



警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

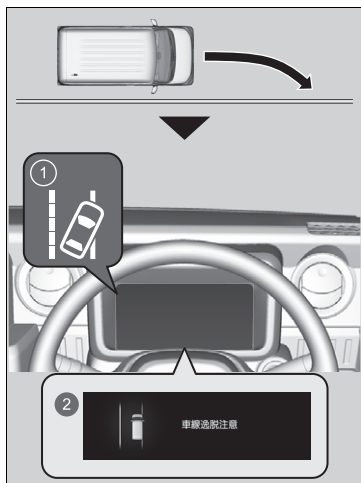
取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。

車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

システムの作動



- ① インフォメーションディスプレイ装備車
- ② マルチインフォメーションディスプレイ装備車

このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶ 車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

メーターによる警告を行うことで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

路外逸脱抑制機能

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

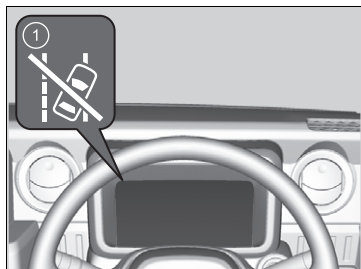
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントワイドビューカメラ P.315

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

▶ 路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.261

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。



① 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

▶▶路外逸脱抑制機能

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。

車線維持支援システム(LKAS)を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。

▶▶時計*/車両設定 P.110



システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)の場合
 - ▶ 対向車両が走行している場合
 - 車速が約 60km/h ~ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
 - ▶ 対向車両が走行している場合
 - 車速が約 30km/h ~ 120km/h のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯(オレンジ)および路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。

警告灯 P.66

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■システムのONとOFF

インフォメーションディスプレイ* またはマルチインフォメーションディスプレイ* を使用して、システムのON/OFFを切り換えることができます。

インフォメーションディスプレイ

▶ 表示の切り換えかた P.93

▶ RDM(路外逸脱抑制機能)のON/OFF P.95

マルチインフォメーションディスプレイ

▶ 表示の切り換えかた P.97

▶ 安全支援情報 P.106

パワーシステムを起動したときは、パワーモードをOFFする前の状態(ONまたはOFF)を保持します。

▶▶システムのONとOFF

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定を変更することができます。

時計*/車両設定で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

▶ 時計*/車両設定 P.110

路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- サスペンションを変更したとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例

- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりに対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

■その他、作動できない事例

- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について

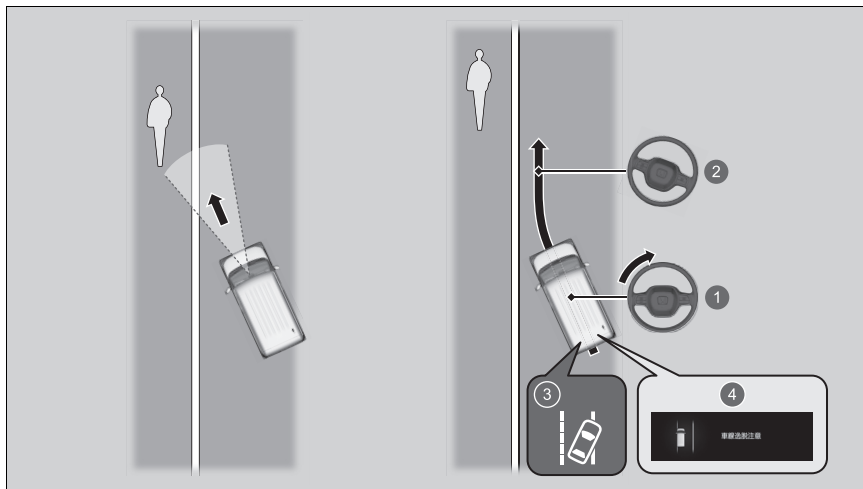
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。

- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

システムの作動



- ① 警報と支援
- ② 運転者の回避操作
- ③ インフォメーションディスプレイ装備車
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ装備車

カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。

歩行者事故低減ステアリング



警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

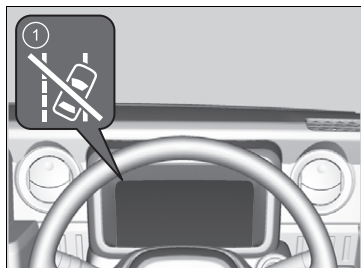
運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントワイドビューカメラ P.315



① 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

歩行者事故低減ステアリング

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限 P.269

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ~ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■システムのONとOFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能がONのときに作動します。インフォメーションディスプレイ* またはマルチインフォメーションディスプレイ* を使用して、システムのON/OFFを切り換えることができます。

インフォメーションディスプレイ

➤ 表示の切り換えかた P.93

➤ RDM(路外逸脱抑制機能)のON/OFF P.95

マルチインフォメーションディスプレイ

➤ 表示の切り換えかた P.97

➤ 安全支援情報 P.106

パワーシステムを起動したときは、パワーモードをOFFする前の状態(ONまたはOFF)を保持します。

※システムのONとOFF

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

カスタマイズ機能で路外逸脱抑制機能の設定を「操舵アシストなし警報のみ」にした場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

➤ 時計*/車両設定 P.110

歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

アダプティブクルーズコントロール(ACC)*

ACC は、フロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには：

ACC システムは、シフトポジションが **D** のときに使用することができます。

※アダプティブクルーズコントロール(ACC)*



警告

ACC の不適切な使用は事故につながり
ます。取扱説明書の操作手順に従い操作して
ください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用して
ください。

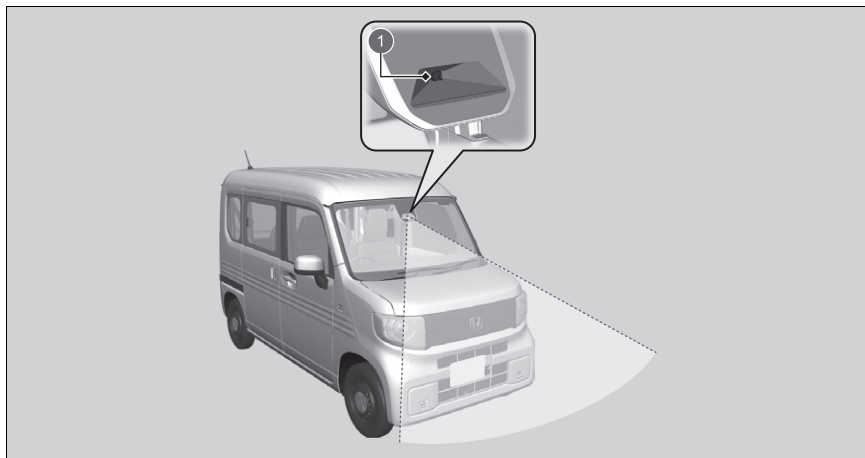


警告

ACC は、補助システムとして使用してく
ださい。ACC は、自動運転システムでは
ありません。あくまでも運転者をアシスト
するためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事
故につながり、死亡または重大な傷害にい
たるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心が
け、走行してください。



❶ フロントガラス上部にフロントワイドビューカメラを装備

ブレーキペダルを操作しての減速中は、ACC は作動しません。
悪天候などで、フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

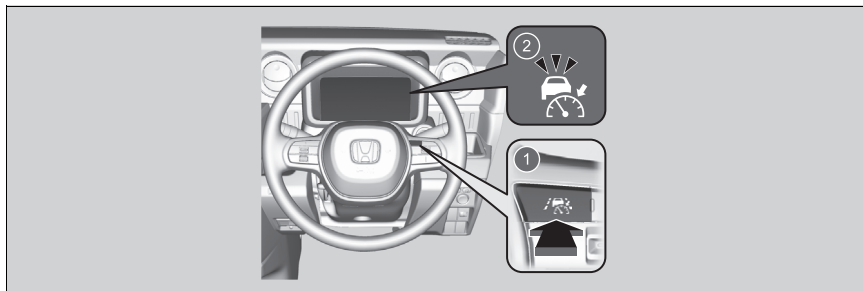
❷ アダプティブクルーズコントロール(ACC)*

使用上の注意：

ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

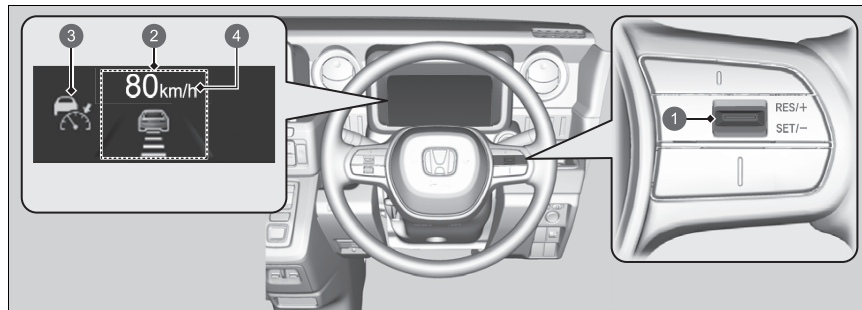
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。


❷ フロントワイドビューカメラ P.315

■システムを作動させるには

- ① ハンドルの $\left[\text{ACC} \right]$ スイッチを押す
- ② メーター内に $\left[\text{ACC} \right]$ (ホワイト)が点灯し、ACC が待機状態になります。
 - ▶ 条件を満たせば、同時に車線維持支援システム(LKAS)が待機状態になります。

車速をセットするには



- ① **RES/+SET/-** スイッチ
- ② ACC 開始時に点灯
- ③  (グリーン)
- ④ 設定車速 (ホワイト)

車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに **RES/+SET/-** スイッチを上か下に押しと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

▶ 条件を満たせば、同時に車線維持支援システム(LKAS)が作動します。

※車速をセットするには

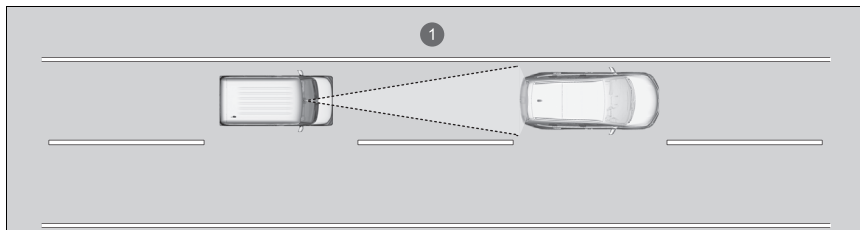
下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに入るときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

■ ACC の作動

■ 先行車がいるとき

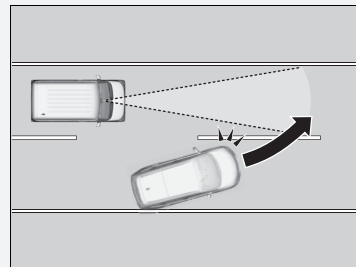
ACC は先行車がフロントワイドビューカメラの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせて、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



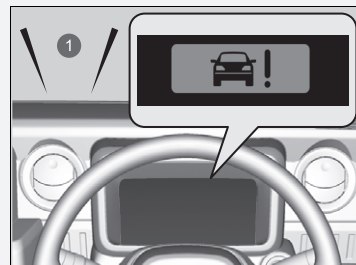
① ACC の検知範囲 : 120m

☒ ACC の作動

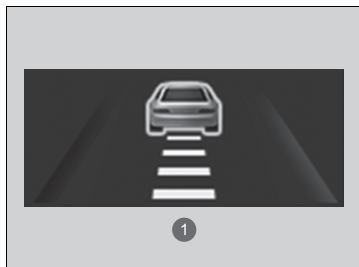
先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



① 警告音



- ① メーターに車のアイコンが表示されます。

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

※ACCの作動

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り/無しを設定できます。

▶時計*/車両設定 P.110

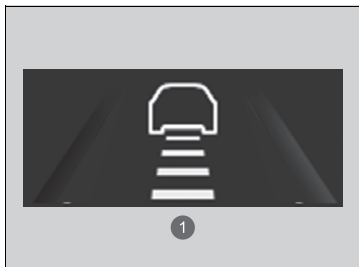
制限：

安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。

▶ACC の条件と制限 P.280

▶車間距離を設定するには P.284

■先行車がないとき



- ① メーターに実線の車のアイコンが表示されます

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され车速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいなくても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はできません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

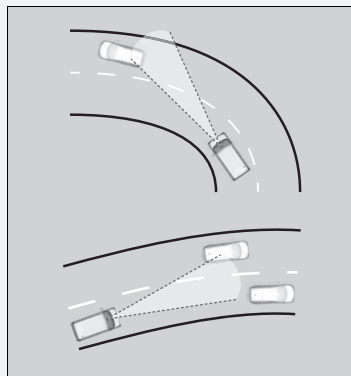
先行車がない場合、設定した車速で定速走行します。

先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行います。設定した車速を超えてしまう場合があります。

※ACCの作動

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとりよりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

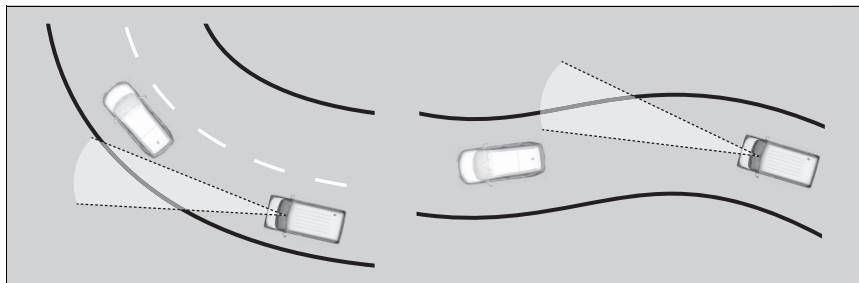
📷 フロントワイドビューカメラ P.315

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

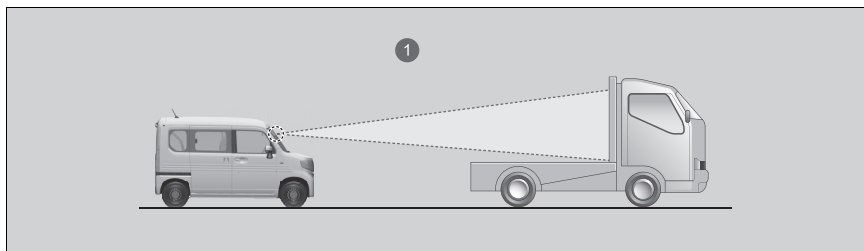
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 前方の車両の車高が低いとき
- 暗がりや前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

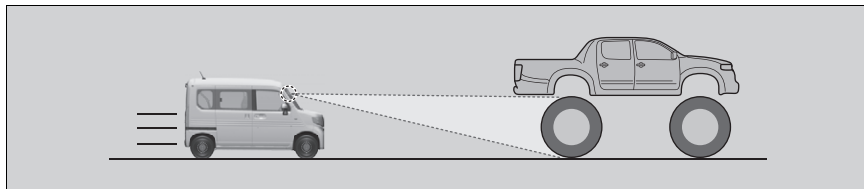
■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両



① トラックの上部を検知

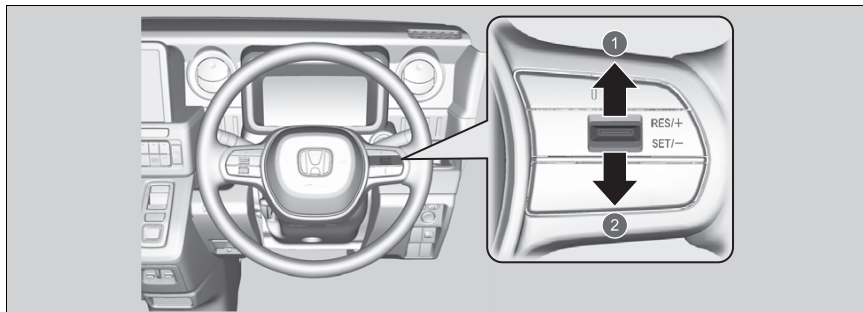
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

設定車速を調整するには

手元の **RES/+SET/-** スイッチの操作で、設定車速を上げ/下げすることができます。



① **RES/+** 側

- 1回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離れたときの設定車速に固定

② **SET/-** 側

- 1回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離れたときの設定車速に固定

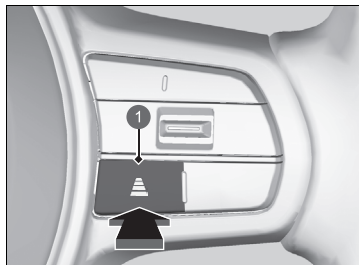
設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。

これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、**RES/+SET/-** スイッチを下に押し、現在の車速が設定車速になります。

車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

先行車との車間距離設定は、4段階に切り換えることができます。

ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

適切な車間距離の設定を決定してください。

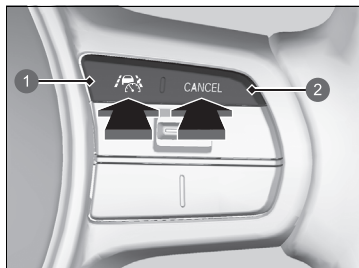
① ディスタンススイッチ

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 27m	約 33m
中		約 35m	約 43m
長		約 44m	約 55m
最長		約 54m	約 67m

解除するには



- ① スイッチ
- ② **CANCEL** スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。このとき同時に車線維持支援システム(LKAS)が解除されます。

- **CANCEL** スイッチを押す
 - ▶ メーター内のがホワイトになります。
- スイッチを押す
 - ▶ メーター内の (グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
 - ▶ メーター内の (グリーン)が (ホワイト)になります。

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあと、**RES/+SET/-** スイッチを上を押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。**RES/+SET/-** スイッチを上にした場合、この車速で作動が開始されます。また、 (ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で

RES/+SET/- スイッチを上にした場合は、**RES/+SET/-** スイッチを下にした場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

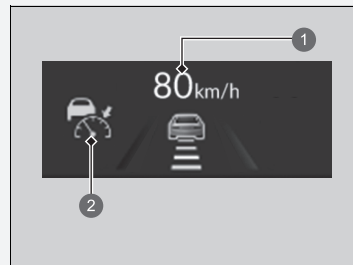
- スイッチを押して ACC を OFF したあと
- 30km/h 未満のとき


■ACCの自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACCが自動解除されます。

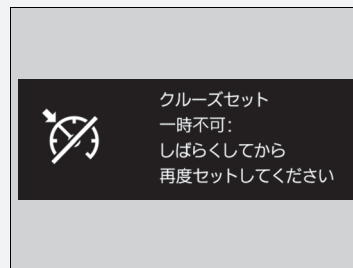
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、衝突軽減ブレーキ (CMBS)、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能または衝突後ブレーキシステムや急アクセル抑制機能が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- ブレーキシステム警告灯 (オレンジ) が点灯したとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

※解除するには

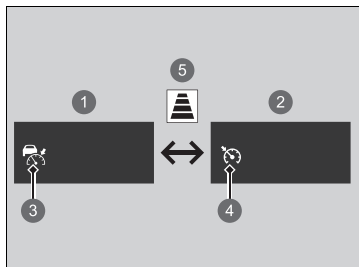




- ① 解除前の設定車速 (グレー)
- ②  (ホワイト)

加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどにACCが自動解除された後、条件が継続する場合は、その後一時的にACCをセットできない場合があります。





■クルーズモードへの切換え



- ① ACC ON
- ② クルーズモード ON
- ③  (ホワイト)
- ④  (ホワイト)
- ⑤ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを1秒間押し続けます。マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。



同時に、メーター内の (ホワイト)が (ホワイト)に変わります。

再度ディスタンススイッチを1秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、ACCに戻ります。

▣クルーズモードへの切換え

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

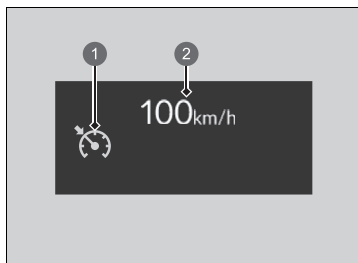
以下の場合、モードを切り換えられません。


- 車速をセットしているとき
 - スイッチがOFFのとき
- クルーズモードへ切り換えた状態でもスイッチを押してONにし直すたびに、ACCに戻ります。


■ 車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、**RES/+SET/-** スイッチを上か下に押します。

RES/+SET/- スイッチを上か下に押して離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに (グリーン) と設定車速が表示されます。

- ①  (グリーン)
- ② 設定車速

■ 作動条件

約 30km/h 以上で走行しているとき

■ 車速を調節するには

RES/+ 側







- 1回押しごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離れたときの設定車速に固定

SET/- 側

- 1回押しごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離れたときの設定車速に固定

解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。


- **CANCEL** スイッチを押す
 - ▶ メーター内の  (グリーン) が  (ホワイト) になります。
-  スイッチを押す
 - ▶ メーター内の  (グリーン) が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
 - ▶ メーター内の  (グリーン) が  (ホワイト) になります。

解除するには


解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとも、30km/h以上の車速で走行中に **RES+/SET/-** スイッチを上を押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

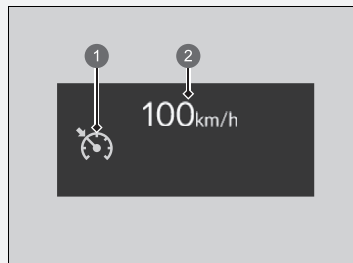
CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。**RES+/SET/-** スイッチを上にした場合、この車速で作動が開始されます。


また、 (ホワイト) が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で **RES+/SET/-** スイッチを上にした場合は、**RES+/SET/-** スイッチを下にした場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
-  スイッチで OFF 操作をしたとき

※解除するには



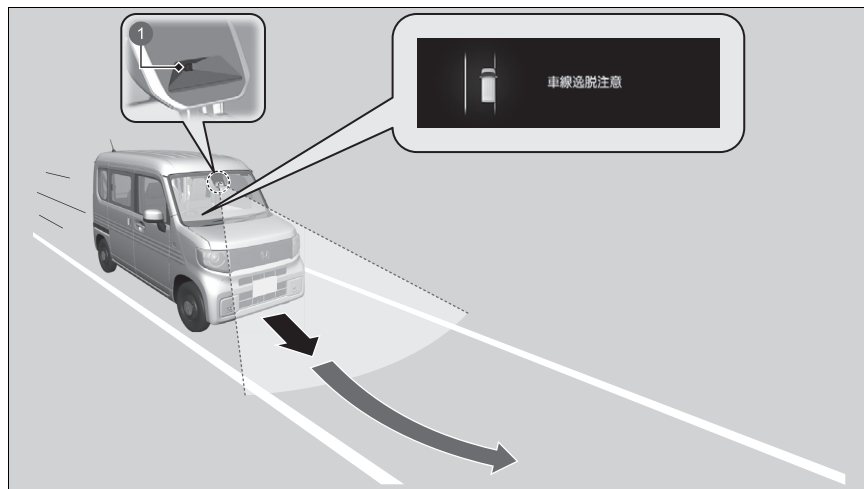
- ①  (ホワイト)
- ② 解除前の設定車速(グレー)

車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)*

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



① フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKASが復帰します。アダプティブクルーズコントロール(ACC)作動中に方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

❖: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※車線維持支援システム(LKAS)*



警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

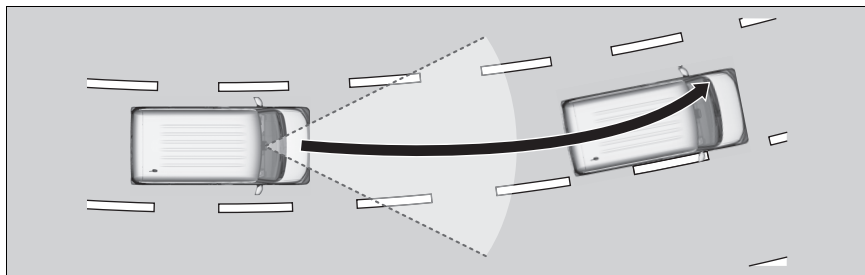
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。LKAS は、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



※車線維持支援システム(LKAS)*

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

※フロントワイドビューカメラ P.315

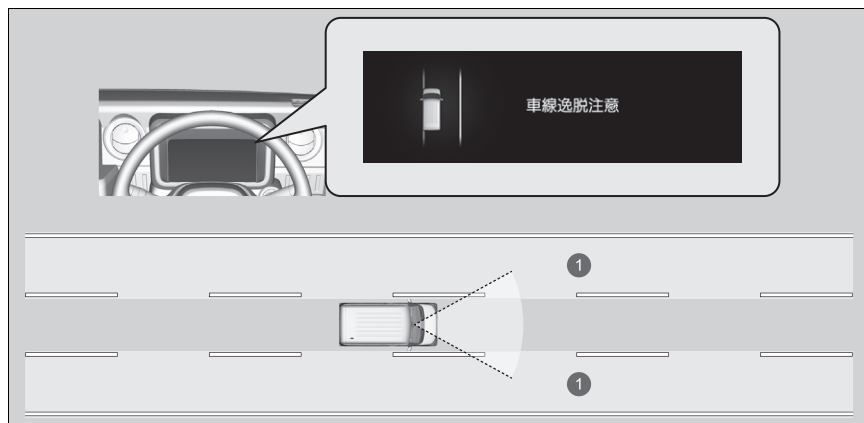
LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

※LKAS の条件と制限 P.300

車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音およびディスプレイ表示で行います。



① 警報エリア

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、ACC が作動しているときに以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき

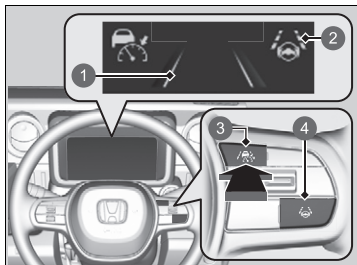
※LKAS を作動させるには



システムが作動しているときに、左右の白線(黄線)に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。




白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

▶ LKAS の条件と制限 P.300

■システムの作動方法



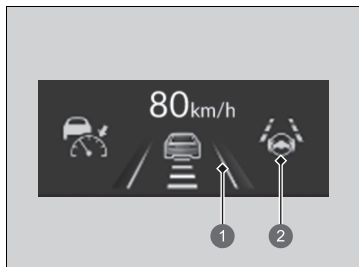
- ① 車線表示(ホワイト)
- ② 車線維持支援システム (LKAS)表示灯(ホワイト)
- ③ スイッチ
- ④ スイッチ

1. スイッチを押す。
 - ▶ メーターに (ホワイト)とともに車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト)が点灯し、システムが待機状態になります。車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト)が消灯している場合はスイッチを押すと点灯し待機状態になります。
 - ▶ カメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターに車線表示(ホワイト)が点灯します。
 - ▶ このとき ACC が待機状態になります。
2. **RES/+SET/-** スイッチを上か下に押す。
 - ▶ システムが作動可能状態のときに **RES/+SET/-** スイッチを押すと、制御を開始します。
 - ▶ このとき ACC が作動します。

※LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない



- ① 車線表示(グリーン)
- ② LKAS 表示灯(グリーン)

3. 車線の中央付近を走行する。

- ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターの車線表示とLKAS表示灯がグリーンに切り替わり、LKAS の制御を開始します。

解除するには



- ① スイッチ

スイッチを押すと、LKAS が解除されます。

■LKAS が自動的に一時解除される時

次の場合、メーターの車線表示と LKAS 表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。



- ① 車線表示(ホワイト)
- ② LKAS 表示灯(ホワイト)

- 車速が 50km/h 以下になったとき
 - ▶ 車速が50km/h以下になると、LKASは自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
 - 白線(黄線)を検知できないとき
 - 急なハンドル操作をしたとき
 - ハンドル操作をしていないとき
 - 急なカーブを走行したとき
 - 制限速度を超えた速度で走行したとき
 - ABS、VSA が作動しているとき
 - ACC が作動していないとき
- これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされる時

次の場合、メーターの車線表示が消え、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

※LKAS が自動的に一時解除される時

カスタマイズ機能で制御解除警報音の ON/OFF を設定できます。

▶ 時計*/車両設定 P.110

■ LKAS の条件と制限

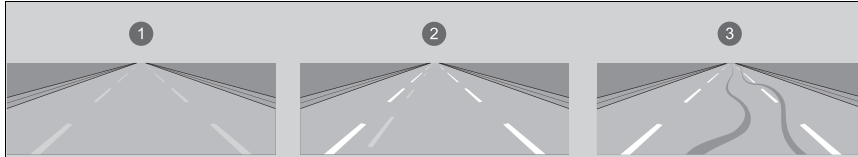
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

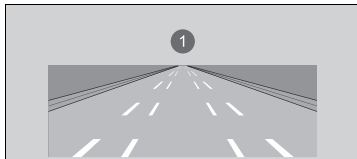
- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線(黄線)、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき

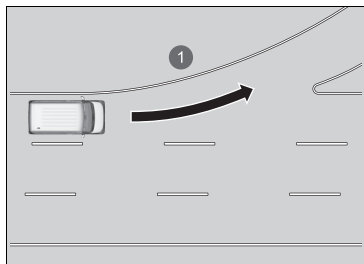


- ① 線が薄くなっている
 - ② 古い車線の消し残し
 - ③ タイヤ痕
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



- ① 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



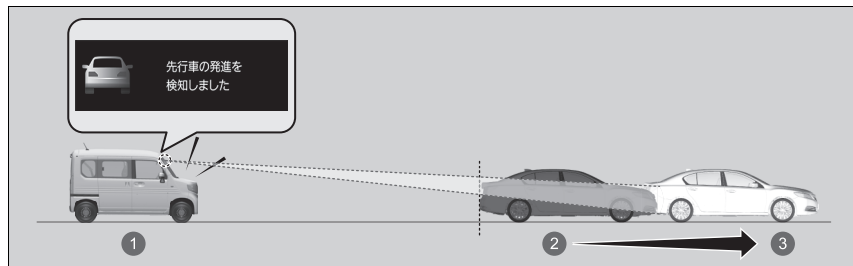
① 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能*

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



- ① 停止
- ② 先行車停止
- ③ 先行車発進

運
転

※先行車発進お知らせ機能*



警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントワイドビューカメラ P.315

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションが[D]、[B]の場合

ブレーキペダルを踏んで停車している。

■シフトポジションが[N]の場合

ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキがかかっている。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

▶時計*/車両設定 P.110

標準は先行車が停止状態から約3m以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

▶▶先行車発進お知らせ機能*

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

▶時計*/車両設定 P.110

アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

▶警告灯 P.66

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

① 警告音

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻き上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっていているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリ、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりでは先行車が片側点灯または無灯火のとき

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

■その他、作動できない事例

- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

標識認識機能*

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。

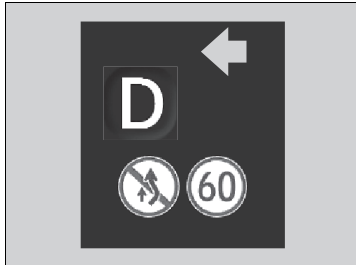
表示される道路標識は以下の4つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約60km/h以下のとき

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

標識認識機能*



警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
 標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

パワーシステムを起動後、約15秒の間は標識認識機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ **フロントワイドビューカメラ** P.315

標識認識機能表示は、ON/OFFの設定を変更することができます。

▶ **時計*/車両設定** P.110

次ページに続く

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百~千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

▶▶標識認識機能*

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

▶▶時計*/車両設定 P.110

標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。



■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

※標識認識機能*

標識認識機能が故障した場合はメーターに  が表示されます。
 のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識(終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

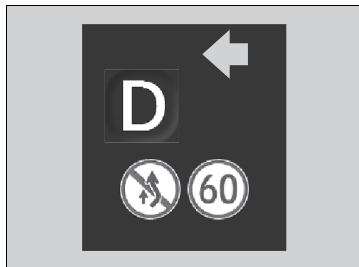
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■メーターの表示

同時に2つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例



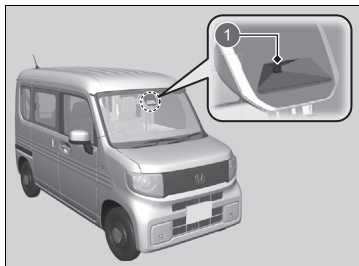
左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

☒メーターの表示

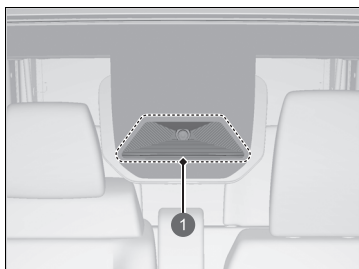
車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。

約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

フロントワイドビューカメラ



① フロントワイドビューカメラ



① ステッカー貼り付け不可範囲

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けしないでください。

※フロントワイドビューカメラ

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

※車内の清掃 P.374

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線等を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。次の場合は Honda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。必要に応じてデフロスターを使用してください。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車


マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとフロントワイドビューカメラ周辺の温度を下げてください。


マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

インフォメーションディスプレイ装備車

が1回ずつ点滅する場合：

フロントカメラ視界不良

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後もが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

が2回ずつ点滅する場合：

フロントカメラ高温

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとフロントワイドビューカメラ周辺の温度を下げてください。

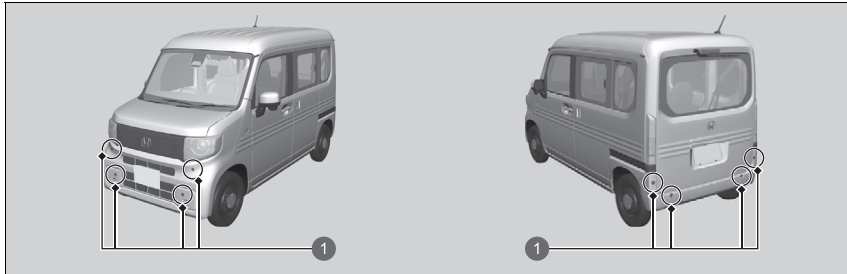
※フロントワイドビューカメラ

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

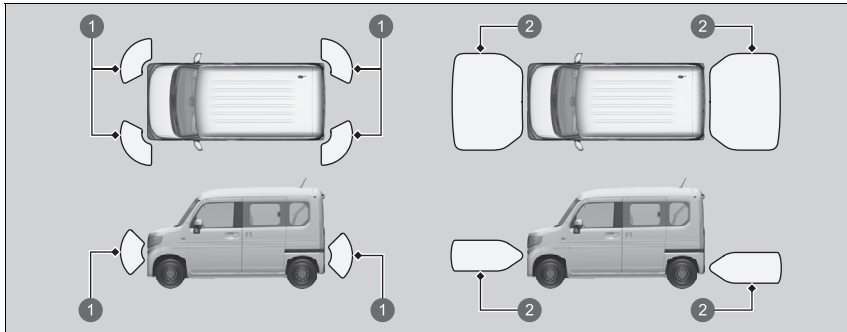
ソナーセンサー*

■センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーはフロントバンパーおよびリアバンパーに設置されています。



① ソナーセンサー



① コーナーセンサーの検知範囲

② センターセンサーの検知範囲

☒ソナーセンサー*

ソナーセンサーの取り扱いについて

- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

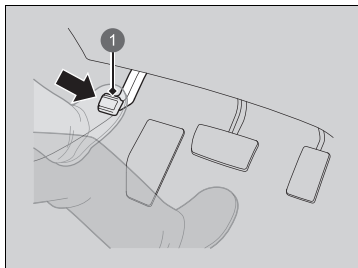
以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合がありますため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- フロントバンパーおよびリアバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

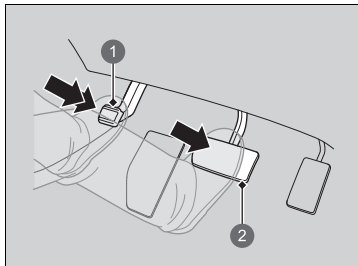
ブレーキシステム

■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



① パーキングブレーキペダル



① パーキングブレーキペダル

② ブレーキペダル

■ パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっばいに踏み込む。

■ パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

※ ブレーキシステム

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、ボンネット内からモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

※ パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーが鳴ります。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

さらにマルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示が出ます。

完全に解除すると、ブザーは止まります。停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

❏ 電子制御ブレーキアシスト P.321

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.320

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離すと回生ブレーキが強くなります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためモータールームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

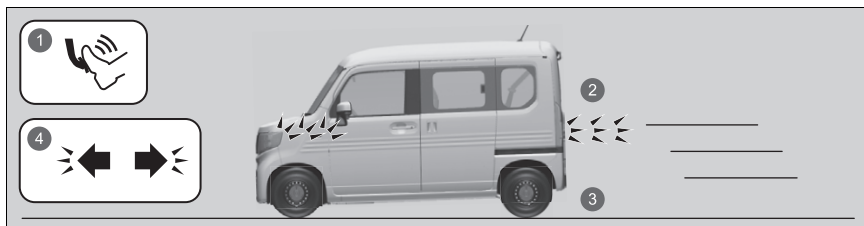
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

❖ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.231

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



- ① 急ブレーキをかける
- ② 制動灯点灯
- ③ 非常点滅表示灯が高速で点滅
- ④ メーター内の方向指示器表示灯が左右同時に高速で点滅

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

※エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABSが一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止させる。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを **P** にする。
 - ▶ メーターのシフトポジション **P** が表示されるまでブレーキを離さないでください。
4. パワーシステムを停止する。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作

警告

駐車時はパワーシステムを止める。

万一、シフトポジションが **P** **N** 以外に入っていた場合、クリーブ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、シフトポジションが **P** **N** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションを **N** にすると同時に POWER スイッチを押さないでください。
N ポジションの状態になることがあります。
シフトポジションは **P** にしてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **P** **N** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。

無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして
思わぬ事故につながるおそれがあります。

※駐車する

アドバイス

車が完全に止まらないうちに「P」に入れないで
ください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かない
でください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないで
ください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が
自然発火したり、缶などは破裂したりするお
それがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、
凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めをし
てください。

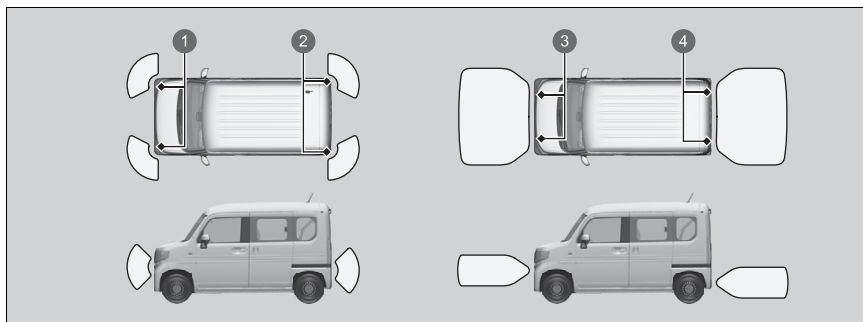
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故
につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサー* と、車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

■ ソナーセンサー* P.317

■ パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



- ① フロントコーナーセンサー*
- ② リヤコーナーセンサー
- ③ フロントセンターセンサー*
- ④ リヤセンターセンサー

インフォメーションディスプレイ装備車

シフトポジションが[R]で、車速が8km/h以下のとき障害物を検知します。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※パーキングセンサーシステム

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次ページに続く

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■ パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

警報音および表示が OFF になります。

➤ 表示の切り換えかた P.97

➤ 安全支援情報 P.106

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが **R** で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが **P**、**R** 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

▶▶ パーキングセンサーの ON と OFF

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。

➤ 設定項目 P.111

■ 障害物を検知したときの作動状態



パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

▶ システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

インフォメーションディスプレイ装備車

警報音の間隔	障害物との距離	
	コーナーセンサー	センターセンサー
長い	—	約 110-75cm
短い	約 55-45cm	約 75-65cm
非常に短い	約 45-35cm	約 65-58cm
連続	約 35cm 以下	約 58cm 以下

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警報音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	フロント：約 90-70cm リア：約 110-80cm	点灯 (イエロー※1)	
短い	フロント：約 65-45cm リア：約 55-45cm	フロント：約 70-60cm リア：約 80-65cm	点灯(オレンジ)	
非常に短い	約 45-35cm	フロント：約 60-50cm リア：約 65-45cm		
連続	約 35cm 以下	フロント：約 50cm 以下 リア：約 45cm 以下	点灯(レッド)	

※1：このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

① 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

警報音を一時的にOFFにするには、警報音がなっているときにレフトセクターホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

高電圧バッテリーの充電の準備

充電を始める前に下記の項目を確認してください。

確認項目

- 接地施工された専用回路を使用しているか？
 - ▶ 施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。
- 充電専用コンセントに充電ケーブルのプラグを直接差し込んでいるか？
 - ▶ 延長コード、コードリール、プラグ変換アダプターは使用しないでください。また、たこ足配線はしないでください。
- 充電ケーブルは伸ばした状態で使用をしているか？
 - ▶ 伸ばした状態で使用をしてください。
- 充電コネクタ、充電ケーブルが破損していないか？
 - ▶ 破損している場合は、使用を中止してください。
- 充電コネクタや充電口に異物が入っていないか？
 - ▶ 異物が入っている場合は、Honda 販売店にご相談ください。充電コネクタと充電口は常に清潔な状態にしてください。
- 充電コネクタ、充電ケーブルが水で濡れていないか？
 - ▶ 水の近くや濡れた手で使用しないでください。

注意：充電専用コンセントは変形していないことを確認してください。充電専用コンセントが磨耗または損傷していると、充電ケーブルのプラグにうまく接触しません。充電ケーブルのプラグが完全に接続され、取り付け後に充電専用コンセントから出ていないことを確認してください。正しく接続しないと、プラグ内が高温になり、プラグが損傷することがあります。

高電圧バッテリーの充電



警告

ブレーカーに単独配線をされ、接地施工された充電専用コンセントを使用する。

適切な電源回路を使わないときは、火災になるおそれがあります。

施工状態がわからないときは、電気工事業者に確認を依頼してください。

以下の状態のときに高電圧バッテリーに充電をすると、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

- 落雷のおそれがあるときは充電を行わない
 - 水の近くや濡れた手で、充電コネクタ、充電ケーブルの使用をしない
 - 充電コネクタ、充電ケーブルが破損している場合は、使用しない
- これらの状態のときは、充電をしないでください。

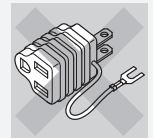
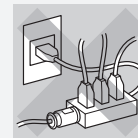
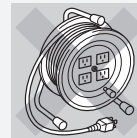
本田推奨工事仕様については Honda 販売店にご相談ください。

⌘ 高電圧バッテリーの充電

警告

充電機器の不適切な取扱いは火災や重大な傷害につながるおそれがあるため、次のことを守る。

- 接地施工された適切なコンセントを使用すること
- 延長コードやコードリールは使用せずにコンセントに直接プラグを差し込むこと
- たこ足配線はしないこと
- 発電機は使用しないこと
- 充電コネクタや充電口に異物が入っていないことを確認すること
- 電源プラグや充電コードは水や他の液体に浸さないこと
- 充電ケーブルを落下させる、衝撃を与える、水没させる、プラグや充電コネクタへ異物を挿入させるなどの行為をしないこと。



高電圧バッテリーの充電方法

充電には走行時の充電以外に普通充電と急速充電*があります。

普通充電は、住宅などで AC200V の充電器で行う充電です。

急速充電* は、充電施設に設置された急速充電器で行う充電です。

充電方法	充電時間
普通充電(AC200V 16A のとき)	満充電まで約 10 時間(約 600 分)
普通充電(AC200V 30A ^{*1} のとき)	満充電まで約 4.5 時間(約 270 分)
急速充電(50kW 125A ^{*1} のとき)	80% 充電まで約 30 分

※1：充電可能な最大値

- 充電時間は、充電残量警告灯が点灯した時点で充電を開始した場合の時間で
す。(気温 25℃ のとき)
- 充電時間は、バッテリーの残量や気温、使用する充電器により異なります。
- AC100V の充電器を使用しても充電できますが、AC200V と比べ充電終了ま
での時間が長くなります。また、外気温が低いときは満充電にならない場合
があります。
- 満充電までの残り時間の目安は、メーターで確認できます。

高電圧バッテリーの充電方法

警告

損傷や改造された充電機器を使用することは、感電や火災の原因となり、重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。決して分解や改造をしないでください。もし、充電機器に損傷があるときは、使用を中止し、Honda 販売店にご相談ください。

注意

植込み型心臓ペースメーカーや植込み型除動器などの医療機器を装着されているかたは、充電時には充電スタンドや充電ケーブルに植込み部位を近付けず離してください。また急速充電* はご自身で行わないでください。

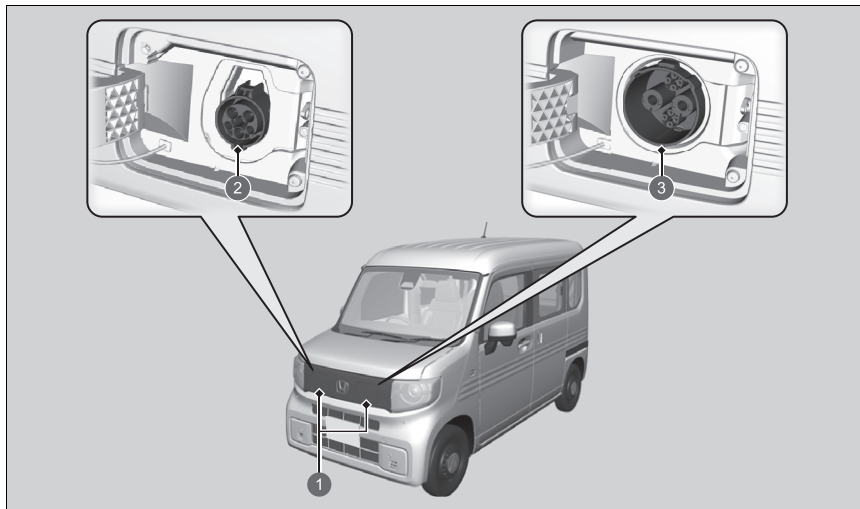
充電により、機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

アドバイス

車両カバーを装着したまま充電しないでください。

誤動作を引き起こしたり、車両や充電機器が故障する可能性があります。

充電口



- ① 充電リッド
- ② SAE-J1772 充電口(普通充電)
- ③ CHAdeMO 充電口(急速充電)*

※高電圧バッテリーの充電方法

アドバイス

充電リッドが氷結して開かない場合は、ぬるま湯をかけて氷を溶かし、水分を十分にふき取ってから、充電リッドを開けてください。

充電ケーブルに、汚れや水滴が付着している場合は、乾いたきれいな布で拭き取ってください。水洗いやケミカル類を使用しての掃除は行わないでください。

充電口とコネクターの金属部分が損傷や腐食している場合は、Honda 販売店にご相談ください。

充電機器の損傷を防ぐために、次の点に注意してください。

- 充電機器に強い衝撃をあたえない
- ケーブル部分を引っ張らない、ねじらない、折り曲げない、踏みつけない、引きずらない
- 充電機器は、ヒーターなどの温度が高くなるものに近づけたり、高温場所で保管や使用しない

❖ 高電圧バッテリーの充電方法

12V バッテリーが外されていると、充電はできません。12V バッテリーを接続したら、パワーシステムの起動、停止を行ってください。

その後、充電コネクタを再接続し、充電が開始されることを確認してください

❖ パワーシステムの起動 P.218

充電中に停電が発生したときは、電力が復旧して、充電システムが充電可能な状態になると自動的に充電が再開されます。

普通充電コネクタと急速充電コネクタを同時に接続しないでください。

両方を接続した場合は充電を停止します。

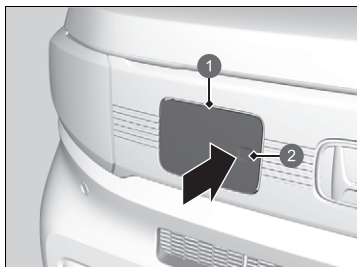
外気温が -20°C 以下の場合、高電圧バッテリーの充電が開始されないことがあります。

充電中は、電磁波によるノイズのために、ラジオが聞こえなくなることがあります。

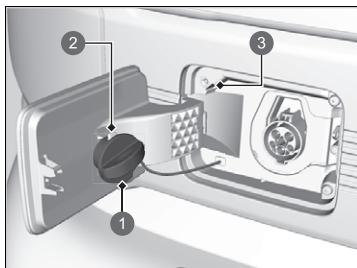
下り坂を走行するときは回生エネルギーによって充電されるため、満充電付近になると回生ブレーキの効きが低下することがあります。

そのため山や丘など高いところで充電する場合は満充電を避けてください。

普通充電



- ① 充電リッド
- ② プッシュマーク



- ① 充電口キャップ
- ② ホルダー
- ③ 充電口照明※1

※1：充電インジケーター装備車

1. パワーモードが OFF モードになっていることを確認する。
2. 運転席ドアを解錠する。
▶ 車の外側の充電リッドが解錠されません。
3. 充電リッド右端のプッシュマークを「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
▶ リッドが少し浮き上がります。
4. 充電リッドを開け充電口キャップを抜き取る。
▶ 充電口照明が一定時間点灯します。※1
5. 充電口キャップをホルダーにかける。

普通充電

推奨の充電ケーブル(別売)のご購入や取り扱い、Honda 販売店にご相談ください。

充電を行うには専用のコンセントが必要です。また、漏電遮断器付コンセントを使用することをおすすめします。

充電機器に付属の指示と安全上の注意事項に必ず従ってください。

充電コネクターを差し込んだら、ゆっくりと手前に引いて抜けないことを確認し、しっかりと差し込んでください。

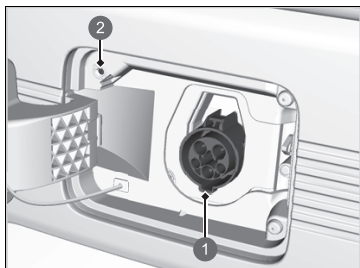
- 充電コネクターは充電口に斜めに差し込まない
- 充電コネクターを差し込む際は、上下に動かさない

満充電付近になると充電される速度が遅くなります。

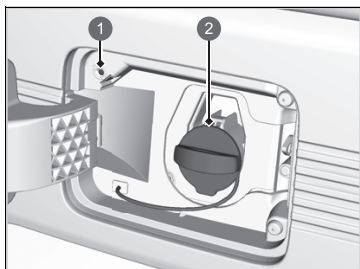
また高電圧バッテリーの温度が低いときは充電される速度が遅くなったり満充電にならないことがあります。

充電を途中でやめたいときは、充電コネクターを抜き取ってください。

充電は自動的に中止されます。



- ① 充電口
- ② 充電インジケータ※1



- ① 充電インジケータ※1
- ② 充電口キャップ

6. 充電コネクタを充電口に差し込む。

- ▶ 充電インジケータ(ホワイト)の点滅が停止し、充電インジケータ(ブルー)がスワイプ(連鎖点灯)します。※1

■充電が完了したとき

1. 充電コネクタロック解除ボタンを押しながらかき取る。
2. 充電口キャップをしっかりと取り付け、充電リッドを閉める。

※普通充電

充電インジケータ非装備車

充電状態は、充電器側の表示灯などで確認してください。

充電が開始されない、または充電が途中で停止する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

※充電が完了したとき

充電インジケータ装備車

充電が完了すると、充電インジケータ(ブルー)のスワイプ(連鎖点灯)が停止し、約15秒後充電インジケータが消灯します。

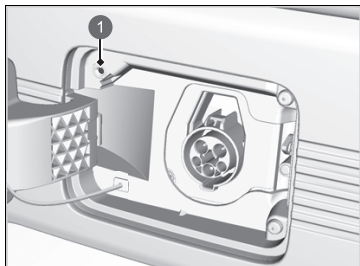
※1：充電インジケータ装備車

■ 普通充電が開始されないとき

充電コネクタが接続されていても充電が開始されない場合は、以下をご確認ください。

充電が開始されない理由	操作方法(対処方法)
充電コネクタが正しく接続されていない	充電口からコネクタを外し、充電口から「カチッ」という音になるまで、差し込んでください。
車両が故障している	インフォメーションディスプレイ* またはマルチインフォメーションディスプレイ* を確認してください。
12Vバッテリー電圧が低下している	12Vのバッテリーを充電、もしくは交換してください。
パワーモードがONモードになっている	パワーモードをアクセサリモードまたはOFFモードにする。
高電圧バッテリーが低温になっている	高電圧バッテリーの保護のため充電を制限しています。けん引などで暖かい場所へ移動し、高電圧バッテリーの温度があがると充電できるようになります。
タイマー充電で充電を行う時間を設定している	すぐに充電を開始したい場合は、充電コネクタを再接続して充電コネクタのロック解除ボタンを長押しすると、充電が開始されます。

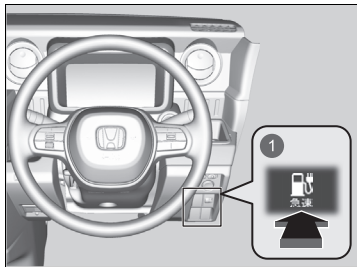
■ 充電インジケータ(普通充電)*



充電インジケータは高電圧バッテリーの充電状態を表示します。

① 充電インジケータ

充電インジケータの状況	車の状態
ゆっくり点滅(ホワイト)	<ul style="list-style-type: none"> 充電待機状態のとき
スワイプ(連鎖点灯)(ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> 充電をしているとき
点灯(ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> 充電が終了したとき
1回点滅(ブルー)	<ul style="list-style-type: none"> 充電が終了し、バッテリー加温システムが作動しているとき
点滅(レッド)	<ul style="list-style-type: none"> 充電システムが異常のとき ▶ 充電は開始されません。
点灯(レッド)	<ul style="list-style-type: none"> 充電コネクタが正しく接続されていないとき ▶ 接続の際は、充電コネクタが傾かないよう奥側に突き当たるまで差し込んでください。
点灯(ホワイト)	<ul style="list-style-type: none"> 充電機器の停止操作をしたとき タイマー充電が停止したとき

急速充電***① 充電リッドオープンスイッチ**

1. パワーモードが OFF モードになっていることを確認する。
2. 充電リッドオープンスイッチを長押しする。
▶ 充電リッドが開きます。

※急速充電***アドバイス**

必ずこの車に対応した急速充電器を使用してください。

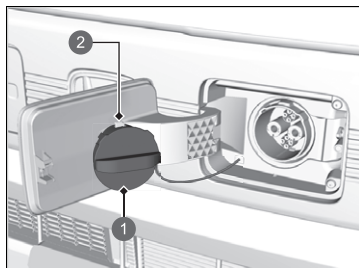
対応していない充電器を使用すると、故障の原因になります。

故障時は Honda 販売店にご相談ください。

30メートルをこえる充電ケーブルは使用しないでください。

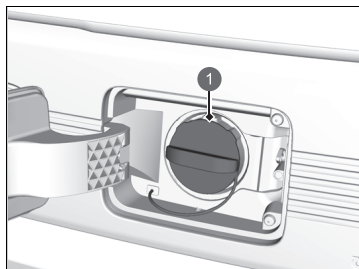
ここでは急速充電の手順の一例を説明しており、急速充電器の種類によっては手順が異なる場合があります。必ず急速充電器本体に表示された手順をご確認ください。

間違った操作を行うと、車両または急速充電器を破損するおそれがあります。



- ① 充電口キャップ
- ②ホルダー

- 3. 充電口キャップを抜き取る。
- 4. 充電口キャップをホルダーにかける。
- 5. 急速充電器に表示されている手順に従って、充電を開始する。



- ① 充電口キャップ

■充電が完了したとき

充電コネクターを充電口から取り外す。

- ▶ 充電完了後は充電口キャップをはめてから充電リッドを閉めます。

※急速充電*

CHAdeMO(チャデモ)仕様の急速充電器が使用できます。CHAdeMOとは、CHAdeMO協議会が標準規格として提案する急速充電器の商標名です。

急速充電中に、エアコンやアクセサリを使用すると充電時間が長くなる、もしくは充電が完了しない場合があります。急速充電器の仕様(最大出力/電流や制限時間)によっては、充電時間が長くなる、もしくは途中で充電終了する場合があります。

充電中は急速充電コネクターを外すことはできません。外す必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクターを外すことができます。

充電中、充電器に表示される残充電時間、高電圧バッテリーの残量、充電電流等の値は実際の値とは異なる場合があります。

急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、充電用駐車スペースからすみやかに移動してください。

■ 急速充電ができない

充電が開始されない理由	操作方法(対処方法)
普通充電コネクタが接続されている	普通充電コネクタを外してください。
急速充電コネクタが正しく接続されていない	急速充電コネクタを正しく接続してください。
すでに満充電付近まで充電されている	すでに満充電付近まで充電されている場合は、充電が行われません。
急速充電器が充電できない状態になっている	<ul style="list-style-type: none"> 急速充電器の電源が ON になっていることを確認してください。 急速充電器が正常であることを表示で確認してください。 ※：表示内容は急速充電器ごとによって異なります。
車両が故障している	インフォメーションディスプレイ* またはマルチインフォメーションディスプレイ*を確認してください。
12V バッテリー電圧が低下している	12V バッテリーを充電、もしくは交換してください。 ▶ 対応後は、パワーシステムの起動、停止を行ってください。その後、充電コネクタを再接続し、充電が開始されることを確認してください。
高電圧バッテリーが低温になっている	高電圧バッテリーの保護のため充電を制限しています。けん引などで暖かい場所へ移動し、高電圧バッテリーの温度があがると充電できるようになります。

高電圧バッテリーの特性

車を使用しない期間が続くと高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。このため、長期間駐車をすると高電圧バッテリーの充電量は低下します。充電量が低い状態で放置するとバッテリー寿命を縮める原因になります。バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度充電してください。またバッテリーの寿命を長くするために、走行直前にのみ満充電にすることをおすすめします。

高電圧バッテリーの寿命は温度にも影響されます。極端な高温または低温下での駐車は、高電圧バッテリーの消耗を加速させます。

高電圧バッテリーの温度が高温または低温のときは、充電にかかる時間が通常より長くなります。また温度が低いときは、航続可能距離が短くなります。

高電圧バッテリーの温度が高温または低温の状態になると、出力が制限される場合があります。高電圧バッテリーの温度が適正な温度に戻ると、出力は元に戻ります。出力が元に戻らないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

■バッテリー加温システム

外気温が低いときに充電コネクターを接続している場合は、バッテリー加温システムにより、始動性能や走行性能を維持するために高電圧バッテリーを加温します。

充電コネクターを接続したままでしばらく車両を使用しない日が続くと、バッテリー加温システムは停止します。

※高電圧バッテリーの特性

高電圧バッテリーは時間の経過や使用状況により蓄電能力が低下します。蓄電能力の低下に伴い航続可能距離が短くなります。

※バッテリー加温システム

高電圧バッテリーの温度が -25°C 以下になると、パワーシステムは起動できません。高電圧バッテリーの温度が極端に低下した場合で、バッテリー加温システムが作動する場合は高電圧バッテリーが温まるのを待ち、作動しない場合は、けん引などで車両を暖かい場所に移動させてください。

バッテリー加温システムは、12V バッテリーを外した状態では作動しないため、システムの起動ができません。したがって、寒い場所で駐車、または保管する場合は、12V バッテリーを外さないことをお勧めします。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について	344
メンテナンスを安全に行うために	345
メンテナンスに関する注意事項	346
ボンネット内のメンテナンス	
ボンネット内のメンテナンス項目	347
ボンネットを開ける	348
ウィンドウォッシャー液の補給	350
電球の交換	351
ワイパーブレードラバーの点検と整備	361
タイヤの点検と整備	
タイヤの点検	365
タイヤとホイールの交換	367
タイヤのローテーション	368
冬期のタイヤ	369
Honda スマートキー	
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換	370
エアコンのお手入れ	
エアクリーンフィルター*	373
清掃	
車内の清掃	374
車外の清掃	377
アクセサリーと改造	379

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・充電時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- ボンネット内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車についての安全事項

- ボンネット内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
 - ▶ 車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしても冷却ファンが作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、ボンネット内の部品を十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、パワーシステムを起動させないでください。

⚠️メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

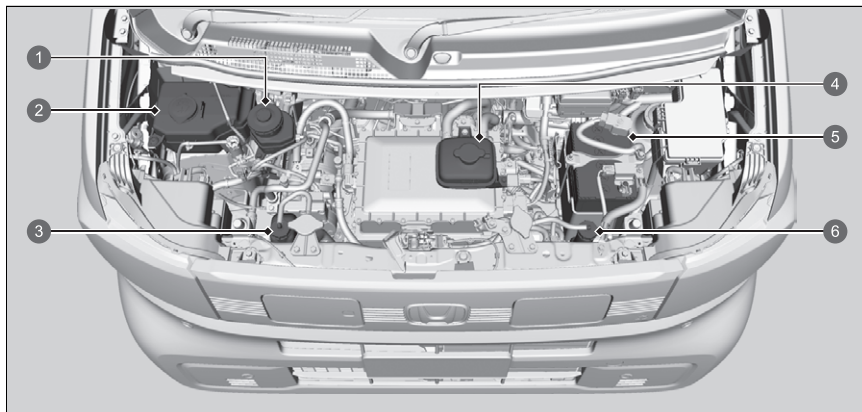
メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

ボンネット内のメンテナンス

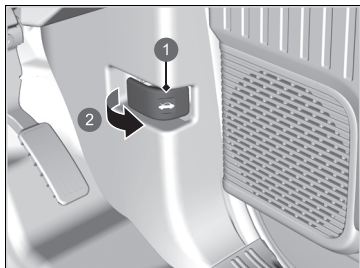
ボンネット内のメンテナンス項目



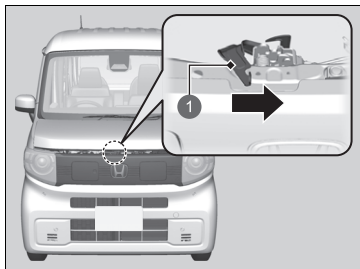
- ① ブレーキフルードリザーブタンク※
- ② ウィンドウォッシャー液注入口
- ③ 高電圧システム冷却水タンク A※
- ④ エアコン冷却水タンク※
- ⑤ 12V バッテリー※
- ⑥ 高電圧システム冷却水タンク B※

※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



- ① ボンネット解除ノブ
- ② 引く



- ① レバー

- 1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
- 2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
 - ▶ ボンネットが少し浮き上がります。

- 3. ボンネット中央のレバーを右に押し、ロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

☒ ボンネットを開ける



注意

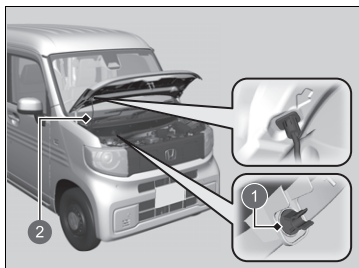
ボンネットを閉めるときは、手などはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。



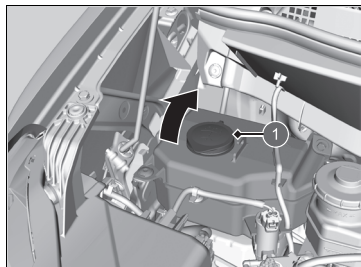
- ① クランプ
- ② ステー

4. ステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



① キャップ

減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

❏ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

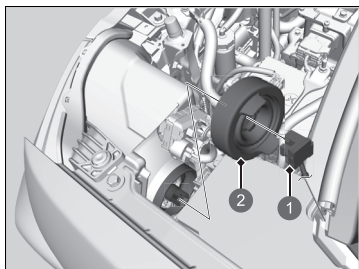
冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

■ハロゲンヘッドライト*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ/ロービームハロゲンヘッドライト：12V-60/55W



- ① カプラー
- ② ゴムカバー

1. カプラーを抜き取る。
2. ゴムカバーを取り外す。

※ハロゲンヘッドライト*

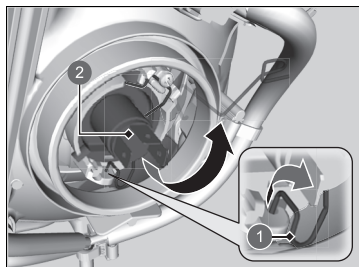
アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

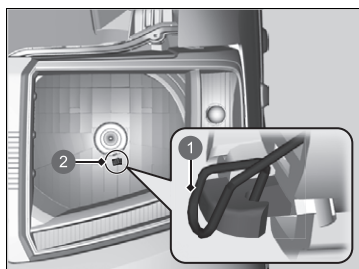
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



- ① 止め金
- ② 電球

- 3. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
- 4. 新しい電球を取り付ける。



- ① 止め金
- ② 確認窓

- 5. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
- ▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
- 6. カプラーを取り付ける。

■ LED ヘッドライト*

点検、交換は、必ず Honda 販売店に依頼してください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

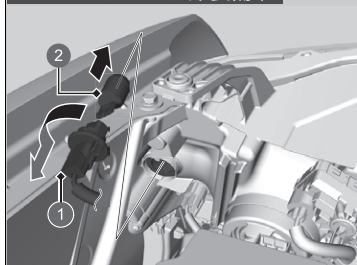
LED ヘッドライト非装備車

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)

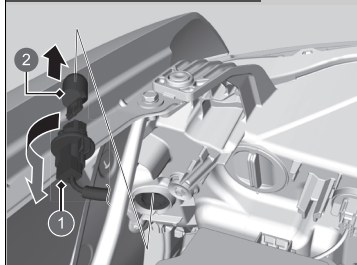
LED ヘッドライト装備車

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W

LED ヘッドライト非装備車



LED ヘッドライト装備車



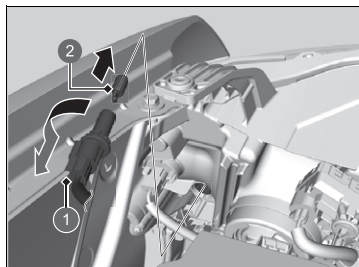
1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

- ① ソケット
- ② 電球

車幅灯電球*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V-5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

① ソケット

② 電球

アクセサリライト / 車幅灯電球*

アクセサリライト / 車幅灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

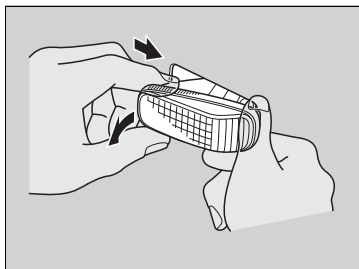
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

Honda スマートキーシステム非装備車

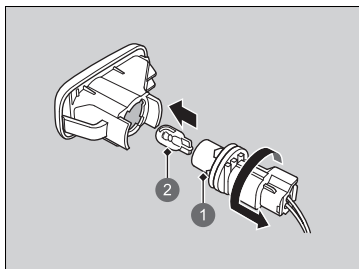
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V-5W

Honda スマートキーシステム装備車

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V-5W(橙色)



1. ランプ本体を後方にずらして取り外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

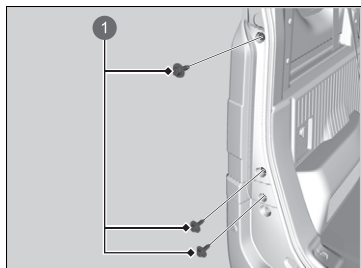
① ソケット

② 電球

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球、後退灯電球

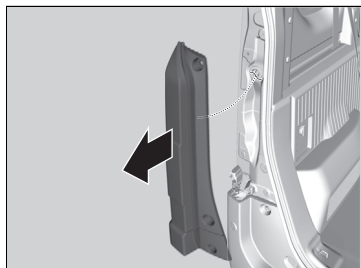
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-21W(橙色)
後退灯	: 12V-16W

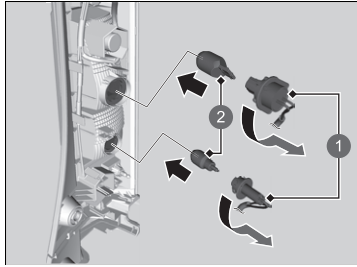


1. ネジを外す。

① ネジ



2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

- ① ソケット
- ② 電球

制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

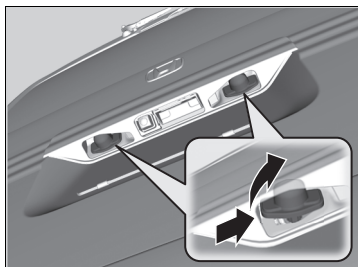
ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

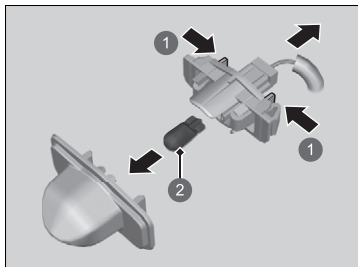
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V-5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。

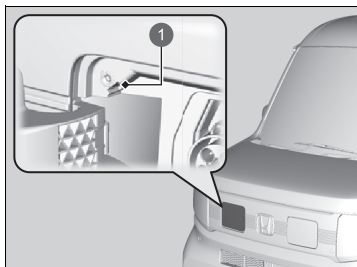


2. ツメを押してカバーを外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

- 1 ツメ
- 2 電球

充電口照明電球*

充電口照明は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。



① 充電口照明

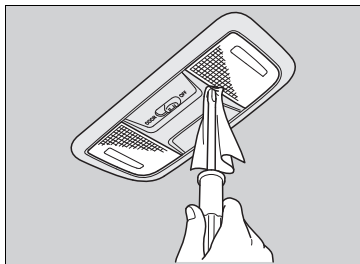
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

その他の電球

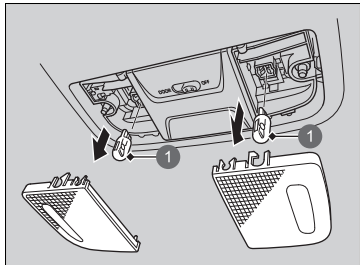
■ マップランプ電球*

下記の電球をご使用ください。

マップランプ：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

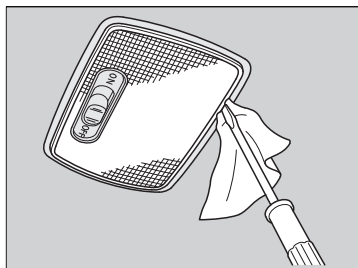


- ① 電球
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

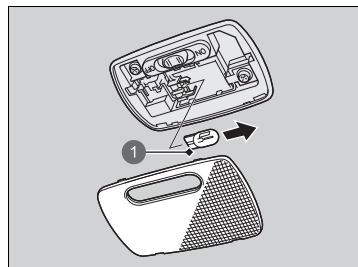
■ 室内灯 / カーゴスペース照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯 / カーゴスペース照明灯：
12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



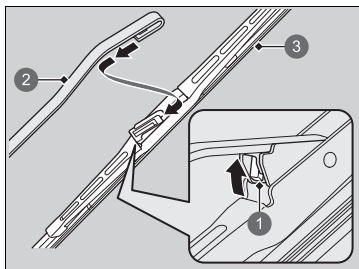
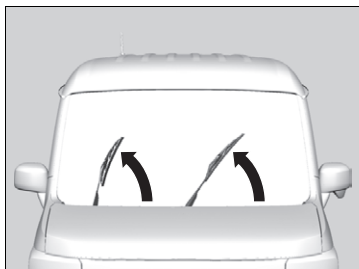
- ① 電球
2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードドラバーの点検と整備

ワイパーブレードドラバーの点検

ワイパーブレードドラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードドラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードドラバーの交換



- ① ノブ
- ② アーム
- ③ ブレード

1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。

2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

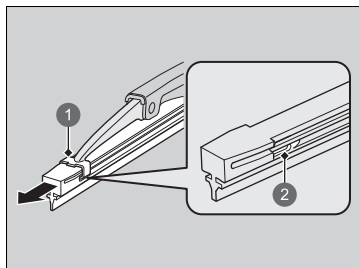
※フロントワイパーブレードドラバーの交換

アドバイス

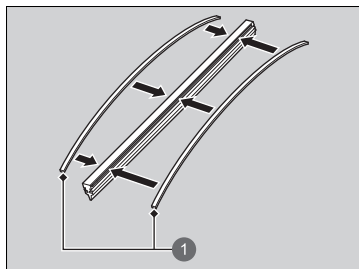
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



- ① ツメ
- ② ストッパー



- ① リテーナー

3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

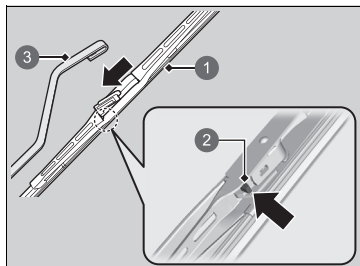
5. ラバーをブレードの端から差し込む。

▶ 正しく固定されているか確認してください。

6. ブレードをワイパーアームに取り付ける。

7. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

リヤワイパーブレードドラバーの交換*



- ① ブレード
- ② ノブ
- ③ アーム

1. ワイパーアームを持ち上げる。

2. 図のようにブレード下部からノブを押し上げ、保持したままアームからブレードをスライドさせて外す。その後、アームをゆっくりと戻す。

▶ ワイパーアームやリヤガラスを傷付けないよう、ワイパーアーム先端に布などを巻き付けてください。

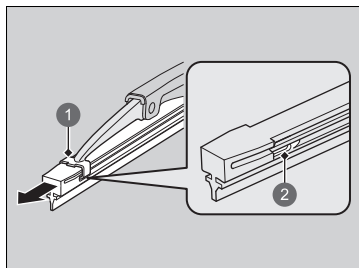
※リヤワイパーブレードドラバーの交換*

アドバイス

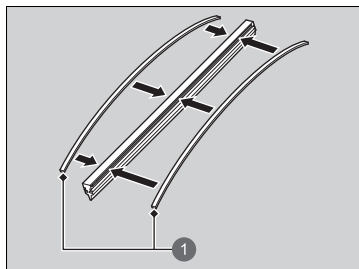
ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



- ① ツメ
- ② ストッパー



- ① リテーナー

3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

5. ラバーをブレードの端から差し込む。

▶ 正しく固定されているか確認してください。

6. ブレードをワイパーアームに取り付ける。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

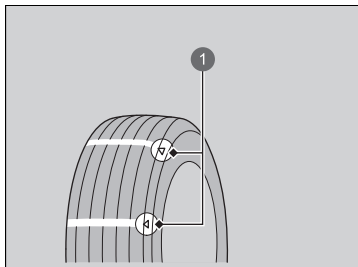
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

▶仕様 P.427

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



- ① ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

▶▶ タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にはない場合は、車のラベルをご覧ください。

ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。

サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠️ タイヤとホイールの交換



警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

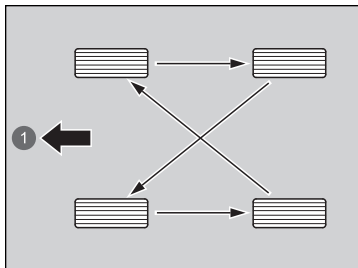
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。

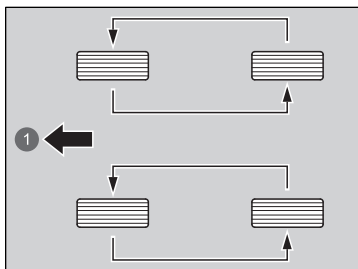
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



① 前

■回転指示マークがあるタイヤの場合



① 前

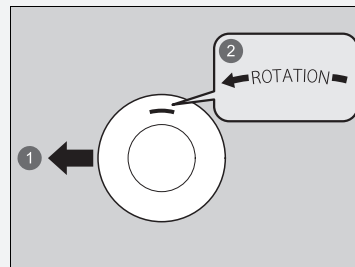
図のように、タイヤをローテーションさせます。

図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、**タイヤ回転指示マーク**があります。

図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



① 前

② 回転指示マークの代表例

締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

❖冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

電池切れの場合、急アクセル抑制機能* が起動しない場合があります。

※ 取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

※ 電池交換のしかた



警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

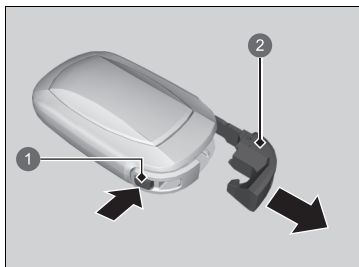
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。



- ① ボタン
- ② 内蔵キー

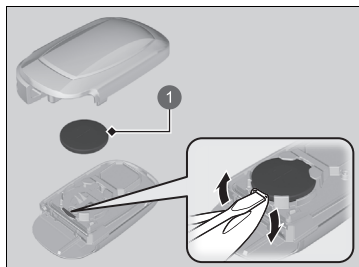


ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。

2. ボタンを下にしてカバーを外す。

- ▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
- ▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。



① 電池

3. 電池を取り外す。

▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。

4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

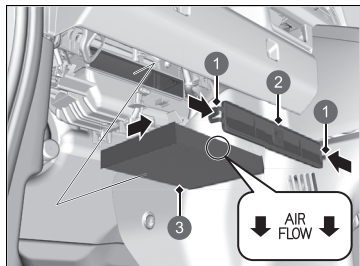
エアコンのお手入れ

エアクリンフィルター*

■エアクリンフィルターの交換時期

エアクリンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

■エアクリンフィルターの交換



- ① ツメ
- ② カバー
- ③ エアクリンフィルター

※エアクリンフィルター*

エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。

室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

スライドドアの内側にある端子には、ケミカル類等を付着させないでください。

故障の原因になります。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ スーパーUVカット/IRカットドアガラス*のお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)の車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

※ ガラスのお手入れ

フロントガラスは、ガラスの内側にアンテナ線が装着されています。

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。

傷付けないうち、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

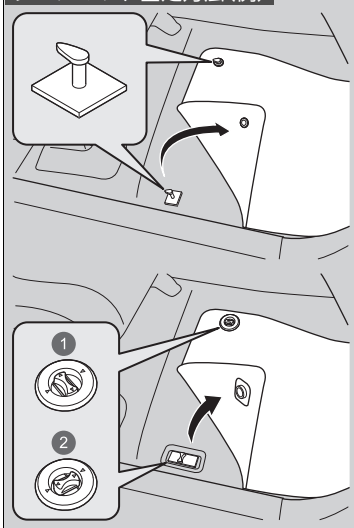
※ スーパーUVカット/IRカットドアガラス*のお手入れ

UVカット膜やIRカット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

フロアマット

フロアマット固定方法(例)



- 1 解錠
- 2 固定

運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

※フロアマット

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。

後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する

高圧洗浄機を使うとき

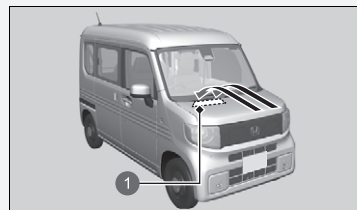
- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
 - ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラ* やカメラ周辺には、直接水をかけない
 - ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。
- 高電圧システム部品が配置されているボンネットの下に水をかけないでください。故障の原因になります。
- 充電口 / 給電口に直接水をかけないでください。

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※洗車について

故意にボンネット内や空気取り入れ口に水をかけないでください。

電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



① 空気取り入れ口

洗車するときは、運転席ドア(普通充電リッド)を施錠してください。

普通充電リッド付近に水をかけると普通充電リッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。

ブレーキが濡れたまま駐車しておく、錆びて張り付くことがあります。

■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

※アクセサリーと改造

警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。

適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。

それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

☒ アクセサリーと改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。



HONDA
GENUINE PARTS

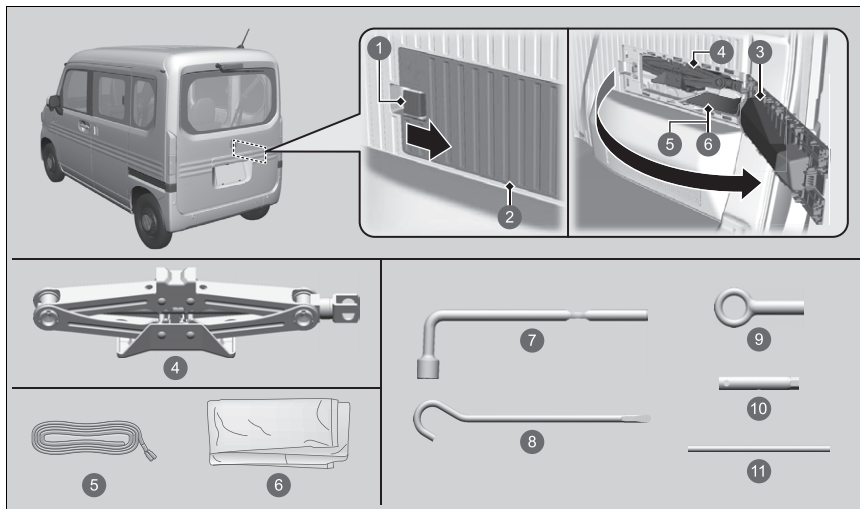
お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....	382	けん引.....	422
パンクしたとき.....	384	充電リッドが開かないとき.....	423
パワーシステムが起動しない		テールゲートが開かないとき.....	424
パワーシステムの確認.....	398		
Honda スマートキーの電池が切れたと き.....	400		
緊急時のパワーシステム起動方法.....	401		
緊急時のパワーシステム停止方法.....	402		
12V バッテリーがあがったとき.....	403		
警告灯の点灯 / 点滅.....	406		
ヒューズ			
ヒューズの設置場所.....	414		
ヒューズの点検と交換.....	419		

工具の種類



- ① ノブ
- ② リッド
- ③ 工具袋
- ④ ジャッキ
- ⑤ パンクタイヤ固定ベルト
- ⑥ パンクタイヤ収納袋

- ⑦ ホイールナットレンチ
(兼ジャッキハンドル)
- ⑧ ジャッキハンドルバー
- ⑨ アイボルト
- ⑩ ボックスレンチ
- ⑪ レンチシャフト

工具の種類

工具はカーゴスペース内に収納されています。

リッドを取り外す際は、ノブを車両後方に引いてリッド前方部を外してから取り外してください。

ジャッキ非装備車

アイボルトは運転席のシートバックポケットに収納されています。
アイボルト以外の工具は標準で搭載されていません。
アイボルト以外の工具を使用する場合はHonda 販売店にご相談ください。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

☒ 発炎筒 P.2

☒ 発炎筒

警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、応急用スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

■ 走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを **P** にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

※ パンクしたタイヤの交換

スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことをお守りください。

応急用スペアタイヤの空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
指定空気圧：420kPa(4.2kgf/cm²)

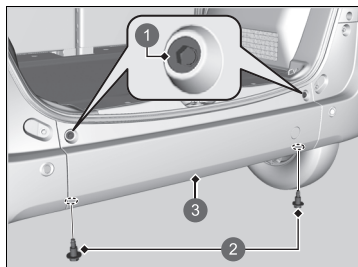
応急用スペアタイヤを装着したときは、80km/h 以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

同時に複数の応急用スペアタイヤを装着して運転をしないでください。

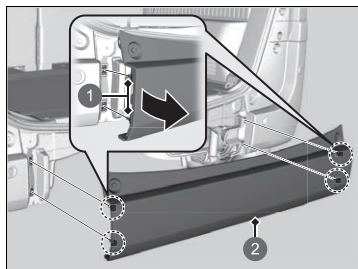
応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。

他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。

タイヤ交換の準備



- ① ボルト A
- ② ボルト B
- ③ バンパーリッド



- ① クリップ
- ② バンパーリッド

1. ボックスレンチとレンチシャフトを使って上側のボルト A をゆるめ、下側のボルト B を外す。

- ▶ 誤って他のボルトを外さないようにしてください。
- ▶ ボルト A は、ゆるめることは出来ますが、バンパーリッドからは外れません。

2. バンパーリッドの下側を持ち、手前に引いて外す。

ⓧタイヤ交換の準備

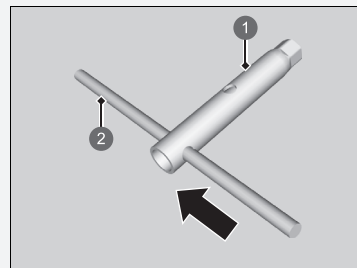


注意

取り外しや収納するときに手などをはさまないように注意する。

固定ボルトをゆるめすぎない。

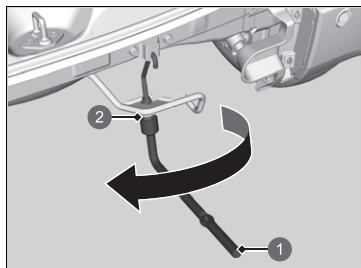
キャリアが落下して足などにけがをするおそれがあります。



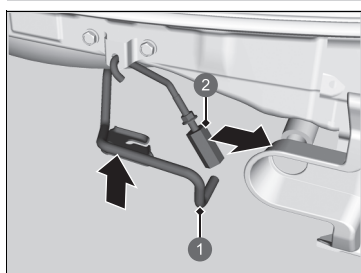
- ① ボックスレンチ
- ② レンチシャフト

ボックスレンチとレンチシャフトを図のように組み合わせて使用してください。

外したボルトは、バンパーリッドを取り付ける際に必要ですので、なくさないように保管してください。



- ① ホイールナットレンチ
- ② 固定ボルト



- ① キャリア
- ② 固定ボルト

- 3. ホイールナットレンチを使用して、固定ボルトをゆるめる。

- 4. キャリアを持ち上げながら、固定ボルトを右にずらしキャリアから外す。

▶▶タイヤ交換の準備

パンクしたタイヤは、キャリアに収納できません。

▶▶ジャッキ装備車

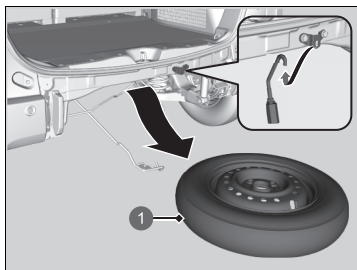
付属のパンクタイヤ収納袋に入れて、固定ベルトでカーゴフロアのフックに固定してください。

▶▶パンクしたタイヤの収納* P.396

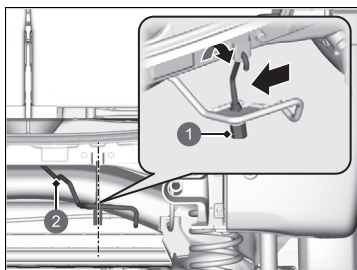
▶▶共通

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。

チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪を前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。



① スペアタイヤ



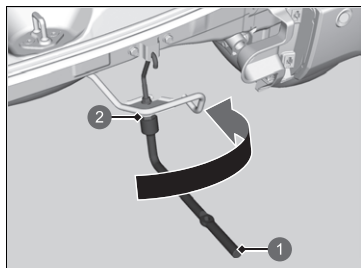
① 固定ボルト

② キャリア

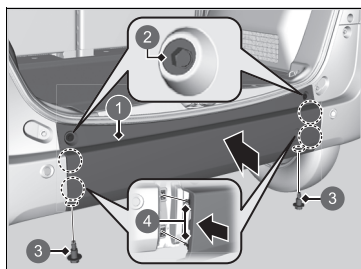
5. 固定ボルトを車体から外し、スペアタイヤを引き出す。

6. 固定ボルトを車体に引っかけてから固定ボルトをキャリアにかける。

▶ 固定ボルトをキャリアにかけたときに、固定ボルトが地面に対して垂直になるようにしてください。



- ① ホイールナットレンチ
- ② 固定ボルト



- ① バンパーリッド
- ② ボルト A
- ③ ボルト B
- ④ クリップ

7. ホイールナットレンチで、ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締め付ける。

8. バンパーリッドを戻し、ボックスレンチとレンチシャフトを使ってボルト A とボルト B を締め付ける。
- ▶ボルト A とボルト B を締め付ける前にバンパーリッドのクリップがしっかりはまっていることを確認してください。

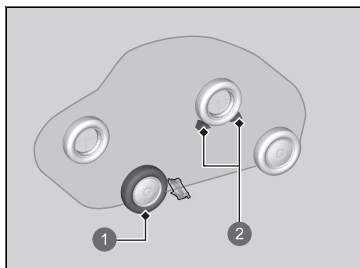
⊠タイヤ交換の準備



注意

取り付け後は、確実に固定されていることを確認する。

ゆるみ等により取り付けが不安定な場合、走行中に外れて思わぬ事故の原因となります。



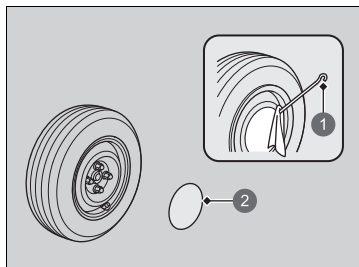
- ① 交換タイヤ
- ② 輪留め

9. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

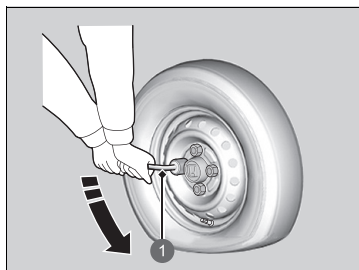


- ① スペアタイヤ

10. 応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。



- ① ジャッキハンドルバー
- ② ホイールカバー



- ① ホイールナットレンチ

ホイールカバー装備車

11. ジャッキハンドルバーの先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。
 - ▶ ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーに布などを巻き付けてください。
 - ▶ ホイールカバーを取り外すときは、地面に落ちて傷が付かないよう、手で支えてください。

共通

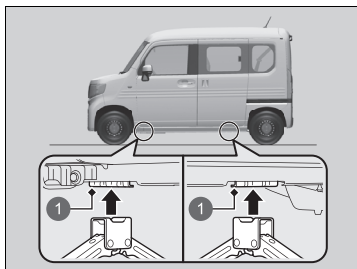
12. ホイールナットをホイールナットレンチで約1回転ゆるめる。

※タイヤ交換の準備

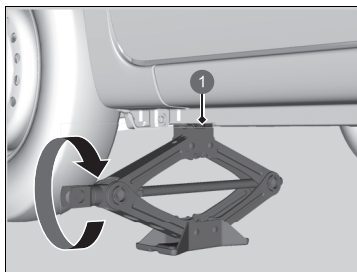
⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などはさまないように十分注意する。

ジャッキのかけかた



① ジャッキポイント



① ジャッキポイント

1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分に矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

※ジャッキのかけかた

警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

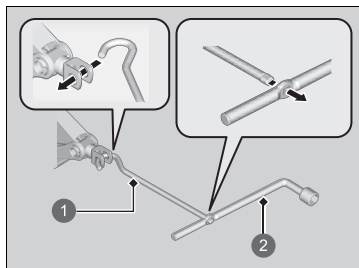
注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



- ① ジャッキハンドルバー
- ② ジャッキハンドル

3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

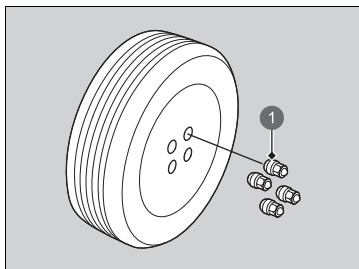
※ジャッキのかけかた

ジャッキ非装備車

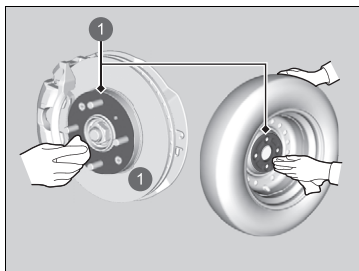
ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

■タイヤの交換



① ホイールナット



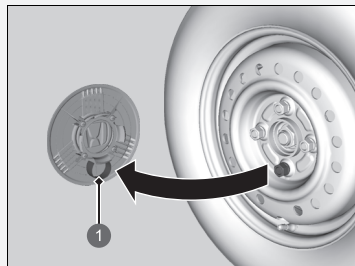
① ホイールの接触面

1. ホイールナットを外し、タイヤを外す。

2. ホイールの接触面を拭き取る。

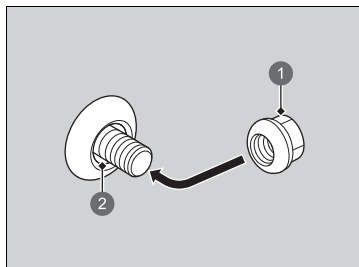
☒タイヤの交換

ホイールカバー装備車

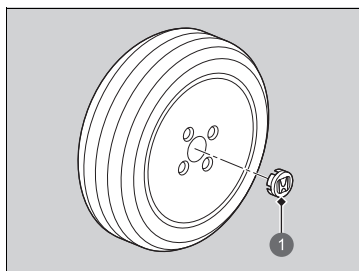


① 位置決め部

ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールカバー裏側の位置決め部の中にホイールナットが収まるように合わせて押し込んで下さい。



- ① ホイールナット
- ② ホイール穴のシート部



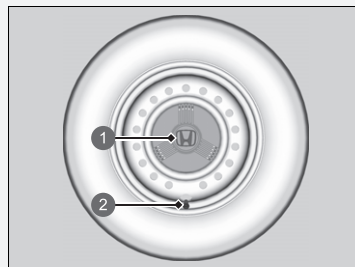
- ① センターキャップ*

- 3. 応急用スペアタイヤを取り付ける。
- 4. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。

- 5. センターキャップ* を付けかえる。

※タイヤの交換

ホイールカバー装備車

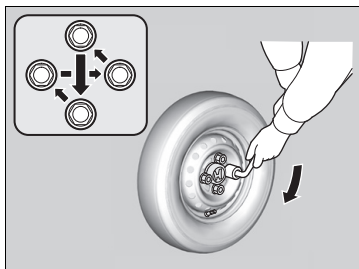


- ① マーク
- ② バルブ

ホイールカバーのホンダマーク下にタイヤバルブがくるように組み付けると、位置決め部がホイールナットに収まる位置となります。

共通

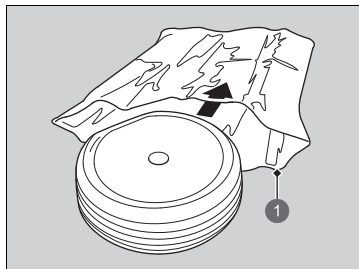
レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。



6. ジャッキをおろし、左図の順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

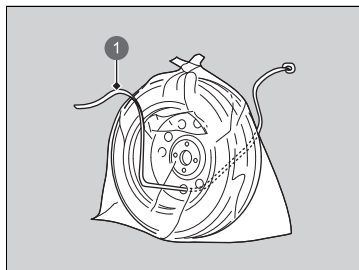
締め付けトルク 98～118N・m
(10.0～12.0kgf・m)

■パンクしたタイヤの収納*



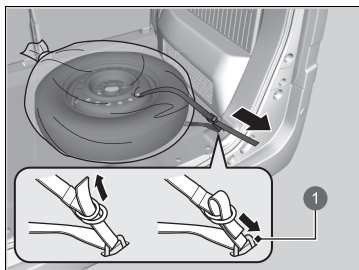
1. パンクタイヤ収納袋にタイヤを入れ、収納袋の上端を縛る。

① パンクタイヤ収納袋



2. 袋に穴を開けてベルトをホイールの穴に通す。

① ベルト



① カーゴフック

3. ベルトをカーゴフロアのカーゴフックに通す。
4. ベルトをリングに通し、ベルトを引いて締め付ける。

パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯が警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 「充電コネクタ が接続されています」と表示される インフォメーションディスプレイ装備車 充電 / 給電コネクタ 接続警告灯が点灯した	充電コネクタを取りはずしてください。 パワーモードをアクセサリモードにしてから、ON にします。
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 「充電残量低下 出力が制限されます」と表示される	高電圧バッテリーを充電してください。 ➡ 普通充電 P.335 ➡ 急速充電* P.339
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 「外気温が低いために起動できません パワーモードを OFF にしてお待ちください」と表示される	ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」と表示される ▶ Honda スマートキーの作動範囲を確認します。	➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.400
	マルチインフォメーションディスプレイ装備車 トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション異常 停車時はパーキングブレーキを確実にかけてください」とメッセージが表示されているとき	➡ トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した P.410
	インフォメーションディスプレイ装備車 トランスミッション警告灯とパーキングブレーキ表示灯が同時に点灯した	➡ トランスミッション警告灯とパーキングブレーキ表示灯が同時に点灯した P.411
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。

項目	状況	対処のしかた
パワーシステム起動の手順 を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。	☞ パワーシステムの起動 P.218
イモビライザーシステム表 示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	☞ イモビライザーシステム P.140 ☞ イモビライザーシステム表示灯 P.82
ヒューズを確認する	ヒューズが切れている	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ☞ ヒューズの点検と交換 P.419

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

☞ **ジャンプスタートの方法** P.403

状況によっては、緊急時のパワーシステム起動方法を行うことで、一時的にパワーシステムを起動することができます。

☞ **緊急時のパワーシステム起動方法** P.401

Honda スマートキーの電池が切れたとき

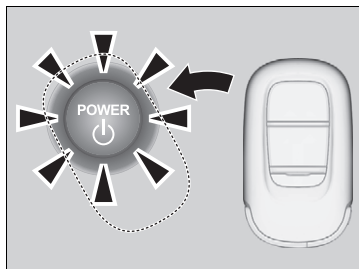
マルチインフォメーションディスプレイ 装備車

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーのHondaエンブレムでスイッチに触れてください」とメッセージが表示されるか、**POWER** が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。

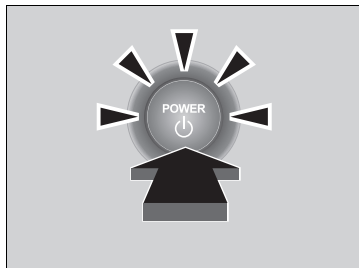
以下の手順でパワーシステムを起動してください。

インフォメーションディスプレイ 装備車

POWER によるパワーモードの操作やパワーシステムの起動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. **POWER** を押す。
▶ ブザーが鳴り、**POWER** が約30秒間点滅します。
2. **POWER** が点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ ブザーが鳴り、**POWER** が約 10 秒間点灯します。
3. **POWER** が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**POWER** を押す。
▶ READY 表示灯が点灯します。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。



緊急時のパワーシステム起動方法

通常のパワーシステムの起動方法で、パワーシステムが起動しない場合は、次の操作でパワーシステムが起動する場合があります。

緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. シフトポジションが **P** であることを確認し、パワーモードをアクセサリモードにする。
3. ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、**POWER** を約15秒以上押し続ける。

上記の操作でパワーシステムが起動できてもシステムの異常が考えられます。ただちに Honda 販売店で点検をうけてください。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。

パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください：

- **POWER** を約 2 秒間押す。
- **POWER** を連続して 3 回押す。

このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。

車が停止すると、自動的にシフトポジションが **P** になり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時のパワーシステム停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に

POWER を押さないでください。

走行中に **POWER** を押すとブザーが鳴ります。

12V バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法

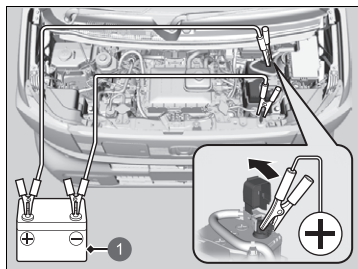
処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、外れないように確実に固定してください。

また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



① 救援車のバッテリー

1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう 1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。

※ジャンプスタートの方法



警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

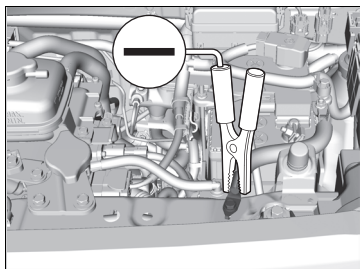
アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。

パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。



5. ケーブルの反対側を、自車の図の位置に接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

■ システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車の図の位置からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

※ ジャンプスタートの方法

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルを図の位置以外に接続しないでください。

12V バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

※システム起動後の作業

 **警告**

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

12Vバッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

※12V バッテリー充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

ブレーキ性能が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにごすること

速度を落として注意して運転してください。

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

インフォメーションディスプレイ装備車

ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点滅した



■点滅の理由

ブレーキ性能が低下すると点滅します。

■点灯したらすぐにごすること

速度を落として注意して運転してください。

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、回生ブレーキを用いて減速を手助けするために **B** に入れてください。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。

EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS システムが異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。
その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

マルチインフォメーションディスプレイ 装備車

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由

トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

☒トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

☒ 非常時のけん引 P.422

インフォメーションディスプレイ装備車

トランスミッション警告灯とパーキングブレーキ表示灯が同時に点灯した



■点灯の理由

トランスミッションが故障すると点灯します。



■点灯したらすること

ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

☒トランスミッション警告灯とパーキングブレーキ表示灯が同時に点灯した

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

☒ **非常時のけん引** P.422

マルチインフォメーションディスプレイ 装備車

「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された

■表示の理由

高電圧バッテリーで熱異常が生じている可能性があるとき、いずれかのメッセージが表示されます。メッセージの内容に従い対処し、Honda 販売店にご連絡ください。



高電圧バッテリー熱異常
安全な場所に停車し
車外へ退避してください



高電圧バッテリー熱異常
パーキングブレーキをかけて
車外へ退避してください



高電圧バッテリー熱異常
車外へ退避してください

※「高電圧バッテリー熱異常」のメッセージが表示された



警告

車に近づかない。

有害な煙が発生することがあります。
煙が発生しなくなっても、しばらくすると
また発生することがあります。

インフォメーションディスプレイ装備車

高電圧バッテリー熱異常警告灯が点灯 / 点滅した

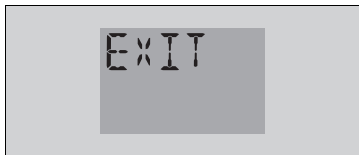


■点灯 / 点滅の理由

高電圧バッテリーで熱異常が生じている可能性があるときに点灯します。

同時に以下のいずれかの警告灯 / 表示灯が点灯 / 点滅し、インフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

ただちに安全な場所に停車してください。



パーキングブレーキをかけてください。

ただちに車外へ退避し、Honda 販売店にご連絡ください。

※高電圧バッテリー熱異常警告灯が点灯 / 点滅した



警告

車に近づかない。

有害な煙が発生することがあります。

煙が発生しなくなっても、しばらくするとまた発生することがあります。

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、ボンネット内と室内のヒューズボックスに入っています。

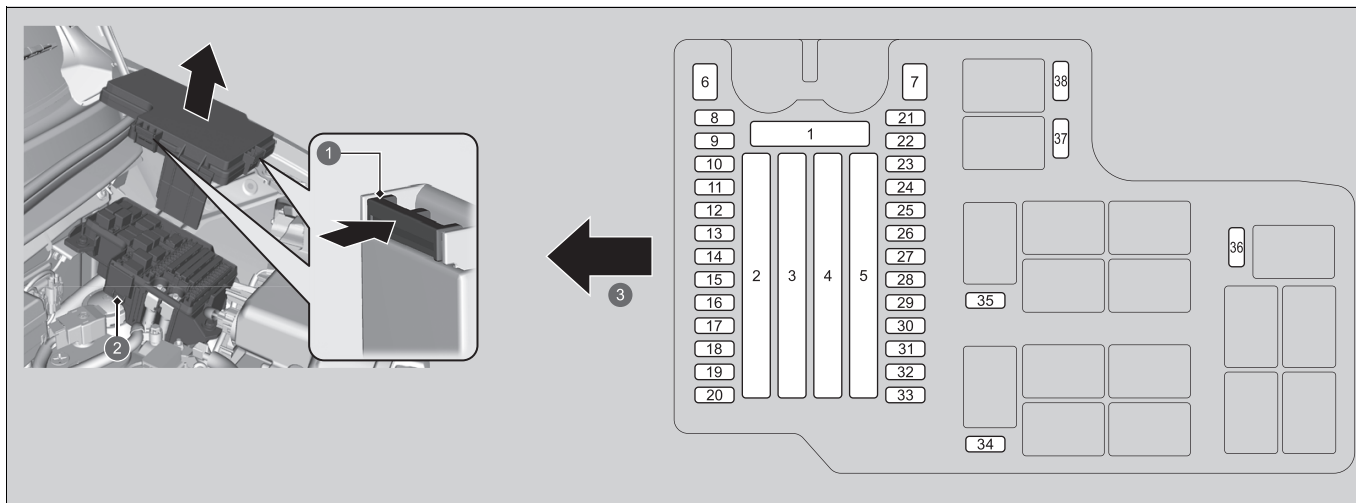
■ ボンネット内のヒューズボックス

ボンネット内の 12V バッテリーの隣にあります。

タブを押して開けてください。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。

表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



- ① タブ
- ② ヒューズボックス
- ③ 車両前方

■各ヒューズの装備と容量

	装備	容量
1	メインヒューズ	125A
	—	40A
	—	40A
2	—	40A
	—	40A
	ヒーターモーター	30A
	—	40A
	—	30A
3	—	30A
	—	30A
	—	70A
	サブファン	30A
	—	40A
	—	30A
	ヒューズボックスメイン	60A
	—	40A
	ABS/VSA モーター	40A
	ヒューズボックスメイン 2	40A
4	電動サーボブレーキ	40A
	—	30A
	—	40A
	リレーモジュール 2	30A

	装備	容量
5	—	30A
	メインファン	30A
	EPS	40A
	リレーモジュール 1	30A
	—	50A
6	—	40A
	イグニッションメイン	40A
7	—	—
8	バックアップ	15A
9	リヤアクセサリーソケット (カーゴエリア)*	20A
	—	—
10	—	—
11	A/C メイン	10A
12	ECH/ECOMP	10A
13	リヤデフロスター	20A
14	EWV ES	10A
15	—	—
16	ECHES	10A
17	オーディオ*	15A
18	V2L*	10A
19	充電リッドアクチュエーター	10A
20	バッテリーIR	10A
21	ワイパー	20A
22	ドライブコントロール	10A
23	OBC	10A

	装備	容量
24	非常点滅表示灯	10A
25	ECU	7.5A
26	EWPEES	20A
27	IGB	10A
28	—	—
29	制動灯	10A
30	IGDTWP	20A
31	—	—
32	IGD*	10A
33	ABS/VSA FSR	20A
34	—	—
35	IGB	7.5A
36	—	—
37	—	—
38	—	—

万
一
の
場
合
に
は

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■各ヒューズの装備と容量

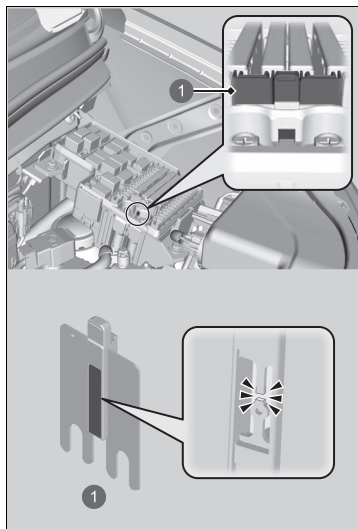
	装備	容量
1	—	—
2	—	—
3	ウォッシャー	10A
4	SRS	10A
5	運転席パワーウィンドー	15A
6	—	—
7	助手席パワーウィンドー	15A
8	—	—
9	Honda スマートキーシステム	7.5A
10	シフトバイワイヤー	7.5A
11	E-LATCH	7.5A
12	—	—
13	—	—
14	フロントアクセサリーソケット (フロントコンソール)	20A
15	ACC	5A
16	USB チャージャー*	7.5A
17	IMG	10A
18	—	—
19	—	—
20	SRS	10A
21	VSA	10A
22	後退灯	5A

	装備	容量
23	運転席シートヒーター*	10A
24	オプション	10A
25	—	—
26	—	—
27	電動ドアミラー*	7.5A
28	エアコン	7.5A
29	—	—
30	ドアロックモーター1 (アンロック)	15A
31	—	—
32	ドアロックモーター2 (アンロック)	15A
33	—	—
34	—	—
35	ドアロックモーター2 (ロック)	15A
36	ドアロックモーター1 (ロック)	15A
37	FI(EM)	10A
38	ED	7.5A
39	リヤワイパー*	10A
40	フロントワイパー	7.5A
41	メーター	7.5A
42	—	—
43	—	—

万
一
の
場
合
に
は

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換



① メインヒューズ

1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. ボンネット内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. 図の位置からメインヒューズを点検する。
 - ▶ ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

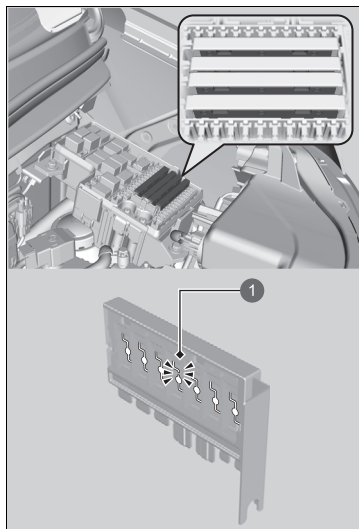
❏ ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ ヒューズの設置場所 P.414

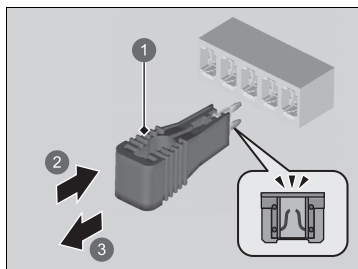


4. メインヒューズ以外の大きいヒューズを点検する。

▶ ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

① 切れているヒューズ

万
一
の
場
合
に
は



- ① ヒューズプラー
- ② 取り付ける
- ③ 外す

5. ボンネット内と、室内の小さいヒューズを点検する。

- ▶ 切れているヒューズがあったら、市販のヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。

けん引は専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

※非常時のけん引

アドバイス

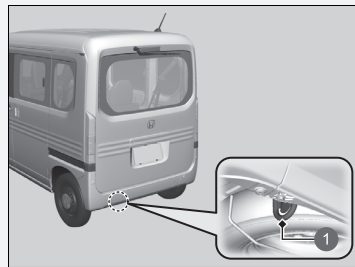
バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

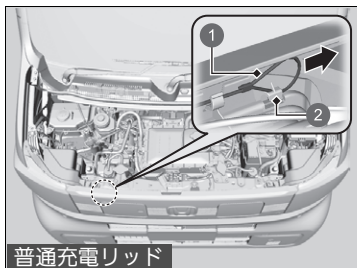


① フック

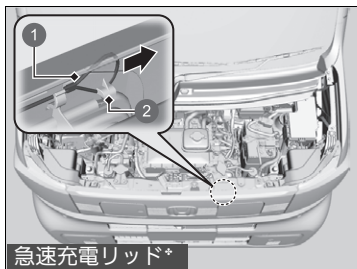
充電リッドが開かないとき

開かないときの対処方法

万一、充電リッドが開かなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



- 1 解錠ケーブル
- 2 フック



- 1 解錠ケーブル*
- 2 フック*

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

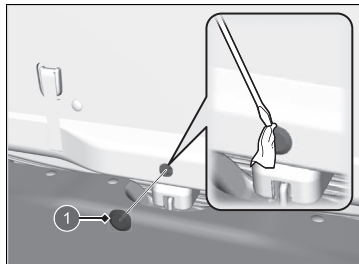
※開かないときの対処方法

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

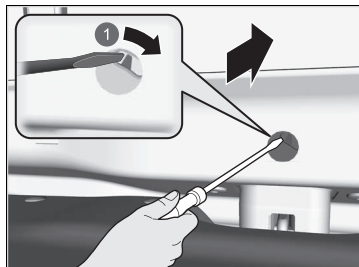
テールゲートが開かないとき

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



① キャップ



① 解錠

1. テールゲートのキャップに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ キャップが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。

Honda スマートキーシステム装備車

2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

※開かないときの対処方法

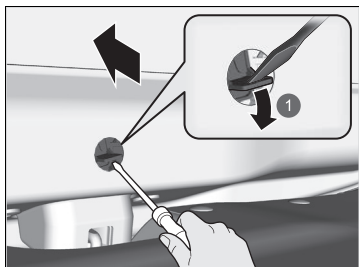
Honda スマートキーシステム装備車

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをすることがあります。

共通

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。



① 解錠

Honda スマートキーシステム非装備車

2. マイナスドライバーを使ってレバーを下に動かし、テールゲートを解錠する。
3. テールゲートを開ける。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様	427
オープンソースライセンス	430



仕様

■仕様

名称	NVAN
車体形状	バン
乗車定員 ^{※1}	

※1：乗車定員については、「自動車検査証」を参照してください。

■走行用モーター

型式	MCF7
----	------

■確認

ブレーキペダル 遊び	8.9-17.2mm
床板とのすき間	126mm以上 {約196N(20kgf)の力}
パーキング ブレーキ 踏みしろ	5～7ノッチ {約294N(30kgf)の力}

■12Vバッテリー

容量/タイプ	32AH(5)、40AH(20)/44B19L
--------	-------------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5L
-------	------

■電球

ヘッドライト(ハイ/ロービーム)	LED ^{※1} 12V-60/55W ^{※2}
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	12V-21W ^{※1} 12V-21W(橙色) ^{※2}
車幅灯/アクセサリライト ^{※1}	LED
車幅灯 ^{※2}	12V-5W
充電口照明 [※]	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	12V-5W(橙色) ^{※1} 12V-5W ^{※2}
制動灯/尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	12V-21W(橙色)
後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	12V-5W
室内灯/マップランプ*	12V-8W
/パワーウィンドースイッチ照明灯*	LED
カーゴスペース照明灯*	12V-8W

※1：助手席サンバイザー装備車

※2：助手席サンバイザー非装備車

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3またはDOT4
-----	---------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Castrol ON EV Transmission Fluid D1	0.68L(交換時)
-----	--	------------

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラeクーラント
規定濃度	50%

エアコン

0.84L
(交換時：エアコン冷却水タンク0.45L含む)

IPU

規定量 2.35L
(交換時：高電圧システム冷却水タンクA
0.41L含む)

ドライブユニット

0.90L
(交換時：高電圧システム冷却水タンクB
0.38L含む)

■最大積載量

助手席非装備車

350kg

助手席装備車

300kg(2名乗車時)

150kg(4名乗車時)

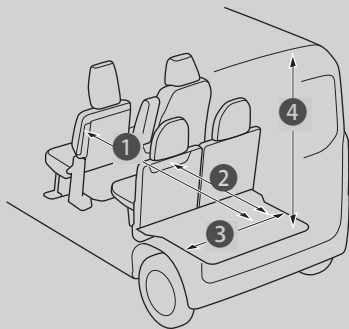
■タイヤ

標準 タイヤ	サイズ	145/80R13 82/80NLT
	空気圧	前輪 300(3.0) 後輪 350(3.5)
スペア タイヤ	リムサイズ	13×4.00B
	サイズ	T115/90D13 87M
空気圧	空気圧	420(4.2)
	リムサイズ	13×3.50B

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

■ カーゴスペース寸法図

- ① : 1,345mm^{※1} (運転席側)
1,420mm^{※2} (助手席側)
- ② : 725mm^{※2}
- ③ : 905mm
- ④ : 1,370mm



※1 : フロントシートが一番後ろで背もたれが最も立った状態の寸法です。

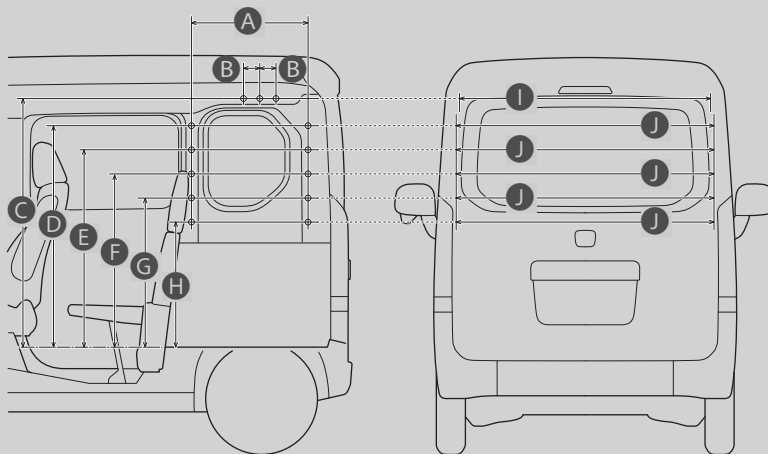
※2 : 助手席、リヤシートの背もたれが最も立った状態の寸法です。

☒ 仕様

寸法値は目安です。取り付ける物の寸法と車の寸法を必ず確認して取り付けてください。

■ユーティリティーナット配置図

- A : 563mm
- B : 80mm
- C : 1,199mm
- D : 1,067mm
- E : 949mm
- F : 830mm
- G : 712mm
- H : 593mm
- I : 1,189mm
- J : 1,231mm



オープンソースライセンス

メーター オープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

TCU オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報

この製品は、Free/Open Source Software (FOSS) を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照下さい。
<https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/>

数字

12Vバッテリー	
容量/タイプ	427
12Vバッテリーがあがったとき	403
12Vバッテリー充電警告灯	69, 406

A

A/C(エアコン)	202, 373
ABS(アンチロックブレーキシステム)	320
ABS警告灯	72, 320
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)	
ACC警告灯	74
ACC表示灯	84

C

CHAdemo充電口	333
CMBS(衝突軽減ブレーキ)の ON/OFF	95, 239
CMBS(衝突軽減ブレーキ)	236
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯	75
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯	85

E

ECONスイッチ	229
EPS(電動パワーステアリング)システム 警告灯	71, 409

H

Honda SENSING	20, 233
Hondaスマートキー	123, 126
Honda スマートキーシステム警告灯	74
Hondaスマートキー持ち去り警告	146
POWERスイッチ	144
緊急時のパワーシステム起動方法	401
緊急時のパワーシステム停止方法	402
電池交換のしかた	370

I

IPU冷却水	427
--------	-----

L

LKAS(車線維持支援システム)	293
車線維持支援システム(LKAS)警告灯	74
車線維持支援システム(LKAS)表示灯	84

M

MIST	155
------	-----

P

POWERスイッチ	144
-----------	-----

R

RDM(路外逸脱抑制機能)のON/OFF	95, 260
READY表示灯	84

S

SAE-J1772充電口	333
SRSエアバッグ	42
エアバッグシステム警告灯	50, 72

T

TRIPノブ	93
--------	----

U

USBジャック	191
---------	-----

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	231
VSA OFF警告灯	72, 232
VSA警告灯	72, 232

W

W(ワット数)	427
---------	-----

ア			
アームレスト	182	安全なドライブのために	29
明るさ設定	108	安全に関する表示	26
アクセサリ	379	安全のための確認事項	29
アクセサリソケット	190	アンチロックブレーキシステム(ABS)	320
アクセサリライト	150, 354	ABS警告灯	72, 320
アダプティブクルーズコントロール (ACC)	273	アンテナ	
アダプティブクルーズコントロール(ACC) 表示灯(ホワイト/グリーン)	84	マイクロアンテナ	213
アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)表示	91	イ	
安全運転支援機能	20, 233	イモビライザーシステム	140
安全支援情報	106	表示灯	82
安全支援情報警告灯(オレンジ)	78, 79	インフォメーションディスプレイ	92
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー)	86	表示の切り換えかた	93
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯	75	インフォメーションディスプレイの メッセージ	87
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ)	75	インフォメーション表示灯	84
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯	85	ウ	
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	85	ウインカースイッチ(方向指示器)	147
路外逸脱抑制機能警告灯	76	ウィンドウォッシャー	
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	76	ウィンドウォッシャー液の補給	350
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止 警告灯	76	ウィンドウォッシャースイッチ	155
路外逸脱抑制機能表示灯	86	ウィンドウの開閉	142, 143
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	86	ウェアインジケーター	366
		運転	
		シフト操作	224
		パワーシステムの起動	218
		ブレーキ操作	318
		エ	
		エアコン	202, 373
		エアクリンフィルター	373
		エアコンの使いかた	203
		デフロスター	157, 205
		窓の曇りや霜の取りかた	205
		モード切り換えスイッチ	203
		冷却水	427
		エアバッグ	42
		SRSエアバッグ	42
		エアバッグシステム警告灯	50, 72
		エアバッグのお手入れ	51
		サイドエアバッグ	45
		サイドカーテンエアバッグ	48
		エマージェンシーストップシグナル	322
		オ	
		オートハイビーム警告灯(オレンジ)	73
		オートライトコントロール警告灯	73
		オーディオ	105
		オーディオ装置	213
		オートエアコン	203
		オートハイビーム	152
		オートハイビーム表示灯(グリーン)	80
		オープンソースライセンス	430
		オドメーター	89, 94

カ

カーゴスペース照明灯	184
電球の交換	360
外気温表示	90
外部給電	
外部給電のしかた	207
外部給電の使用可能時間	96
鍵(かぎ)	123
隔壁バー	174
カメラ警告灯	77
カレンダー	108

キ

キー	123
Hondaスマートキー	126
Hondaスマートキーの電池が切れたとき	400
解錠してもドアが開かない	24
キー閉じ込み防止装置	132
キーナンバータグ	125
キーの種類と機能	123
キーレスエントリー	130
電池交換のしかた	370
内蔵キー	125
キー閉じ込み防止装置	132
キーナンバータグ	125
キーレスエントリー	130

急アクセル抑制機能	251
急速充電	339
給電	207
パワーサブライコネクター	196

ク

空気圧	427
空気圧測定器による点検	366
クリーブ現象	223
クルーズコントロール表示灯(ホワイト/グリーン)	85
車の改造	380

ケ

経過時間表示	104
計器	63
警告灯	66
12Vバッテリー充電警告灯	69, 406
ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	72, 320
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	71, 409
Honda スマートキーシステム警告灯	74
Honda スマートキー電池消耗警告灯	79
Honda スマートキー持ち去り警告灯	79
VSA OFF警告灯	72, 232
VSA(ピークルスタビリティアシスト)警告灯	72, 232

アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	74
安全支援情報警告灯(オレンジ)	78, 79
エアバッグシステム警告灯	50, 72
オートハイビーム警告灯(オレンジ)	73
オートライトコントロール警告灯	73
カメラ警告灯	77
高電圧バッテリー高温警告灯(レッド)	68
高電圧バッテリー熱異常警告灯	67, 413
シートベルト非着用警告灯	32, 71
車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	74
車両接近通報システム警告灯	74
充電/給電コネクター接続警告灯	69
充電残量警告灯(オレンジ)	69
充電リッド開警告灯	69
出力制限警告灯	68
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯	75
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	75
走行継続不可警告灯	67
ドア/テールゲート開閉警告灯	73
トランスミッション警告灯	70, 410, 411
パーキングセンサー警告灯	73
パワーシステム警告灯	68
ブレーキ警告灯(レッド)	66, 408
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	67, 407
リヤシートベルト非着用警告灯	72

路外逸脱抑制機能警告灯	76
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	76
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	76
警告メッセージ	109
高電圧バッテリー熱異常	412
トランスミッション異常	410, 411
ブレーキ性能低下	407
ケーブルフック	189
けん引	422

コ

交換

カーゴスペース照明灯電球	360
後退灯電球	356
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球	356
室内灯電球	360
車幅灯電球	354
充電口照明電球	359
制動灯/尾灯電球	357
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球	353
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球	355
ハイマウントストップランプ電球	357
番号灯電球	358
ヒューズ	414
ヘッドライト電球	351

マップランプ電球	360
ワイパーブレードラバー	361, 363
工具	382
航続可能距離	95, 99
後退灯	356
高電圧バッテリー	342
高電圧バッテリー温度計	105
高電圧バッテリー高温警告灯(レッド)	68
高電圧バッテリー残量計	88
高電圧バッテリー熱異常警告灯	67, 413
高電圧バッテリーの充電	330
高電圧バッテリーの充電の準備	330
高電圧バッテリーの充電方法	332
後方誤発進抑制機能	246
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	356
誤発進抑制機能	246

サ

サイドアンダーミラー	162
サイドエアバッグ	45
サイドカーテンエアバッグ	48
残充電時間	96
サンバイザー	3

シ

シートの調節	163
アームレスト	182
フロントシート	163

ヘッドレスト	180
リヤシート	175
シートヒーター	192
シートベルト	31
シートベルトのアンカーポイント	40
シートベルトの着用	35
シートベルトの点検	39
シートベルト非着用警告灯	32, 71
シートベルトプリテンショナー	34
シートベルトリマインダー	32
全席シートベルト	106
妊娠中のかたのシートベルトの着用のかた	38
リヤシートベルト非着用警告灯	72
時刻/日付の設定	119
室内灯	183, 184
シフト操作	224
シフトポジション	224
シフトポジションP選択表示灯	83
シフトポジション表示灯	83
車外の清掃	377
車線維持支援システム(LKAS)	293
車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	74
車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/グリーン)	84
車速/経過時間/トリップメーター	103
ジャッキ	391

ジャッキハンドル (ホイールナットレンチ).....	386, 388, 392
ジャッキハンドルバー.....	392
車内の清掃.....	374
車幅灯.....	354
車両接近通報システム警告灯.....	74
車両接近通報装置.....	230
車両データの記録について.....	26
ジャンプスタート.....	403
充電.....	330
急速充電.....	339
充電残量警告(オレンジ)灯.....	69
普通充電.....	335
充電/給電コネクタ接続警告灯.....	69
充電インジケータ.....	201, 338
充電口.....	333
充電口照明電球.....	359
充電リッド.....	
充電リッドが開かないとき.....	423
充電リッド開警告灯.....	69
収納装備.....	185
出力制限警告灯.....	68
瞬間電費表示.....	101
仕様.....	427
衝撃感知ドアロック解除システム.....	134
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報表示灯.....	85
衝突軽減ブレーキ(CMBS).....	236
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯.....	75

衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯 (オレンジ).....	75
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯.....	85
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー).....	85
衝突後ブレーキシステム.....	52
衝突後ブレーキシステムについて.....	52
シンプル.....	99

ス

スイッチ	
TRIPノブ.....	93
ヘッドライトレベリングダイヤル.....	151
スイッチ操作	
ECONスイッチ.....	229
POWERスイッチ.....	144
リヤデフロスタースイッチ.....	157
ワイパー/ウォッシャー.....	155
ステアリング.....	158
ステアリングスイッチ.....	234
スノータイヤ.....	369
スピードメーター.....	88
スライドドア.....	138

セ

清掃.....	374
制動灯.....	357

セキュリティシステム.....	140
イモビライザーシステム.....	140
セキュリティアラームシステム.....	140
先駆車発進お知らせ機能.....	304
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯.....	353

ソ

走行継続不可警告灯.....	67
走行用モーター.....	427
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯.....	355
ソナーセンサー.....	317
その他の室内装備品.....	190

タ

タイダウンフック.....	187
タイヤ.....	365
ウェアインジケータ.....	366
指定空気圧.....	427
スペアタイヤ.....	387
タイヤ角度モニター.....	117
タイヤの点検.....	365
タイヤのローテーション.....	368
冬期のタイヤ.....	369
パンク.....	384
タイヤチェーン.....	369

チ

チェーン	369
チャイルドシート	53
ジュニアシート	55
乳児のチャイルドシート	54
幼児のチャイルドシート	54
駐停車操作	323

テ

データの取り扱いについて	26
テールゲート	135
テールゲートの開閉	
テールゲートが開かないとき	424
デフロスター	205
リヤデフロスタースイッチ	157
電子制御ブレーキアシスト	321
電池交換	370
電話	105

ト

ドア/テールゲート開閉警告灯	73
ドアの施錠と解錠	123
Hondaスマートキー	126
解錠してもドアが開かない	24
キー閉じ込み防止装置	132
キーナンバータグ	125
キーの種類と機能	123

キーレスエントリーシステム	130
車外でのドアの施錠/解錠	127
車内でのドアの施錠/解錠	133
ドアミラー	160
冬期のタイヤ	369
スノータイヤ	369
タイヤチェーン	369
時計	91, 119
時計/車両設定	110
ドライブユニット冷却水	427
トラブルシューティング	
12Vバッテリーがあがったとき	403
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	24
解錠してもドアが開かない	24
警告灯が点灯/点滅した	406
けん引してもらいたい	422
走行するとブザーが鳴る	25
パワーシステムが起動しない	398
パンクした	384
ヒューズが切れた	414
ブレーキを踏むと音がする	25
ブレーキを踏むと振動する	24
トランスミッション	223
トランスミッション警告灯	70, 410, 411
トランスミッションフルード	427
トリップメーター	94, 101
ドリンクホルダー	185

ナ

内蔵キー	125
ナビゲーション	105

ハ

パーキングセンサーシステム	325
パーキングブレーキ	318
パーキングブレーキ踏み込み表示灯	83
ハイビーム	149
ハイビーム表示灯	80
ハイマウントストップランプ	357
発炎筒	383
バッテリー	
12Vバッテリーがあがったとき	403
12Vバッテリー充電警告灯	69, 406
高電圧バッテリー	342
高電圧バッテリー高温警告灯(レッド)	68
高電圧バッテリー熱異常警告灯	67, 413
充電/給電コネクター接続警告灯	69
充電リッド開警告灯	69
バッテリー加熱システム	342
パワーウィンドーの開閉	142
パワーサブライコネクター	196
パワーシステム警告灯	68
パワーシステムの起動	218
12Vバッテリーがあがったとき	403
パワーシステムが起動しない	398

パワーモード	
パワーモードオートオフ機能	145
パワーモード警告ブザー	145
パワーモードの切り換えかた	144
パンク	384
番号灯	358
ハンドル	158
ハンドル位置調節レバー	158
ヒ	
尾灯	357
ヒューズ	414
ヒューズの設置場所	414
ヒューズの点検と交換	419
標識認識機能	309
標識認識機能表示	91
表示灯	80
ECONモード表示灯	84
READY表示灯	84
アダプティブクルーズコントロール(ACC) 表示灯(ホワイト/グリーン)	84
安全支援情報表示灯(グリーン/グレー)	86
イモビライザーシステム表示灯	82
インフォメーション表示灯	84
オートハイビーム表示灯(グリーン)	80
急アクセル抑制機能表示灯	81

クルーズコントロール表示灯 (ホワイト/グリーン)	85
高電圧バッテリー低温表示灯(ブルー)	81
シフトポジションP選択表示灯	83
シフトポジション表示灯	83
車線維持支援システム(LKAS)表示灯 (ホワイト/グリーン)	84
衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報表示灯	85
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯	85
衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯 (グレー)	85
セキュリティアラームシステム作動 表示灯	82
パーキングブレーキ踏み込み表示灯	83
ハイビーム表示灯	80
ブレーキペダル踏み込み表示灯	83
方向指示器/非常点滅表示灯	80
ライト点灯表示灯	80
路外逸脱抑制機能表示灯	86
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	86
ピロー	177
フ	
ブースターケーブル	403
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	24
走行するとブザーが鳴る	25

普通充電	335
踏み間違い衝突軽減システム	246
ブレーキシステム	318
ABS(アンチロックブレーキシステム)	320
エマージェンシーストップシグナル	322
電子制御ブレーキアシスト	321
パーキングブレーキ	318
フットブレーキ	319
ブレーキ警告灯(レッド)	66, 408
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	67, 407
ブレーキを踏むと音がする	25
ブレーキを踏むと振動する	24
ブレーキフルード	427
ブレーキ警告灯(レッド)	66, 408
ブレーキシステム警告灯 (オレンジ)	67, 407
ブレーキペダル踏み込み表示灯	83
フロアボード	173
フロントシート	163
シートバックポケット	186
フロントシートアームレスト	182
フロントシートヘッドレスト	164, 180
フロントワイドビューカメラ	315

へ	
平均車速表示	104
平均電費表示	94, 101

ヘッドライト.....	378
オートハイビーム.....	152
電球の交換.....	351
ハイビーム表示灯.....	80
ライト点灯表示灯.....	80
ヘッドライトレベリングダイヤル.....	151
ヘッドレスト	
フロントシート.....	163, 180

ホ

ホイールサイズ.....	427
ホイールナットレンチ （ジャッキハンドル）.....	386, 388, 392
方向指示器（ウィンカー）	
方向指示器/非常点滅表示灯.....	80
方向指示器（ウィンカースイッチ）.....	147
歩行者事故低減ステアリング.....	265
ボンネット内のメンテナンス.....	347
ウインドウォッシャー液の補給.....	350
ボンネット内のメンテナンス項目.....	347
ボンネットを開ける.....	348

マ

マイクロアンテナ.....	213
マップランプ.....	184
電球の交換.....	360
マルチインフォメーションディスプレイ.....	97
表示の切り換えかた.....	97

ミ

ミラー.....	159
サイドアンダーミラー.....	162
ドアミラー.....	160
ルームミラー.....	159

メ

メーター.....	88
インフォメーションディスプレイ.....	92
オドメーター.....	89
外気温表示.....	90
スピードメーター.....	88
標識認識機能表示.....	91
マルチインフォメーションディスプレイ.....	97
メーター表示設定.....	109
メンテナンス.....	343
Hondaスマートキー.....	370
エアコンのお手入れ.....	373
清掃.....	374
タイヤの点検と整備.....	365
ボンネット内のメンテナンス.....	347
メンテナンスに関する注意事項.....	346
メンテナンスを安全に行うために.....	345
ライト類の点検と整備.....	351
ワイパーブレード/ラバーの点検と整備.....	361

モ

モード切り換え（エアコン）.....	203
--------------------	-----

ユ

ユーティリティーナット.....	193
------------------	-----

ラ

ライトスイッチ	
オートハイビーム.....	152
ハイビーム表示灯.....	80
ライト点灯表示灯.....	80
ライト類の点検と整備.....	351
カーゴスペース照明灯電球.....	360
後退灯電球.....	356
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯 電球.....	356
室内灯電球.....	360
車幅灯電球.....	354
充電口照明電球.....	359
制動灯/尾灯電球.....	357
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯 電球.....	353
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯 電球.....	355
ハイマウントストップランプ電球.....	357
番号灯電球.....	358
ヘッドライト電球.....	351
マップランプ電球.....	360

リ

リアシートリマインダー	179
リアワイドカメラシステム	329
リムサイズ	427
リヤシート	175
リヤデフロスタースイッチ	157

ル

ルームミラー	159
--------------	-----

レ

冷却水	427
-----------	-----

ロ

路外逸脱抑制機能	256
路外逸脱抑制機能警告灯	76
路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	76
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止 警告灯	76
路外逸脱抑制機能表示灯	86
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	86

ワ

ワイパー/ウォッシャー	155
-------------------	-----

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <https://www.honda.co.jp>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/>

※：QRコード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右のQRコードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010^{イフレイオ}

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、原動機の型式、車両番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名